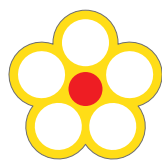


金沢市町会連合会

60周年記念誌

あした
未来へ向かう10年の歩み



金沢市町会連合会

表紙写真





金沢市町会連合会
会長 西野 茂

発刊のことば

金沢市町会連合会が結成から60年目の節目を迎え、さる11月には多くのご来賓のご臨席を賜り、町会関係者並びに地域活動に日々携わっていらっしゃる関係団体等の皆様のご出席とご協力をいただき、金沢市町会連合会60周年記念大会を盛大に開催できましたことに対しまして感謝を申し上げますとともに、記念誌発刊にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

私ども金沢市町会連合会の前身であります「金沢市連合町会長協議会」の結成が、昭和33年8月であります。結成の目的は、「連合町会長相互の親睦連携と地域社会の福祉増進により、明るい金沢市を築くために努力しよう」というものでありました。

手探りでスタートした協議会は、町会運営の指導や連絡調整に留まることなく、様々な社会的活動にも積極的に参画することとなります。その後、結成から5年後の昭和33年11月には、組織を発展的に解消し、新たに「金沢市町会連合会」として再スタートを切りました。

昭和42年10月には、関係者約800人が参加して、10周年記念大会が盛大に開催され、活動方針として「組織の強化充実と活動の促進」さらには「諸活動への全市民の参加」を掲げ、大会宣言では「大金沢市の飛躍的發展に寄与するため、強固なる基礎を確立するとともに、広く市民与論を反映し、諸運動の組織的実践に努め、新時代に適応した豊かな市民社会の建設、発展にまい進する」と、高らかに宣言し、満場の拍手により採択されたとの記録がございます。

金沢市町会連合会の「今」につながる「いしづえ」と「活動の根本」が、結成から創成期にかけての諸先輩方の熱い情熱と不断の努力によりかたち作られ、地域の皆様、そして行政ご当局はじめ全ての地域活動団体の皆様のご理解とご指導により、60周年に至る今日までの金沢市町会連合会の活動と実践の歴史を支えてきていただいたものと衷心より感謝と敬意を申し上げます。

現在、金沢市町会連合会は、全市62の校下地区町会連合会、1,360の単位町会で組織され、市民の皆様の生活の全てに深く関わりを持たせていただながら活動を展開しており、私どもの責任と果たすべき役割は、ますます重要となってきたと痛感しております。

地域にあって、その日々の生活において、住民同士の絆と信頼は不可欠であり、いざというときに一番頼りになるのは、やはり住民相互の助け合いの精神そして地域コミュニティの結束力だと、私は常々考えております。

幸いにして金沢市の町会活動は、市民一人ひとりの地域に対する強い愛着と自助共助といった自立と助け合いの精神に支えられ、全国に誇りうる輝かしい活動の歴史と実績を有しております。

地域活性化の一翼を担い今を生きる私ども金沢市町会連合会は、ふるさと金沢に根付いた地域コミュニティの輪と結束を大切に育て、さらに発展させていくよう時代の変化に即応しながら、60周年を契機として、さらに知恵を絞り、工夫を重ね、町会活動の充実強化に力を尽くし、未来に向かい、市民福祉の向上と市政発展に寄与して参る所存であります。

むすびに、今後とも、皆様方の変わらぬご支援ご協力をいただきますよう重ねてお願い申し上げますとともに、60周年記念誌発刊にあたりご協力いただいた関係各位に感謝を申し上げ挨拶とさせていただきます。



金沢市長

山野 之義

祝 辞

このたび、金沢市町会連合会が結成60周年の記念すべき節目を迎えられ、その輝かしい足跡を記念誌として発刊されますことに、心からお祝いを申し上げます。また、貴町会連合会が、結成から今日までの長きにわたって住民相互の連帯と融和のために献身的に取り組み、市勢の発展に尽くしてこられたことに、深く敬意を表します。

さて、本市は、平成27年3月の北陸新幹線の金沢開業によって、伝統と文化が薫る魅力あふれるまちとして、国内はもとより世界から多くの人が訪れ、これまで以上に活気づいております。一方で、来街者の増加により都市環境が悪化するなど、市民生活への影響が一部生じており、市としてもしっかりと検証しながら、対応をはじめているところであります。

また、視点をわが国に拡げてみましても、少子高齢化による社会の活力の衰退や東日本大震災を契機とした大規模災害への備え、持続可能な社会への転換など、対策を講じるべき課題が山積しております。

このような時代や環境の変化の中にあっても、安全で安心して暮らせるまちの維持と地域のより一層の発展には、町会をはじめとする地域の皆様のコミュニティの存在が不可欠です。

本市では、平成29年4月に「金沢市における地域コミュニティの活性化の推進に関する条例」を施行しました。今後はさらなる絆と温もりのある地域社会の実現を目指して、地域コミュニティの醸成と充実、市民協働をさらに進め、元気な地域づくりに取り組んでまいり所存です。

今後とも貴町会連合会の皆様方とともに市民一人ひとりの幸せを願い、手を携えながら、市勢の発展に向けて邁進してまいりたいと存じますので、なお一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

むすびに、金沢市町会連合会の益々のご発展と皆様方のご活躍ご健勝を心から祈念いたしまして、お祝いのことばといたします。



石川県知事
谷本 正憲

祝 辞

金沢市町会連合会が、このたび創立60周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴連合会におかれましては、昭和33年の結成以来、60年間の永きにわたり、地域の防犯活動や美化活動、運動会や文化祭といった地域のレクリエーション活動に至るまで、多岐にわたる町会活動に熱心に取り組んでこられたことに、深く敬意を表しますとともに、平素から行政と住民の橋渡し役として、ご尽力をいただいていることに、深く感謝申し上げます。

近年、単身世帯の増加や高齢化の進展に伴い、特に都市部において、隣近所のつきあいが減少し、地域のコミュニティ意識が低下しています。こうした中、皆様方が日々取り組まれている活動は、住みよい地域づくりに寄与するのみならず、日頃接点の無い「人」と「人」とを結びつけ、お互いの「助け合い」の気持ちを育むことにより、地域社会の絆を深めることに大いに貢献しているところです。

こうした、地域活動を通じて育まれた「地域の絆」は、災害の際の自助・共助の原動力ともなっているところです。平成20年7月に発生した浅野川の氾濫の際にも、町会の皆様方がリーダーシップを発揮し、行政や民生委員の方々と協力しながら、独り暮らしの高齢者や障害のある皆さんの安否確認に奔走されたとお聞きをしています。地域の絆が避難誘導や安否確認などをスムーズに行うことにつながり、被害を最小限に食い止めることは、能登半島地震や東日本大震災においても実証されたところです。

本格的な人口減少社会の到来を迎え、地方創生が国・地方を通じた大きな課題となっている中、個性豊かで活力に満ちた地域社会を実現していくためには、行政のみでは解決できない課題も多く、行政と住民の橋渡し役を担う皆様方の役割は、これまで以上に重要になってきています。

今後とも、皆様方の町会活動がさらに充実したものとなり、金沢市全体が活気にあふれた地域として、他の地域の模範となりますことを、心より期待申し上げます。

最後に、創立60周年を契機に、金沢市町会連合会が、さらに大きく飛躍されますとともに、皆様方の益々のご発展を心から祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

さらなる発展への決意を新たに節目を祝う

平成29年11月12日：石川県地場産業振興センター本館大ホール



記念大会

金沢市町会連合会60周年記念大会は平成29年11月12日、金沢市の石川県地場産業振興センターで連合会三役、各校下(地区)町会連合会会長、役員、町会関係者等が出席して盛大に開催されました。

西野茂会長の式辞、表彰状・感謝状贈呈に続いて谷本正憲石川県知事、山野之義金沢市長、黒沢和規金沢市議会議員から祝辞をいただきました。記念講演では、防災システム研究所所長の山村武彦氏が「金沢市における地域防災の在り方について～最近の大規模災害に学ぶ～」と題して講演しました。



谷本正憲石川県知事



山野之義金沢市長



黒沢和規金沢市議会議員



西野 茂会長



表彰状・感謝状贈呈の様子



金沢市民憲章を唱和



記念講演講師山村武彦
防災システム研究所所長



熱心に講演に聞き入った出席者

大会宣言

安全で明るく住みよいまちづくりと希望に満ちた輝かしい未来の創造は、私たち金沢市町会連合会の究極の目的であります。

私たちは、住民相互の交流を通して連帯意識の醸成を図り、行政及び地域団体との一層の連携協力により、地域活動の活性化と住民自治のさらなる発展を目指し、次の目標達成に努めます。

- 一、行政機関及び地域団体との交流・連携を密にし、心豊かな人間性を育む活力のある地域づくりに努めます。
- 一、自然と人との共生に配慮するとともに、循環型社会の形成を図り、かけがえのない地球環境の保全に努めます。
- 一、住民自治意識の高揚と地域活動の充実発展を図り、世界に向けて、ふるさと金沢を発信し、交流拠点都市金沢の実現に努めます。

私たちは、金沢市町会連合会60周年記念大会において、決意を新たにし、組織一丸となって全力で前進することを宣言します。

平成29年11月12日

金沢市町会連合会

記念祝賀会

平成29年11月12日：金沢東急ホテル



笛「猩々」で聴衆を魅了した
藤舎真衣氏



舞踊「獅子の乱曲」で祝賀会
に華を添えた藤間麻有氏



60年の節目を祝して乾杯

まちとともに生きる

あした
未来へ向かう10年の歩み



近江町いちば館
平成21年4月開館〈青草町〉



金沢市立安江金箔工芸館
平成22年10月新装オープン〈東山1丁目〉



金沢市ものづくり会館
平成22年4月開館〈栗崎4丁目〉



金沢海みらい図書館
平成23年5月開館〈寺中町〉



金沢市出身の松本薫選手が平成24年7月のロンドン五輪女子柔道57kg級で金メダル獲得。金沢市スポーツ栄誉賞・石川県民栄誉賞を受賞し、同年9月に市中心部で祝賀パレード。



北陸新幹線金沢開業
平成27年3月(金沢市提供)



上空から市街地全景を望む(金沢市提供)



鈴木大拙館
平成23年10月開館〈本多町3丁目〉(金沢市提供)



金沢外環状道路海側幹線(大友町~大河端町間)開通
平成25年3月(金沢市提供)



金沢駅新幹線駅舎完成
平成26年7月



金沢百番街「あん」と
平成26年7月新装オープン

まちとともに生きる



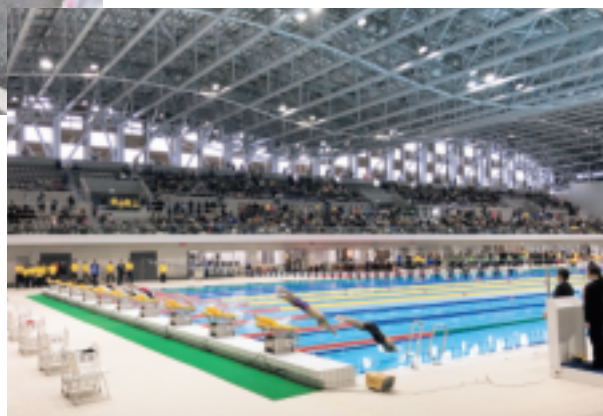
第1回金沢マラソン開催
平成27年11月(金沢市提供)



片町きらら
平成27年9月オープン(片町2丁目)



現在の金沢市庁舎



金沢プール
平成29年4月供用開始(磯部町)(金沢市提供)

金沢百万石まつり
平成28年6月(金沢市提供)



わがまちへの 誇りと心意気



橋爪門続櫓・五十間長屋・菱櫓

金沢市民憲章

金沢を愛するわたしたちは、兼六園の四季のいろどり、犀川・浅野川の清い流れ、山や街の豊かな緑，かおり高い伝統文化を誇りとし、希望と活力にみちたはたらく基盤と，創造性あふれる教育・文化の華さくまちづくりにつとめます。

- 1 ひらこう 世界と未来に 心 の 窓 を
- 1 めざそう いきいきと明るい 暮らしの創造を
- 1 まもろう 美しい心と ふるさとの自然を
- 1 つなごう みんなの力で まちづくりの手を
- 1 きずこう 個性ゆたかな あすの金沢を



金沢百万石まつりで心意気を示す加賀とび

目次

発刊のことば	金沢市町会連合会会長 西野 茂	3
祝 辞	金沢市長 山野 之義	4
祝 辞	石川県知事 谷本 正憲	5
60周年記念大会写真特集		6
まちとともに生きる— ^{あした} 未来へ向かう10年の歩み—		8
金沢市民憲章		11
第1章 各校下（地区）町会連合会の紹介		15
野 町 町 会 連 合 会	弥 生 町 会 連 合 会	中村町校下町会連合会
十一屋校下町会連合会	泉野校下町会連合会	長坂台校下町会連合会
新竪町校下町会連合会	菊川校下町会連合会	材木地区町会連合会
味噌蔵地区町会連合会	長町地区町会連合会	松ヶ枝地区町会連合会
長土堀町会連合会	芳斎地区町会連合会	此花地区町会連合会
瓢箪地区町会連合会	馬場校下町会連合会	浅野町校下連合町会
森山校下町会連合会	小坂校下町会連合会	千坂校下町会連合会
夕日寺校下町会連合会	諸江地区町会連合会	浅野川校下町会連合会
鞍月校下町会連合会	栗崎校下町会連合会	川北地区町会連合会
大浦校下町会連合会	米丸校下町会連合会	新神田校下町会連合会
押野校下町会連合会	西南部校下町会連合会	三和校下町会連合会
三馬校下町会連合会	米泉校下町会連合会	富樫校下町会連合会
伏見台校下町会連合会	額 校 下 町 会 連 合 会	四十万校下町会連合会
扇台校下町会連合会	長田町校下町会連合会	戸板校下町会連合会
西 校 下 町 会 連 合 会	二塚地区町会連合会	安原地区町会連合会
大徳地区連合町会	金石町校下町会連合会	大野町町会連合会
小立野町会連合会	崎浦地区町会連合会	内川校下町会連合会
犀川校下町会連合会	湯涌校下町会連合会	田上校下町会連合会
東浅川校下町会連合会	俵 地 区 町 会 連 合 会	医王山地区町会連合会
森本地区町会連合会	花園地区町会連合会	湖南地区町会連合会
薬師谷地区町会連合会	三谷地区町会連合会	計62校下(地区)



浅野川

第2章 三役・各校下（地区）町会連合会会長名簿	141
第3章 表彰・感謝状受賞者名簿	153
第4章 年表で見る歩み	169
第5章 各校下（地区）別町会数・加入世帯数	177
役員、60周年記念事業実行委員会	180



犀川

第1章

各校下（地区）町会連合会の紹介



小学校の統合で絆を深め 住みよい街づくり

野町町会連合会
会長 杉岡 利正

野町地区のにし茶屋街や寺町台寺院群は伝統的建造物群保存地区に指定された歴史的な街並みであり、午後6時には鐘音愛好会による寺院の鐘の音が流れる街です。

少子高齢化が進行していますが、行事を通じて全員参加で親睦と交流を深め、安全・安心で住みよいまちづくりを目指しています。

社会体育大会

野町社会体育大会は68回目を迎え、各種団体が協力をして毎年5月に開催しています。多くの住民が参加し、町会対抗の種目では町会の代表として競技に参加し、昼食時は楽しいひと時を過ごすなど、地域のコミュニケーションを図る場として重要な行事となっています。

いきいき健康教室で健康維持と絆を深める

平成18（2006）年に「いきいき健康まちづくり事業」の指定を受けて、「野町いきいき

健康教室」を開講して12年目を迎えました。

少子高齢化が進行する中で健康で生活ができるように、「自分の体は自分で守る」事を基本に健康教室で運動実技や栄養教室、ウォーキングなどに取り組み、皆さんとの交流を深め12年間続けて楽しく参加されている方がおられます。

平成27（2015）年度、金沢市に於いて新任の健康推進員研修会では野町の健康教室の取り組み状況の事例発表、また、大阪府貝塚市の健康推進委員の方が金沢市を訪問されたときも、活動事例や健康づくりだけでなく地域の絆づくりなどの発表を行ってきました。今後も健康づくりのため継続した取り組みを行っていきます。

未来を拓く子どもたちを想い統合を

平成24（2012）年に「ともに考えようまちづくりミーティング」が開催され、野町小学校においては児童数の減少に伴い、小規模校として児童の教育環境の影響が懸念されることから統合が望ましいと提案されました。

野口教育長をはじめ教育総務課の方々が各種団体、地域の方に数多くの説明会を開催し、意見交換を行い、野町小学校は142年の歴史がありその伝統を重んじながら、地元として将来のある子どもたちの教育環境の向上を第一に考えた議論の末、地域の皆様にご理解をいただき、平成25（2013）年に弥生小学校と統合することができました。

野町町会連合会

- 〔設 立〕 昭和30（1955）年6月
- 〔町会数〕 32町会
- 〔世帯数〕 1,579世帯
- 〔組 織〕 会長、副会長3名、事務局長1名、理事6名、防災士7名
- 〔行 事〕 社会体育大会（5月）、防災訓練（9月）、いきいき健康教室（5月～11月）、サマーフェスティバル納涼踊り（8月）

泉小学校が旧野町小学校の仮校舎でスタートして3年後の平成29（2017）年、新学期より旧弥生小学校跡地にて新しく泉小学校、泉中学校が一体的な建物で小中一貫教育の新校舎の竣工式が執り行われました。今後は旧野町小学校跡地活用の実現に向かって努力をしています。

自主防災の防災訓練でコミュニケーションを

森本富樫活断層が野町地区を横断していることを重視し、マグニチュード8の地震が発生したことを想定して、避難所の開設、情報伝達、安否確認、初期消火、炊き出し等自助、共助での避難訓練を通して、コミュニケーションを図り、更に防災訓練を充実させて安全、安心して生活できる地域をめざしています。



町会が一丸となる社会体育大会

また、弥生自主防災委員会と災害時における相互協力を円滑に行うため覚書を締結して連携協力や交流を行っています。

サマーフェスティバル納涼おどり大会

毎年8月に、「サマーフェスティバル納涼おどり大会」として、旧野町小学校グラウンドにおいて、夏祭りを開催しております。野町青年会を中心とした各種団体の協力のもと、盆踊り、お楽しみ抽選会、縁日、と、子供から高齢者まで楽しめる内容となっており、会場では、縁日を楽しむ子供たち、浴衣姿で盆踊りを楽しむ人、ビールや焼き鳥を手には町の皆さんと話の輪を広げる交流の場として、住民たちが思い思いに納涼おどりを楽しんでいます。



いきいき健康教室の勉強会



平成29年4月に竣工した泉小学校・泉中学校の新校舎



毎年賑わうサマーフェスティバル



泉小、泉中の新校舎竣工 5年がかりの運動実結ぶ

弥生町会連合会

会長 大橋信喜美

住民の念願だった泉小学校、泉中学校の新校舎が平成29（2017）年4月、竣工しました。広大な約4万平方メートルの敷地に建つ小中学校施設一体型校舎は金沢市のモデルであり、地域のシンボル、住民の精神的支柱として町づくりに役立てられます。

泉小学校、泉中学校新校舎（ともに3階建て）は「」の形で向かい合い、中央に交流広場「広見」が配されています。校舎内は木がふんだんに使われて温かみを醸し出し、廊下も広く取られ、教室の対面にはオープンスペースを設けて機能的に教育できる空間が確保されています。

小学校校舎棟と体育館をつなぐ棟の3階屋上にプールが設けられました。この棟1階には地域開放玄関があり、正面の「ヒストリーホール」には旧弥生小、野町小の思い出の品が展示されています。

旧弥生小、野町小が統合

新校舎完成は5年がかりの住民運動の成果でした。平成19（2007）年3月の能登半島地震で旧弥生小、泉中の校舎壁面が一部崩れ落ち、危機感を持った住民が「子供たちに安心、安全な教育環境を」と、平成24（2012）年5月、築52年の校舎建て替えを目指す「弥生小（当時）・泉中改築促進期成同盟会」を結成しました。旧弥生小、野町小統合による新生泉小の開校を経て、「泉小、泉中建設連絡会」等を通じて保護者、住民の要望を市教委と交渉し、実現にこぎつけました。

平成31（2019）年度までに新たに北冥寮、金大職員宿舎がある金大用地（約1万3400平方メートル）が敷地に組み入れられ、跡地に泉中新体育館、武道場、屋上プール、テニスコート等が整備される予定です。

平成29（2017）年4月、名物の桜並木に囲まれた新校舎に新一年生を迎えました。保護者に手を引かれた児童が桜並木の下に設けられた遊歩道（通学路）を笑顔いっぱいに歩く姿は一幅の絵のようでした。

新機能備えた「防災モデル校」

拠点避難所となる泉小学校には弥生自主防災会が要望した機能的施設が整備され、金沢市の「防災モデル校」の体裁が整えられました。

体育館近くに使い勝手がよい防災倉庫が設置されたのがその一つです。広さは教室と同じ64平方メートルあり、13のラック（各3段）に学

弥生町会連合会

〔設 立〕 昭和33（1958）年

〔町会数〕 28町会

〔世帯数〕 2,330世帯

〔組 織〕 会長、副会長2名、理事5名、会計監査2名、事務局員1名、防災士6名

〔行 事〕 新年互礼会、成人式（1月）、ホテル観賞会（6月）、泉伝統芸能祭り（7月）、太鼓と踊りの夕べ（9月）、獅子頭飾り（9月～10月）、社会体育大会（10月）、防災訓練、文化祭（11月）

校側、弥生自主防災会側の備蓄品が万一に備えて並んでストックされました。

避難時のトイレ問題を一定解決するマンホールトイレの設置は画期的です。体育館とプール棟に面した外周通路に下水道と直結したマンホールが5つ掘られ、便器、上屋も5セット用意されました。使用時には屋上プールから水が流され、衛生面にも留意されています。

このほか体育館近くには受付所、緊急物資の集積所などに有効活用できるスペースが確保されています。また炊き出しに利用できる家庭科室、お年寄りや健康に不安がある人が横になれる和室も体育館近くに整備されました。

文教地区として著しい発展 「特区事業」で伝統、自然を守る

弥生地区はここ10年ほどでより住みやすい街へと変貌を遂げています。もともとが文

教地区として評価が高く、泉野図書館、市陸上競技場、市総合体育館、教育プラザ、地域包括支援センター、バラ公園など公共施設が地区内及び外縁部に集積されています。加えて病院、スーパー、ドラッグストア、コンビニなどが近くにある住環境がよい立地から、マンション、戸建て住宅が増えています。

一方で、消えかけていく伝統や自然を守るため、弥生町会連合会は5年前から「特区事業」を推進し、活動を支援しています。獅子舞、盆踊り、太鼓、虫送り、じょんから踊りなどを守り育てる「伝統文化・芸能特区」、ホテルの環境を守る「自然共生特区」で、泉町獅子舞保存会は平成29（2017）年4月23日の新校舎竣工式で奉納舞を披露しました。

平成29（2017）年からは「偉人顕彰特区」を設けてZ項発見者・木村栄博士に光を当てています。



竣工した泉小学校。三角屋根の右手が泉中学校



「広見」で奉納された泉町獅子舞保存会の獅子舞



新設された「マンホールトイレ」。左側が防災倉庫



暖かさの伝わる “まちづくり”をめざして

中村町校下町会連合会

会長 大川 兼紀

地域が支えるコミュニティ・スクールの開設

子供達は“まちの宝”であり、児童の登下校時の見守りや学校環境の整備などで、これまで地域住民が地元の小学校にかかわっています。

これに加えて、地域が持っている人的資源をもっと子供達の為に活用したいと学校長が強く思い、市の教育委員会とも相談をして、金沢市内では初めてとなるコミュニティ・スクール（地域が学校運営を側面から支える学校）を開設します。

具体的には、算数を中心とした“中村塾”を地域住民の元教師達が中心となって取り組み、理解力のやや劣っている子を放課後や夏休み期間中に、手の届く個別指導をしています。

その他、挨拶がしっかり出来る子や積極的に運動する子を増やすために、地域の方々がいろんな方面からかかわっています。

これらの取り組みで、子供達が地域住民の“暖かさ”や“親しみ”を感じて、立派な成人に育ってくれることを願っています。

そして育った地域の事を思い出し、彼らが次世代にこの様な活動をつないでくれることも期待しています。



「こんな考え方で、いいのかな？」

元気な高齢者が集える場所づくり

金沢市内には善隣思想に基づいた善隣館がいくつもあります。校下に存在する中村町善

中村町校下町会連合会

- 〔設 立〕 昭和17（1942）年4月
- 〔町会数〕 30町会
- 〔世帯数〕 1,900世帯
- 〔組 織〕 会長1名、副会長2名、会計1名、会計監査2名、防災士4名
- 〔行 事〕 サマーフェスタ（8月）、社会体育大会（9月）、長寿会物故者法要（10月）



「毎日何歩 歩いていますか？」

隣館もその一つで、ここが運営していた通所介護施設「ディサービスセンターみかげ」が利用者の減少などから赤字経営が続き、一昨年末に休業に追い込まれました。

この空いた施設を元気な高齢者の活動の場にしたいと検討を重ね、これから急増するであろう「認知症」を正しく理解する“オレンジカフェみかげ”や高齢者の集える“サロンみかげ”それに軽体操で体をほぐす“健康教室みかげ”などを毎週木曜日に開くことにしています。

このサロンやカフェを運営するにあたり欠かせないのが、ボランティアの存在です。行政にまかせるのではなく、地域住民が無理をせず続ける必要があります。

このサロンやカフェには毎回講師を招き、有意義な話を聞くことも出来るようにし、家に閉じこもりがちな高齢者を戸外に出すきっかけになればと思っています。またこれらの会合の世話も参加者にお願ひし、各自がボランティア活動だと認識し、そのことが「生きがい」に繋がればと期待をしています。

長寿会が物故者追悼法要の開催

今から半世紀ほど前の昭和43（1968）年に物故会員の追悼法要を長寿会が始めました。毎年10月11日に校下の寺院で、法名や俗名・没年月日を記載した法名軸を仏前に飾り追悼法要を行っています。現在記載されている法名軸は7本にもなり、今までに600名余りの方々が追悼されています。

法要には“由来書奉読”もあり、成り立ちや先人の活躍を讃える内容も披露されます。そして前年度や今年度前半に他界された方々のご遺族や来賓、会員などで盛大な法要を毎年営んでいます。

満60歳以上の希望者で組織する中村町長寿会には東・西・南・北と中央の5つの支部を設け、物故者法要の外食事会など親睦を深めています。

以上は取り組んでいることの極一部ですが、地域住民がそれぞれの立場で、子供達に元気な高齢者の生きがい作りに、そしてあの世に旅立たれた方々にも暖かさの伝わるまちづくりをめざしています。



今日あるのは先人のお陰だ…。



緑と自然が豊かで

人に優しい町

十一屋校下町会連合会

会長 古瀬 紀一

十一屋校下は犀川と野田山丘陵に隣接し、犀川河岸段丘（斜面緑地保全地区）が縦断していて、変化にとんだ地形などで、大きく3地区に分類されます。

医王山、戸室山が遠望され、目を移せば金沢中心部のビル群や町並み、小立野台地や卯辰山の緑が手に取るように眺望できる場所のある高台地区（7町会）と宏大な犀川緑地公園が隣接している河畔地区（6町会）、ほかに十一屋校下には「カタクリやギフチョウ」で知られている平栗などの丘陵地区（4町会）で構成されています。

また十一屋校下は3,878世帯（平成29（2017）年4月1日金沢市住民基本台帳より）の内、町会加入世帯数が3,468世帯（町会の場合は1家屋に複数世帯が居住する場合は1世帯とすることがほとんど）で町会役員の加入促進の努力を感じられます。それと十一屋校下の大きな特徴として公営集合住宅（国、県、

市）に住む世帯が全体の45%位で、その認識と配慮がこの校下の町会運営のもう一つの課題となっております。

さて、平成20（2008）年からの我が校下の歩みを振り返ってみますと、平成20年9月に15団体で「十一屋校下グッドマナー推進委員会」を立ちあげ、「あいさつに関するマナー活動」などを目標とする発足式に72人が参加し、グッドマナー宣言とパトロール用キャップと腕章の授与など行われました。また、標語の募集も行われ、最優秀作を看板にして配られ、現在も校下のいたるところに掲示されています。

平成22（2010）年5月に「十一屋校下水防訓練」を89名が参加していしかわ子ども交流センター前の犀川河川敷で実施しました。

平成24（2012）年2月に「十一屋校下町会連合会記念校下史誌」を発刊しました。これまで校下では歴史の節目となる記念誌などの発刊したことなく、その時代を知る人たちもご高齢となり、時の流れに歴史が埋もれつつある危機感から記念誌作成に取り掛かりましたが、案の定、当初予想した以上の困難を極めましたが、編集委員の熱意と努力でどうにか発刊することが出来ました。

平成25（2013）年8月に「校下一斉防災訓練」が実施されました。この訓練は「自分を守り、家族を守る」をキャッチフレーズに「安否確認」「避難誘導」「情報伝達」を最重要課題とし、校下を5ブロックに分けてそれぞれのブロックに応じた訓練内容の会議、図上訓練を行

十一屋校下町会連合会

- 【設 立】 設立年は不明だが、昭和29（1954）年の金沢市連合町会長協議会準備会発足に校下の町会連合会長（その頃は「城南地区町会連合会」の名称）が関わっていたので、結成時期はそれ以前と思われます。
- 【町会数】 17町会
- 【世帯数】 3,468世帯（平成29年4月1日現在）
- 【組 織】 会長、副会長3名、会計1名、監事2名、理事2名、町会長17名、防災士14名
- 【行 事】 校下各種団体親睦会、社会体育大会、上菊橋花壇植え替え（年2回）、防犯キャンペーン（年2回）、新年会、いきいき健康教室

い、町中訓練には2,075人が参加しました。それ以外に戸口に「無事」の札を下げてくれた「在宅訓練者」が3,526人もあり、校下住民数8,500人余りの実に65%が訓練に参加しました。

平成28（2016）年9月に「親子防災キャンプ」を大桑防災拠点広場で実施しました。この訓練は金沢エコライフくらぶ、北陸学院大学、金沢市危機管理課、防災士で企画、実施し、11家族、25人が参加し、また運営側も町会長や防災士、大学生など30人余りが1泊のキャンプで支援をしました。参加家族は40代の父母と小学生がほとんどで、中には祖母とお孫さんのご家族もあり、たいへん有意義な2日を過ごしました。

内容は避難所生活を想定、ライフラインが使えない状況でどのように生活し、食事など

をどうすれば作れるかで「テント設営」「簡易トイレ作り」「炭電池の懐中電灯作り」「紙食器作り」「火起こし」などで、ちなみにこの様な訓練は市内で初めてだったそうです。

これからの十一屋校下の課題としては、防犯、防災及び高齢者対策ですが、それ以上に子どもの福祉問題を急がなければならないと思っています。その一つが「平和町児童館」の問題で、築44年が過ぎ、建物の耐用限界が近づいており、老朽化、非常時避難誘導など、安全安心が非常心配な状況の中、利用者人数が近年飛躍的に増え、昨年度〈平成28（2016）年度〉は延べ43,492人（会館日数292日）の利用者が有り、非常な混雑状況で接触事故の心配も増えています。町会連合会や関連団体でも改築に向けての資金積立に踏み出したところです。

※十一屋校下10年間の主な特記事業〈平成20（2008）年～29（2017）年〉

平成20年9月6日：グッドマナー発足式
平成22年5月23日：十一屋校下水防訓練
平成23年1月12日：「雪かきボランティア」協定
平成23年2月15日：「いしかわ子ども交流センター」（法島町）
金沢市指定避難場所に関する覚書協定
平成23年4月：東北地方太平洋沖地震義援金募集
平成24年8月4日：「ともに考えよう、まちづくりミーティング」
「防犯活動の現状と問題点」
「防災意識の向上と防災対策及び訓練」

平成25年2月：十一屋校下町会連合会50周年記念校下史誌発刊
平成25年8月25日：十一屋校下一斉防災訓練
平成26年11月：広島豪雨災害義援金募集
平成27年4月11日：大桑防災拠点広場完成
平成27年6月：熊本地震義援金募金
平成28年8月4日：「ともに考えよう、まちづくりミーティング」
「公営住宅が起因する問題について」
平成28年9月17～18日：十一屋校下親子防災キャンプ



校下社会体育大会（コミュニティ醸成）



校下防災訓練（安全安心）



防犯活動（安全安心）



上菊橋花壇植え替え（環境美化）



文教地区として発展

諸先輩の御苦勞に感謝

泉野校下町会連合会

会長 笠置 研一

金沢市町会連合会創立60周年を迎え、これまで育てて下さいました諸先輩の御苦勞に感謝申し上げますと共に、誠にお目出たいこととお慶び申し上げます。

泉野校下町会連合会は、昭和34（1959）年4月1日金沢市立十一屋小学校より独立して、金沢市立泉野小学校が誕生したのに伴い、校区に所属する町会が、これまで所属していた、十一屋校下町会連合会から分離独立、59年目の連合会です。犀川左岸寺町台地の寺町一丁目から寺町五丁目（寺町商店街、寺町寺院群の一部）、泉野一丁目から六丁目、泉野出町一丁目から三丁目、緑が丘、若草町の一部に至る閑静な住宅地が主たる一帯であります。戦前より引き続いた小さな町会も多く、現在44町会、3,896世帯、人口9,114名となっています。

当地域の特色としては、高等学校2校（二水、泉丘）、野田中学校、泉野小学校と金沢市立泉野図書館、金沢市泉野福祉センター、城南市民体育館、金沢市総合体育館、市消防泉

野出張所、金沢南郵便局等があり、文教地区と知られる一方、少子高齢化で65歳以上の高齢化率26.4%（金沢市の平均と同程度）となっています。以上生い立ちと地区の概要を記しましたが、以下過去10年を振り返り、活動の一端をご紹介します。

校下の2大行事

校下町会連合会が主催する行事の内、永年続いているものに、8月の納涼泉野おどり、10月の社会体育大会があります。両行事ともに校下各種団体のご協力を得て、企画から運営まで手作りで、小学校のグラウンドで地区民多数の参加を頂きながら盛大に行われています。8年前より小学校、育友会、婦人会等のご協力で、夏休み中に、サマースクールを開催し、子ども達におどりを教えて頂いております。子ども達もおどり上手になり、父兄はもちろんご家族等の観客も増え、おどり・社会体育大会共に、年々盛大になってきています。

自主防災会の研修と訓練

泉野校下は平成20（2008）年に市民防災訓練が実施されました。その後毎年8月に防災会議を市中央消防署泉野出張所にて、町連、社協、民生委員、婦人会等各種団体と協力して開催しています。市危機管理課より講師を招いて約75名が出席、開催しています。その後9月中に各ブロック毎に訓練を実

泉野校下町会連合会

- 〔設 立〕 昭和34（1959）年
- 〔町会数〕 44町会
- 〔世帯数〕 3,800世帯
- 〔組 織〕 会長1名、副会長3名、理事10名、理事会計1名、監事2名、防災士15名
- 〔行 事〕 納涼泉野おどり（8月）、社会体育大会（10月）

施しています。(5ブロックあり公園に防災倉庫がある)。ブロック長よりパンフレット「防災かなざわ」に基づいて研修、 TENT を張り、アルファ米の炊き出し等基本的なもので、「自分の命は自分で守る」「天災は忘れた頃にやって来る」「備えあれば憂いなし」「継続は力なり」をモットーに有事に備え訓練しています。

泉野校下安全パトロール見守り隊の設立

平成23(2011)年4月に町会連合会で各種団体の協力のもと設立しました。

当所26人で発足、泉野小(生徒数約600名)の通学路で朝7時から8時の1時間、夕方下校時の3時30分から4時30分頃迄、交通安全と見守りで活動しています。設立以来7年が経過し、メンバーも80歳以上の方が6名で、退会者も出てきていますがボランティアの募集も続けています。今迄に中防犯協会

長、中警察署長より功労者9名が表彰を受けています。また平成28(2016)年度校下防犯委員会に対し団体賞を受賞致しました。毎年泉野小全員集会で「感謝の会」を開いて頂く等、子ども達の元気と中高生、一般の通勤者から元気をもらって毎日活動しています。

泉野サロンの開設

平成14(2002)年2月より社会福祉協議会、町会連合会、民生委員、婦人会、長寿会等が協力して泉野サロンを開設しました。現在毎週水曜日に65歳以上の方の出席で、健康教室、カラオケ、交通安全、防犯防災等また、月3回金曜日マージャン教室も開講、各教室共に約35名の出席となり高齢者から好評を頂いております。月延べ約240名が参加し、健康体操、頭の体操と大変好評で喜ばれております。



社会体育大会



泉野おどり



防災訓練



安全パトロール「感謝の会」



長坂台は元気一杯です

長坂台校下町会連合会

会長 宮本 光章

お世話する人も又される人。
今日も笑顔でがんばろう！

校下の自主防災活動

校下自主防災委員長 前田輝代治

長坂台校下では平成26(2014)年に校下全体の避難訓練が行なわれ、その後も防災意識が途絶えないようにと活動を続けています。校下の防災士10名〈平成28(2016)年〉と連合町会長、社会福祉協議会長を交じて、年3回の防災会議と、町会役員、防災委員とで防災講習会を行っています。

防災の緊急時には、まず各自が安全に身を守ることです(自助)。その後に周辺の人々と共に救急避難、救助、必要とあれば初期消火と、これらの活動がいかに多くできるかです(共助)。平常時も事前の備えに配慮が必要です。一人暮らしの高齢者や寝たきり、乳幼児等の把握に努めたり、家の中の倒れ易い家具等の点検をするよう啓蒙活動をしています。

近年は町会毎の避難訓練も多く行なわれ、



避難訓練

共通した意識で動きを確認し合っています。小中学生と共に行う絆防災も充実しようとしています。毎年の校下行事や町会行事でも互いに協力し合う気持が作られ、防災時の活動にもつながることを願っています。

納涼盆踊り大会と大運動会

校下盆踊り運動会委員長 水橋 稔

校下の2大行事として納涼盆踊り大会と大運動会があります。ともに校下住民の親睦を図るため婦人会、少年連盟、PTA等の各団体が主体になり全11町会が役割を持ち開催しています。

盆踊りは今年で33回目になります。長坂町会あさんがえし保存会の指導で大会前3日間の練習で毎年多くの人が踊れるようになっていきます。オープニングは野田町の虫送り太鼓保存会「日昭会」の太鼓演奏で幕開けし、「炭坑節」「花笠月夜」「みんなの願い」「百万石音頭」「いいね金沢」「金沢音頭」「越中おわら節」地元の農作業歌「あさんがえし」の

長坂台校下町会連合会

- 〔設 立〕 昭和56(1981)年4月1日
- 〔町会数〕 11町会
- 〔世帯数〕 2,984世帯
- 〔組 織〕 会長1名、副会長1名、監事2名、防災士8名
- 〔行 事〕 納涼盆踊り大会、大運動会、避難訓練

8曲を踊ります。踊り大賞、仮装大賞等を設け踊って楽しみ、見て楽しんで貰える盆踊り大会です。

運動会は今年31回目の開催になり、初めの頃は雨天で1、2回中止にしましたが、親睦の機会を減らさないために雨天でも体育館で行っています。独自の競技として小学生のキャタピラーに見立てた段ボールの中に入りゴールするキャタピラーレースなど、子どもの競技を主体に老若男女が参加できる競技を取り入れています。

昼の休憩時に日赤の指導員によるAEDの講習会を10年ほど続けています。

両行事を通じて親睦を強め地域防災にも寄与できるものにしていきたいと思います。

子供みまもり隊の誕生

校下子供みまもり隊隊長 河合 忠博
平成13(2001)年、大阪池田小学校で多く

の児童が犠牲となった悲惨な事件が発生、その後も全国各地で子供が被害に遭う事件が多発しており、長坂台校下として町会連合会長より平成17(2005)年4月、子供みまもり隊の組織作りの要望があり、婦人会や各町会長の協力を得て嶋屋昇氏をチーフとして、活動に参加出来る有志により協議を重ね、2学期より106名の参加で活動を開始しました。活動方法は各町会毎に隊長を配置し、自分達の町は自分達で守るとの信念で、登下校時に合わせて活動し、金沢市内では唯一のピンクのジャンパーに睨み目をデザインした帽子を着用して遠くからでも目立つ服装で犯罪防止に役立っています。活動開始後も、子供に対する声かけや、つきまといの事犯はあるものの、大きな被害が無いのが幸いです。活動当初は見慣れぬ服装の為、近隣の住民から奇異に映ったようですが、見慣れた今では感謝の言葉をかけられ、活動の励みとなっております。



避難訓練



納涼盆踊り大会



大運動会



子どもみまもり隊



私たちの住む新豎町校下

新豎町校下町会連合会

会長 宮口 優

金沢市の中心部に位置していることはもとより、明治期より北の学都と呼ばれ国立の第四高等学校（現四高記念公園）、県立女子師範学校（現21世紀美術館）、そして金沢第一中学校（現歌劇座一帯）、それは文字通り学都金沢の中心でもあり、県内はもとより全国より英才の集うところでありました。

その跡地はそれぞれに国、県、市が管理するところではありますが、それらの面積は校下全体の3分の1以上を占めており、文化施設や公共用地として今日に至っております。

現在でも本多町には明治20年創立で130年の伝統を誇り、幾多の人間国宝や芸術院会員を輩出している石川県立工業高等学校、また「金沢ふるさと偉人館」にも足跡が記されている女子教育の先駆者「加藤せむさん」創立の金城学園遊学館高等学校の存在は熱気にあふれ、街中に賑わいと活気を与えています。

半面、都心軸の一翼の一地区でもあり、中心商店街でファッションの町と呼ばれている



そくさいネット

豎町、味食店舗街と用水の流れる柿木畠、多くの観光客の流入で賑わっている広坂通り、「天狗の肉」で知られる肉屋さんを抱える落ち着きのある新豎町商店街等、それぞれ特徴のある商店街として地域に活力を与えています。しかし、一步通りを曲がれば、そこは「こまちなみ」通りの水溜町、里見町そして閑静な住宅が並ぶ本多町、季節ごとの華やかさとしっとりとした風情に充ちた犀川縁の古い家並みに潤いを与えています。

そうした中、当地も御多分に漏れず、市内でも有数の少子高齢化が著しく進み、3年前より「高齢者地域支え合い」事業として「そくさいネット」というサポーター会議を立ち上げ、4つのグループ（広報・買い物ツアー・寺カフェ・訪問支援）に分けて活発に活動し大変喜ばれております。地区社協、民児協、善隣館の福祉3団体の結束のおかげです。楽しく安心して暮らせることがサポーター会議の目的です。

平成22（2010）年からは、石川県立工業

新豎町校下町会連合会

- 〔設 立〕 昭和29（1954）年9月1日
- 〔町会数〕 36町会
- 〔世帯数〕 2,303世帯
- 〔組 織〕 会長、副会長2名、常任理事5名、監事2名、理事（全町会長）、防災士8名
- 〔行 事〕 新豎絆盆踊り（8月）、社会体育大会（9月）、新年互礼会（1月）

高校と遊学館高校と協定を結び、降雪期の鱗町交差点の地下道入り口やバス停、高齢者の多い狭い道路の除雪ボランティアが利用する方々から感謝されています。

また、長い間途絶えていた盆踊りを次世代を担う若い方々が「新堅絆盆踊り」として平成21（2009）年から復活したということです。私たち年配者は一切関知せず8年目を迎えております。地域の活力としての若い芽生えはうれしい限りです。その他、永年の懸案であった消防分団の地区割りの矛盾の解消です。長町町会連合会と同分団のご理解により新堅町小学校校区通りに我が新堅分団へ戻ってきたのです。平成28（2016）年4月より正式な分団管轄区域が正式に承認されました。

その他、新堅町小学校校門前に停止禁止部分を設置してもらうことで、小学校への車両の出入りがスムーズになったこと、正門前道路の交通量が多いことでの危険性を避ける意

味で、裏門に別木戸を作り児童を誘導する道を設置してもらったことなどがあります。

次の10年で最大の課題は、菊川町小学校との統合。城南中学校と紫錦台中学校との統合が喫緊の重大案件として、校下全体で取り組んでいく所存です。

また、鱗町交差点横断地下道も、建設当時は児童等の交通安全面で大変重宝していましたが、現在は高齢者・障害のある方々の不便さ等を解消するためにも、地下道の存廃も含めて、抜本的に考えていかなければならないと考えています。少子高齢化の進む新堅町校下で、地域の方々が行き来しやすく、鱗町交差点で4分割されている新堅町校下の地域コミュニティを維持していくためにも、立ち止まることなく一步一步進めていくことが、もう一つの大きな課題です。



除雪する石川県立高校生徒



除雪する遊学館高校生徒



新堅絆盆踊り



新堅町小学校前の停止禁止部分



防災力に強い 街づくりを目指して

菊川校下町会連合会
会長 高島 格

平成20（2008）年、菊川校下町会連合会が50周年を迎え記念式典や記念誌の発行等記憶に残る区切りを刻みました。この期間は各町会並びに町会連合会の安定した基盤づくりの時期でありました。

その後、次世代への飛躍発展を願い51年目をスタートさせ、「菊川の誇り」「自慢話」ができる風土づくりを築き上げることを目指しました。

菊川校下は、犀川の清らかな流れと、緑の河川敷に抱かれた自然環境に恵まれた地域があります。また、歴史と伝統が残る昔ながらの風情と新しいまちなみが調和した地域になりました。

今日までの10年間は、これまでの町会活動の基盤を生かし「防災力の強い街づくりを目指して」町会連合会がリーダーシップを発揮して取り組むことを進めて参りました。

その一つは、住民同士のつながりを、より活性化させることにあり、そのベースを、若い世代も地域の活動に参加し、年配の方々と



菊川校下を抱える犀川とその風景

交流を深めていただく機会づくりを多く作ることに狙いを定めました。その代表的な行事が「夏祭りin菊川」です。従来の恒例行事であった「盆踊り」をPTAの方々や、少年連盟の役員と子どもたちの協力を加えて、更に地域の城南中学校のプラスバンドや菊川町小



校下内の告知チラシ

学校のキッズソーランなどの支援をもらい、老若男女一同が楽しむ機会づくりが出来ました。また、住民がお互いに助け合う風土が生まれ、助け合う絆を防災の面に生かしていきたいと考えています。

その二つめは、継続した毎年の防災訓練の実施です。毎年の訓練結果を総括し精度を高めていくことを狙いにして、校下全体で取り組んできた訓練を、町会単位で出来る訓練

菊川校下町会連合会

- 〔設 立〕 昭和33（1958）年8月
- 〔町会数〕 32町会
- 〔世帯数〕 2,137世帯
- 〔組 織〕 会長、副会長2名、会計1名、理事若干名（現在5名）、会計監査2名、参与若干名（現在10名）、防災士11名
- 〔行 事〕 「夏祭りin菊川」（7月末）

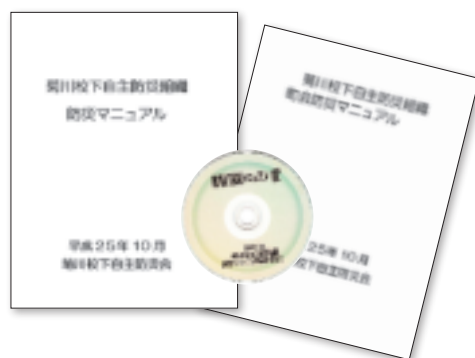
「まちなか訓練」を取り入れ、身近な場所で、日頃から顔を合わせている住民が協力して訓練をする事を定着させてきました。これにより町内会の環境がわかり、お互いの声掛けができるようになりました。

その三つめは、訓練（災害時）を取り仕切る町会連合会の本部役員や町会長・町会の防災委員の役割を明確にして、実践できるようにすること。すなわち、集合して図上訓練の実施です。各町会の防災委員は、自分たちの町内会を知ることと、住民の安否確認方法を学び、災害時の対応力を身につける訓練をしています。菊川校下自主防災組織では、校下全体の「防災マップ」や「自主防災マニュアル」を作成するとともに町会が取り組む「町会防災 マニュアル」を作成して平常時・非常時の対応に備えています。（右写真参照）

我が街の自慢話になりましたが、これからも住民の安全・安心を守るとともに、日頃の

活動が地域の活性化につながっていくことを願っています。

菊川校下も少子化・高齢化が進み、活動の在り方等々の見直しが必要な時期になっています。将来を見据えてこれからも努力し、生き生きとした菊川校下にして参ります。



夏祭り in 菊川（祭りを楽しむ住民）



夏祭り in 菊川（子ども達が主役の縁日）



防災訓練「まちなか訓練」（町会の空き地で訓練）



防災訓練「まちなか訓練」（小路で消火訓練）



自然豊かな浅野川と共に歩む

材木地区町会連合会

会長 井奈 孝史

卯辰山を背景に、浅野川のせせらぎも聞こえ、金沢の歴史と文化の宝庫を有する材木地区を、私は誇りにしています。現在鈴見町山側環状道路を山側にまたいで鈴見台町会より浅野川両岸添いに、主計町まで51町会で成立って居ります。忘れもしない平成20（2008）年7月28日の浅野川洪水から、早9年が経過しました。街中では雨の気配も無い中、医王山系に降った想定外の雨により、大変な被害が出ました。普段はやさしい風情の女川も、鬼川と化したのを昨日の事の様に思い出します。当町連では、資源回収奨励金を災害対策救援金として積み立てているので、被害にあった家庭には見舞金を配布致しました。

5月の連休中には、街中では見る事が無くなった鯉幟が、梅の橋下で川面に泳ぐ鯉流しもすっかり金沢の風物詩となりました。百万石祭りの前日には、加賀友禅灯籠流しが浅野川を、幻想的に彩ります。

6月と10月には、浅野川に面した12町会

を主に清掃活動する、「浅野川を美しくする会」が平成27（2015）年度マナー意識の高揚実践者として、金沢市・マナーをよくする金沢市民会議より表彰受賞致しました。昭和27（1952）年、28（1953）年の浅野川の大洪水での被害を契機とし、被害と支援への感謝を忘れないために結成され、以降65年という長きに渡り地道な清掃活動を続けています。平成19（2007）年から材木公民館も加わり地域住民の参加協力を周知した。ボランティア団体や企業関係者などの参加が加わり、現在参加者は400名以上となっています。長年の地道な活動は、周辺地域住民の川への愛着を育て、自主的な清掃や花植えなどの美化活動に発展しています。

少子高齢化が進む中、平成26（2014）年3月に「材木町小学校教育環境を良くする会」を発足、材木・味噌蔵両小学校を統合する事によって、規模の適正化につながり、子供達の教育環境が最良と判断、金沢市教育委員会の指導を受けながら、町会連合会・材木公民館・各種団体長・育友会・小学校校長等の方々によって、統合の準備を進めながら、平成28（2016）年3月に閉校式を執り行い、材木町小学校143年の歴史に幕を下ろしました。4月5日兼六小学校が誕生、「やさしく・かしこく・うつくしく」を校訓として、元気な子供達の声が聞こえます。

材木地区町会連合会

〔設 立〕 昭和22（1947）年4月

〔町会数〕 51町会

〔世帯数〕 3,043世帯

〔組 織〕 会長、副会長3名、理事12名、町会長48名、防災士7名

〔行 事〕 浅野川清掃（6、10月）、防災訓練（11月）

材木地区全体の高齢化率が34%とまだまだ増加傾向にあります。地区では今も色濃く残っている善隣思想や向こう三軒両隣の精神

を再確認し、地域住民みんなで支え合い、助け合い、安心・安全な・まちづくりに取り組んでいきたいと思っています。



材木地区少年連盟主催の浅野川鯉流し



浅野川清掃



浅野川を美しくする会の春と秋の清掃



防災訓練（旧材木町小学校体育館グラウンドにて）



歴史遺産と 伝統のなかの新しい息吹

味噌蔵地区町会連合会

会長 外山 郁生

味噌蔵地区は金沢市中心部のやや南に位置し、尾張町から田井町に至る南北約4kmの帯状の学区であり、その中央に兼六小学校を擁しています。地区内には金沢城公園や名勝兼六園があり、東内惣構・東外惣構などの歴史的遺産が数多く残る地域です。近年、兼六園下周辺の道路の拡幅や電線の無柱化そして県営駐車場の整備が進み、鉛瓦と白漆喰になまこ塀が特徴の金沢城石川門と近代的な姿になった裁判所が、金沢城周辺の樹々の緑と調和して素晴らしい景観となりました。また、平成27（2015）年春の北陸新幹線の開通や山側環状道路の展開により、県外のみならず海外からの観光客が急激に増え大変な賑わいとなっています。

味噌蔵町小学校と材木町小学校は平成28（2016）年春に統合し、兼六小学校となって生まれ変わりました。同じく兼六園の名を戴く兼六中学校と共に、小中一貫した学びの場となるでしょう。現在は前味噌蔵町小学校の

校舎を使用していますが、将来的には学校規模の適正化と中学校の通学域の見直しから、小將町中学校は中央地区へ移転することとなり、その施設を兼六小学校の校舎として活用し、より広くより多様な学びの機会が生まれることとなります。小学校の校区を一つの地域として長年続いてきた校下活動は、小学校が統合された現在、新たなステージへ移行せねばなりません。そのためには、味噌蔵地区と材木地区は連絡を密にし、相互に協力して活動していくことが重要であると考えております。

住居表示に関する法律（昭和37年）の制定により、江戸時代からの古き良き町名や庶民の生活をそのまま表していた町名の多くが失われました。しかし、永きにわたり用いられてきた町名に対する住民の愛着は深く、現代においても人々の生活の中で脈々と息づいています。長い歴史の中において、時代とともに変わらねばならないものもありますが、変えられないものや変えてはならないものが数多く存在します。これらは先人達が守り継いできたものであり、私達の手で未来に遺さねばならない大切なものです。また、今を生きる私達にとっても、その存在は心のふるさととの再確認であり、その由来や沿革を知る上で不可欠なものでもあり、地域をより深く理解し、郷土愛をより深めるものでしょう。旧町名に代表されるような「金沢らしさ」を、無形の文化遺産や心のふるさととして後世まで

味噌蔵地区町会連合会

〔設 立〕 昭和31（1956）年4月

〔町会数〕 42町会

〔世帯数〕 2,388世帯

〔組 織〕 会長、副会長2名、常任理事2名、ブロック理事11名、監査2名、防災士11名

〔行 事〕 成人式（1月）、福祉バザー（5月）、納涼夏まつり（7月）、社会体育大会（9月）、敬老会（9月）、文化祭（11月）

遺せるように、先人の意思を受け継ぎ、大切にしていかなければなりません。

さて、味噌蔵地区は古き良き町並みが残る地区であるがゆえに、高齢者が多く暮らし、木造家屋が密集する地域が多く存在します。そのため、火災発生時の被害の拡大や狭い路地への緊急車両の進入に支障が生じる可能性があります。また、金沢市を縦断する森本・富樫断層による巨大地震やそれに伴う卯辰山や小立野台の急斜面の崩壊、その他にも付近を流れる浅野川の水害などが懸念されます。このように、多くの災害に対する心配の種は尽きることはありませんが、重要なのは隣人間の助け合いと情報共有です。今後は、今まで以上に自助共助の精神を大切にするとともに、近隣コミュニティと連携して、人々の安心・安全な生活の場となるよう防災・減災の心構えを常に持ち、ゆっくりと時間の流れる

味噌蔵地区を守っていきたいと思っております。

これまで、多くの方々のご協力とご尽力により、地域の特性である歴史・伝統・文化・学術が守り磨き上げられ、他の地域に勝るとも劣らぬ魅力に溢れ品格が備わったコミュニティが形成されてきました。このコミュニティをより深化させるとともに、さらに発展させていきたいと考えております。味噌蔵地区町会連合会は、今後とも、味噌蔵公民館や第三善隣館、その他各種団体や地域の方々と共に、余暇の有効利用や生涯学習の場をつくり、地区住民の叡智を集めて、健やかで素晴らしい人間形成ができる、古き良き伝統の町〈みそぐら〉、新しい息吹を感じる町〈みそぐら〉を目指してまいります。



納涼夏まつり



社会体育大会



福祉バザー



文化祭（展示コーナ）



長町地区の現状

長町地区町会連合会

会長 久保田 保

長町地区は商店街、飲食街及び駐車場等の増加に伴い居住者が減少、又若者の郊外への転出により高齢化率が高くなり、中心過疎地となりつつあります。

このような中、特に自動車を運転出来ない高齢者にとって日用品、特に食料品の買物がとても不便になっています。地域内には食料品の販売がなされている店が少なく、デパートの地下、スーパーマーケットが1店、あとは小売店が数軒です。この事態が緩和されるかはわかりませんが、住民による住民のためのまちづくり等を目指している「金澤長町まちづくり事務局」により年数回開催される朝市も一つの事柄にあげられます。この朝市は社会福祉協議会、公民館、町会連合会及び学生のボランティアにより運営され、希望者には購入品を自宅まで配達するサービスも行っています。

朝市も今年で18年目を迎え、通算100回を超える事となりました。前田土佐守家資料館前庭で開催されている事もあり、時には観光



長町朝市

客も参加され喫茶コーナーでお茶を飲みながら地元の買物客と会話し交流を深めている事もあります。この朝市のスタッフ自体も高齢者が多く、若いスタッフを育成していく事が今後の課題となっています。

又、昨年ある業者により地域内の車による週2回程度の移動販売を行いたいとの申し出がありました。町連としては願ってもない話だったのですぐ協定を結び、今日に至っています。

当地区では、長年に渡り自主防災に取り組み、近年は避難訓練を主眼としております。内容としては、はしご車体験、消火器訓練、心肺蘇生、AED使用訓練、非常食炊き出し訓練、土のう訓練等を交互に取り入れて実施しています。多くの年齢層の方々の参加を期待し、子供達にはスタンプラリーを企画して小さな参加賞を渡しています。昨年は、中央小学校下4町連と災害協定を締結した聖霊病院の協力を得て救護コーナーも設けました。

今年3月に金沢大学地震学の平松良治教

長町地区町会連合会

〔設 立〕 昭和38（1963）年

〔町会数〕 34町会

〔世帯数〕 1,315世帯

〔組 織〕 会長1名、副会長2名、会計1名、会計監査2名、防災士5名

〔行 事〕 朝市（5月、6月、9月、10月）、自主防災（9月）、一斉清掃（5月、10月）

授により森本・富樫断層帯の野町断層が長町地区を二分していると発表がありました。高齢者の多い地区として、避難先までの経路の確定及び全員が安全に避難出来るように協力について、町会との話し合いが今後の課題として残っています。

大きな問題として役員の担い手の確保がむづかしいところがある事です。日中商売しているが居住地が違うため危機管理が出来ないので役員が出来ない、住人のほとんどが高齢のため役員が出来ない、あるいは住人が数軒のため1年交代で役員をせざるを得ない町会等。これらの町会では役員の問題だけでは済まされないように思います。ゴミ当番、町内に回す文章の配布、回覧等にも滞りが出て

来る事もあり得るように思います。今後は統合も視野に入れていろいろな対処を模索していく必要があります。

いろいろ課題の多い中、かねてより懸案事項であった地区と消防分団の区割地域が統一された事が大きな出来事です。

自然災害が多く発生している昨今、長町地区に長土堀消防分団が入り混じり、長町消防分団が松ヶ枝地区と新堅校下に入り組んでいました。地区と消防分団の正誤を正すために、各町連、消防分団が協議し、平成25(2013)年6月に長土堀・松ヶ枝地区と、平成26(2014)年9月に新堅校下との協議締結が成され、長町地区内の管轄がすべて長町消防団に定まりました。



長町地区自主防災



長町地区自主防災



心肺蘇生



一斉清掃



松ヶ枝地区町会連合会の展望

松ヶ枝地区町会連合会

会長 笹井 鍊造

松ヶ枝地区は金沢城の西側にある初代藩主前田利家公が祀られている尾山神社と朱塗りの神殿で知られる尾崎神社を臨む中心繁華街であり、武蔵ヶ辻交差点から南町までの157号線沿いには銀行、証券会社、保険会社等、主たる企業の支店や事業所が立ち並ぶビジネス街、市民の台所（最近は市内観光地のメッカ）、近江町市場、金沢にあるデパートのひとつ「めいてつエムザ」、大型マンション、昔ながらの町屋を含む一般住宅が密集する地域です。

一昨年の北陸新幹線開業後はたくさんの観光客が松ヶ枝地区のメインの歩道のみならず裏道まで歩いて観光地を目指しています。また新幹線効果でしょうか、この地区に東京オリンピック開催に間に合うように8つのホテルが開業予定です。短期間での様変わりが怒涛のように我が街を襲っています。

松ヶ枝地区では昔から慣れ親しんだ旧町名が復活した町である袋町・南町・上堤町、そのほかにも旧町名の復活を目指している町も



旧町名復活のあゆみ

いくつかはあるようです。旧町名は由緒ある町の成り立ちを表していて、その歴史を知る上で貴重な財産です。しかし、復活したくても、運動を起こす住民すらほとんど住んでいない町もあります。

この地区を預かる松ヶ枝地区町会連合会は、地域住民の結束を掲げ、地域活動には松ヶ枝公民館と連携して、積極的に住民の参加を呼び掛けています。また、町の治安は地域の警察署の指導のもと各町会の防犯委員で夜回りなど防犯に努めています。防災に関しては自主防災会を立ち上げ、防災士の育成に努め、住民の防災意識向上に努めています。

松ヶ枝地区自主防災会とは、町連会長を筆頭に組織され、松ヶ枝地区の緊急災害における住民の避難や調査など、また避難所などで地区住民のストレスの解消、避難所における秩序の維持や避難者の平等などのために率先して活動する会であります。

松ヶ枝地区町会連合会

〔設 立〕 昭和21（1946）年

〔町会数〕 35町会

〔世帯数〕 1,446世帯

〔組 織〕 会長、副会長2名、常任理事7名、理事（全町会長）、防災士8名

〔行 事〕 神輿行列（5月）、社会体育大会（9月）

昨年の8月28日市民防災訓練に参加しました。午前7時30分、金沢市に避難が必要な大災害（巨大地震・震度6以上）が発生したとの想定で、金沢市危機管理課、金沢駅西消防署玉川出張所や松ヶ枝消防分団などの協力を得て、各町会の自主避難訓練と避難場所でのまちなか訓練を行ないました。

避難所開設などの、より実践的な訓練は残念ながらできませんでした。中心地域ならではの分散型避難所訓練などで住民の防災意識の向上には少しは役立ったのではないかと思います。

松ヶ枝地区は高齢者の割合も多く、マンションや事業所も多い街の中心地域です。今回の市民防災訓練を通して住民の防災に対する関心の高さを感じたことを踏まえ、今回参

加できなかった住民への働きかけや地域の企業等との相互協力体制の構築を目指して、いろいろ工夫して理解を深め、万一の災害に備える一翼になればと思っております。

松ヶ枝地区の現状を把握し、松ヶ枝地区の良さや特性を生かし、問題点の解消に努め、地区住民の安心安全を守って、今後、より住民のための活動を考えたとき、この地区の一番の問題点、少子高齢化をどう解消するか。子育て世帯や若者が住みよい環境づくりのための施策を金沢市と協同して早急に取り組むことも町会連合会の大きな役割です。

高齢者も住みやすい地区、若者も住みやすい地区、子供も安心して遊べる地区、そんな松ヶ枝地区になるよう邁進してまいります。



旧町名復活・袋町記念式典



旧町名復活・上堤町記念式典



市民防災訓練・消火訓練



市民防災訓練・救護訓練



長土堀10年ひと昔

長土堀町会連合会

会長 西村 信彦

私が、平成20（2008）年に長土堀地区の町会連合会会長を拝命してから、今年で10年目をむかえます。

10年ひと昔といいますが、金沢市町会連合会結成60周年という節目の年に、記念誌の一隅に一筆書かせていただけますこと、誠に光栄に思います。

さて、長土堀地区の10年を振り返ってみると色々と思ひ出されます。やはり1番は公民館建設でしょう。2番は市民防災訓練、3番は北陸新幹線の開業があげられます。

一つ目の公民館建設についてです。公民館建設の機運は以前からありましたが、なかなか前に進みませんでした。私が連長になって初仕事で、この隘路に陥った公民館建設を軌道にのせることでした。

他校下地区同様に、紆余曲折山あり谷ありで、それらを乗り越えながら今日までできました。漸く今年、長土堀交流館・中央体育館前芝生広場に青少年交流センター（仮称）が建設着工の運びとなり、その1階に長土堀公民

館が入ることになりました。

これも地域住民の一致団結した思いと、市当局の強力な後押しがあればこそ成しえたことだと思います。あらためて深謝いたします。

二つ目は市民防災訓練。これは平成25（2013）年8月に行われましたが、ここまでに至る工程のたいへんなことは想定以上でした。

駅西消防署玉川出張所の職員の皆様のご指導のもと、図上訓練を繰り返すことによって地域住民の防災意識の向上、防災士の育成、地区の現状把握等々に努めてまいりました。関係者一同非常に勉強になった出来事でもありました。

また、市民防災訓練を通じて、この地に残り、改築を決めた聖霊病院と、防災協定を締結できたこともよい思い出です。

平成27（2015）年3月には北陸新幹線が開業しました。今でも市内はたいへんな賑わい입니다。ところで長土堀地区は、景観地区であり伝統的建築物保存地区でもある長町武家屋敷群を後背地とし、中央小学校や玉川公園、玉川こども図書館等の文教施設も充実しています。さらには片町・香林坊、武蔵・近江町、金沢駅周辺など繁華街とも隣接している地区でもあります。この立地が再評価されたのか、若い子育て世代が戻りだしてきました。

今、長土堀地区に求められることは、もともとドーナツ化現象で高齢化が進み、空き家

長土堀町会連合会

〔設 立〕 昭和28（1953）年

〔町会数〕 28町会

〔世帯数〕 1,440世帯

〔組 織〕 会長、副会長2名、理事9名、会員（全町会長）、防災士6名

〔行 事〕 社会体育大会（9月）、新年互礼会（1月）

の数も年々増え続けている現状のなか、若い世代が戻りだしてきた流れを一層加速させることにより、新旧交代の新陳代謝を促進することだと思っております。

その中で、浮かび上がってきたのが民泊の問題です。この地に住む私どもにとって民泊問題は、新幹線効果の負の側面といえるでしょう。オリンピックを見据え、空き家の活用ということで政府も推奨している民泊ですが、閑静な住宅街で県内トップクラスの文教地区でもあるこの地に、毎日不特定多数の

人々が入り出し、寝泊りする施設が本当に必要でしょうか。いささか疑問に思います。

このこともあって今、私たちは、市と民泊の禁止または厳しい制限を骨子とした「まちづくり協定」を締結しようと勉強会を開催しております。

安全はもとより、安心して住める・安心して子育てができる・安心して終の棲家になりうる、そのような町にできるよう努めることが、町会連合会の大きな役割と思っております。



青少年交流センター（仮称）完成予想図



市民防災訓練風景



長町武家屋敷群内・西家



伝統と緑あふれる まちなかの文教地区 芳斉

芳斉地区町会連合会

会長 安居 知世

芳斉地区は、藩政期時代の街路が残り、鞍月用水や大野庄用水が流れるなど伝統あふれる街並みを持つとともに、新しくは玉川図書館・玉川こども図書館を中心とした玉川公園が再整備され、まちなかの緑と潤いあふれる文教地区として、住民に愛される住宅街を形成して参りました。

地理的には、JR金沢駅兼六園口前に位置し、金沢のシンボル兼六園や金沢城、繁華街の香林坊や片町、市民の台所近江町市場にも近いことや、交通面でも「ふらっとバス」が通るなど、景観もよく暮らしに便利な「一等地」として、近年、新築の住宅やマンションの建設が進んでおります。

また、新幹線開業後、観光客や飲食店が大幅に増加し町の様子が変わって参りましたが、そのような中でも、町会連合会・公民館・社会福祉協議会が連携を取り、新しく加わった住民とも絆を深め、安全で安心なまちづくりを進めております。

一方、地区内には昔ながらの狭隘な道路事情等から高齢化が進む町会もあり、積雪時の

雪かきが心配されたことから、平成25(2013)年に金沢市から仲介をいただき、町会連合会と金沢大学よさこいサークル「彩」とで、雪かきボランティア協定を結ばせていただきました。その後「彩」とは雪かきボランティアの枠を超え、公民館行事の盆踊りや社会体育大会にも参加いただき、地域の皆様と若い方々との交流により地域の活性化や住民交流の強化に繋げるとともに、若い方々や県外から来られた皆さんと、金沢の地域をつなぐきっかけづくりのお手伝いもさせていただいております。

また、自主防災会活動にも力を注ぎ、新年の出初式時には地元の消防団と連携を取り炊き出し訓練を行ったり、町会推薦の防災士の育成に努めるなど、町会の皆様にご協力をいただき防災対策にも力を注いでおります。

最後になりますが、私ども芳斉地区町会連合会の歴史を紐解きますと、昭和32(1957)年に設立された後、初代会長の来馬与吉氏は昭和33(1958)年「金沢市連合町会長協議会」結成にも尽力され、昭和45(1970)年「市町会連合会会長」就任を機に益々芳斉地区の活動を盛り立て、第二代会長吉原氏に引き継がれました。その後も歴代会長の皆様方と各町会長の皆様方のご尽力をもちまして、現在の町会の繁栄があることに心から感謝いたします。

今後とも先人の皆様方が守ってこられた芳斉地区の伝統と緑あふれる景観や生活環境を守っていけるよう各種団体の皆様とも協力し、住みよいまちづくりに努めてまいります。

芳斉地区町会連合会

〔設立〕 昭和32(1957)年

〔町会数〕 34町会

〔世帯数〕 1,424世帯

〔組織〕 会長1名、副会長2名、常任理事8名、
参与1名、防災士2名

〔行事〕 盆踊り、社会体育大会、自主防災会活動

——住民の絆を強める各種活動——



盆踊り



社会体育大会に参加の「彩」の皆さん



地域に潤いを与える玉川公園



初代雪かきボランティア協定の調印式



「新幹線金沢駅開業」 此花地区の新時代の幕開け

此花地区町会連合会

会長 山本 信一

此花地区は以前、金沢駅とバスの発着場があるだけの淋しい街でありましたが、平成18（2006）年、金沢駅前にイオン㈱のファッションビル「金沢フォーラス」が出店開業しました。

金沢駅の「あんと」の「おみやげ館」と「あじわい館」「トレンド館」を「リント」としてファッション館を開業し、平成27（2015）年には増床開業しています。

これにより当地区は、金沢の片町、武蔵地区に負けないショッピングゾーンが形成され買い物客で賑わう街になりました。又、昭和51（1976）年に都市計画が決定された、金沢駅武蔵北地区第一種市街地再開発事業が平成25（2013）年に完了。「ライブ1」・「ルキーナ金沢」・「みやび・る金沢」・「リファール」・「やわらぎ金沢」の5工区マンション複合ビルが完成し金沢駅通り線が整備されました。隣接する金沢駅武蔵南地区市街地再開発事業も進行しています。

そして平成27（2015）年3月14日土曜日、



金沢都ホテルと金沢フォーラス

構想浮上から50年石川県民悲願の新幹線開業の日を迎えました。明治31（1898）年の金沢駅開業から117年目に迎える歴史的な日に、此花地区の住民と子ども達は堀川町の応化橋に集まり、午前8時46分金沢駅到着の東京発一番列車に向かって橋の上から旗や手を振り、喜びをかみしめ新しい時代の到来に胸を高ぶらせました。開業の日には金沢駅出入口の名称も東口は「兼六園口」西口は「金沢港口」と変更されました。

新幹線ホームの発車メロディーは、金沢出身の音楽プロデューサー中田ヤスタカさんが制作、中田さんのお母さんは旧此花町小学校出身で私の同級生であります。

昭和39（1964）年に開業した金沢初のシティホテルである金沢都ホテルは、平成29（2017）年3月に営業を終了、解体工事が着工され将来複合ビル建設が期待されています。堀川新町では、飲食店ビル建設やビジネスホテルの建設計画、東大通り中島大橋の4車線での架け替え工事も進み、北陸新幹線の

此花地区町会連合会

〔設 立〕 昭和33（1958）年

〔町会数〕 27町会

〔世帯数〕 826世帯

〔組 織〕 会長、副会長2名、相談役1名、理事4名

〔行 事〕 健康レクリエーション祭、防犯・清掃活動・花苗植栽



東京発の一番列車に向かって橋の上から手を振る此花地区住民（北國新聞平成27年3月14日夕刊掲載）

大阪延伸工事により金沢駅を中心とする此花地区の発展が期待されています

平成25（2013）年、金沢駅前の公示地価が新潟駅万代口を抜いて本州日本海側で最高価格地点となり、新幹線開業後金沢市歩行者通行調査では平成25（2013）年と比較すると金沢駅周辺は2倍近くまで歩行者数が増加しています。新幹線開業前より当地区では金沢駅周辺の防犯活動や清掃活動、花苗植栽活動に積極的に参加してきました。当地区は3分の1がマンション世帯となり、住民の交流の場として夏の盆踊り・秋の公民館文化祭・バス旅行・運動会を開催、子供会は地元の安江八幡宮発祥の加賀八幡起上りの御神輿を制作し、子供達と金沢マラソンの応援や祭礼に活躍しています。別院商店街でも地元ゆるキャラ「べついいん君」を制作、此花町緑地で夏のイベントフェスティバルで飲食店屋台村と

もに住民を喜ばせています。

今後此花地区の課題として、小学校の統合や小將町中学校の中央地区への移転が計画されています。まだまだ、金沢駅周辺への飲食店の出店が予想され住民との摩擦の懸念があり、商業者の社会的責任感の醸成と商業者と住民が共有できる価値感を創造することにより共に地区の発展と住みやすい「まちづくり」が大切と思われます。

二宮尊徳の言葉である

『道徳なき経済は犯罪である

経済なき道徳は寝言である』

を心に秘め積小為大の精神で前進していきたいと思います。



別院通りゆるキャラ「べついいん君」



此花健康レクリエーション祭



「あれから10年、 そしてこれから」

瓢箪地区町会連合会

会長 中崎 龍雄

金沢市町連結成50年から10年が過ぎ、わが瓢箪地区町連も61年目を迎えました。

瓢箪地区は金沢駅、武蔵、近江町市場へは徒歩5分～10分の距離に位置しています。ショッピング等には便利な距離といえましょう。しかし、当地区も少子高齢化が加速度的に進み、スーパーマーケットが1軒もないという現実が高齢者世帯に大きな負担をもたらしています。これからは、移動販売や買い物代行サービスの利用も積極的に受け入れていかなければ日常生活に支障をきたす恐れがあり、この買い物弱者対策が少子高齢化対策の大きな課題のひとつといえましょう。

地区内には高齢者福祉施設が次々と出来ています。また、地区外の高齢者福祉施設の送迎バスの往来も、朝晩数多く見かけるようになりました。そんな中で、明成小学校の存在は地域を大いに元気づける要素のひとつです。子供たちの行動や笑い声は地域活性化の力強い原動力となります。地域の宝物（子供たち）を、地域全体で守り育てゆく環境づ

くりも大切な私たちの使命と感じています。

この10年間には様々な出来事がありました。そのうちの最たる出来事は、平成20（2008）年7月28日の水害です。未明から朝にかけて、3時間に254ミリの百年に1度と云われる記録的な降雨で浅野川が氾濫。当地区では、中の橋から中島大橋沿岸にかけて道路の冠水、家屋の浸水被害が発生しました。地区内13の町会で床上浸水103軒、床下浸水112軒。大量の土砂が道路や家屋を埋め尽くし日常生活に大きな影響をもたらしました。すぐさま地区防災連絡協議会が対策本部を公民館に設置し、避難所を開設しました。小将町中学校の教職員・野球部・卓球部の皆さん、鳴和中学校の野球部の皆さんをはじめとする多数のボランティアの方々に復旧作業のお手伝いをいただきました。皆さんの心からの温かいご支援は、思い出すたび感謝にたえません。

そして、平成27（2015）年3月14日には構想から50年を経てようやく待望の北陸新幹線が開業しました。多くの観光客で人の流れも変わり、地区内で外国の方たちをよく見かけるようになりました。やさしい気持ちで交流出来ればと思っていますが、なかなかこちらから声掛けをする勇気が出ないのが現状です。

そんな折、当地区の瓢箪町公民館からマスコットキャラクター「ひょ～たんたん」が誕生し、地域の行事を盛り上げてくれています。今後の地域活性化におおいに活躍してく

瓢箪地区町会連合会

【設 立】 昭和31（1956）年9月

【町会数】 32町会

【世帯数】 1,222世帯

【組 織】 会長、副会長3名、理事7名、防災士5名

【行 事】 防災訓練（9月）、社会体育大会（9月）、
いきいき健康教室（年7回）

れるものと期待をしています。

さて、いよいよ来年の2月から家庭ごみの有料化がスタートします。しばらくは違反ゴミの対応に追われることが予想されますが、ごみ問題＝環境問題と捉えれば、次の世代、またその次の世代の人々が安全で安心して暮らせる地域であるために、今、私たちが諸団

体と連携を密にし、地域一丸となって取り組んでいかねばならない大きな課題だと考えています。

「向こう三軒両隣」を合言葉に、子供から高齢者まで、全ての地域住民が安心して暮らせる町づくりを目指して、微力ながら尽力させていただく所存です。

——平成20年7月28日 浅野川氾濫——



昌永橋より彦三大橋を臨む



中島大橋



笠市町8番付近



瓢箪町公民館
マスコットキャラクター
「ひょ～たんたん」



馬場校下の“光”と“陰”

- ・内外からの観光客で賑わい、光り輝く姿のある馬場。
 - ・忍び寄る人口減少と空洞化が進む馬場。
- 馬場校下ではこの“光”と“陰”二つの姿がこの10年間で同時に進行した。

馬場校下町会連合会

会長 清水 満

地域の概観

滴る緑に包まれる卯辰の山並みを背にし、絶えることのない浅野川の流れを懷に抱えて馬場校下はあります。

城北大通り（国道359号線）を挟んで、東・山側には、国選定の「東山ひがし重要伝統的建造物群保存地区」、「卯辰山麓重要伝統的建造物群保存地区」の二つの“重伝建地区”が併存し、更に浅野川を挟んだ材木地区の「主計町重要伝統的建造物群保存地区」とも隣接するこの一帯は、最も“金沢らしさ”を印象付ける「歴史都市金沢」の代表的観光スポットとなっています。

平成27（2015）年3月の北陸新幹線金沢開業後、衰えることのない内外からの観光客の来訪は、町の様相を大きく変貌させつつあることから、「自らの町は、自らが創り、育てる」という理念に立って、品位と秩序を備えた営業活動や、平穏で安全な日常生活を維持して行くために、住民の総意に基づく町会・地域単位での「まちづくり協定」が次々に締結されています。^{（注1）}

一方、西・海側には、馬場小学校、馬場公民館、ひがしやまこども園、東山苑など文教、福祉施設が、一般住居生活ゾーンの中に在り、地域に溶け込んで存在しています。また、藩政時代、藩士たちの乗馬修練場としての“馬場”＝「関助馬場（東馬場）」があった地域であり、当時の道筋がほぼそのまま現在に残っています。それは、車が行き交うには速度を落とさなければならぬやや狭い道幅で、それは住む人たちのきめ細やかな人情が通い合うには適度な道幅なのであって、下町風情が漂う家並みが連なり、そこには確固とした地域コミュニティが醸成されています。

校下町連は、現状の平穏で安全な日常生活や景観・風情を守り続けるために、地域を限らずに校下全域において、積極的に町会単位・地域単位での「まちづくり協定」締結を勧めています。

地域の現状

このような「情緒豊かな環境」に包まれたこの地域には、日本舞踊、邦楽、金沢素囃など伝統芸能・茶屋文化に携わる人々が多く住み、金沢の歴史と伝統文化を支え、次代へとその技と心を繋いでいます。また、建具、大工などの職人、金箔工芸、友禅、染織工芸などの伝統工芸を生業とする人々も多くいます。平成22（2010）年10月北安江から移転新築された市立安江金箔工芸館はその象徴的な建物と言えましょう。

少子高齢化を伴う人口減少は、近い将来の日本のマクロ的社会問題であるとされていま

馬場校下町会連合会

- 〔設 立〕 昭和33（1958）年
- 〔町会数〕 29町会（設立当初32町会）
- 〔世帯数〕 1,181世帯（町会より申請数）
- 〔組 織〕 会長、副会長2名、会計、理事若干名、監査役2名
- 〔行 事〕 グッドマナー実践活動、社会体育大会、雪かきボランティア学生の諸活動

すが、先駆けてミクロ的地域社会問題として馬場の地域にこの問題は、既に覆い被さって来ています。10年間の馬場校下における急速な人口減少と高齢化率の推移は表の通りであり、地域社会に影響を及ぼしています。

平成(西暦)	月	人口	世帯数	高齢化率
20(2008)	12月	3,503人 (外国人含まない)	1,500戸	33.00%
29(2017)	5月	2,956人 (外国人含む)	1,418戸	41.70%
増減		-547人	-82戸	8.70%

(金沢市 小学校通学区区域別・年齢階級別人口 世帯数より)

◇町内会をはじめ各種団体組織における役員の成り手不足。

◇空き家の増加、空き地の発生・拡大による空洞化。

◇孤独死の発生。

◇小規模マーケットの閉鎖による高齢者の「買い物弱者化」。

などのコミュニティ機能の一部が毀損される現象が起きつつあります。

このような状況の中、毎年町連と金沢市、学生等の三者で協定を結んでいる「雪かきボランティア」の金大生たちには、雪かき活動のみならず、社会体育大会での準備支援や清掃活動などのさまざまな地域支援のためのボランティア活動を要請し、実施されています。



浅野川氾濫 (2008年7月28日)



北安江から移転新築した安江金箔工芸館 (2010年10月)

「馬場小問題」

平成28(2016)年7月、金沢市教育委員会から町連に対して、馬場小学校の明成小学校への「統合」の提案がなされました。

町連は、直ちに既に立ち上げていた各種団体代表者などからなる「学校問題検討委員会」をこの問題の受け皿にし、検討を始めています。

町連は、馬場小学校が、3年後の平成32(2020)年に創立150周年を迎える金沢で最も古い歴史と伝統を誇る小学校であることや、地域における小学校の存在は、地域統合の象徴的・核心的存在であるということを深く考慮し、「統合」の提案を単に学校の問題としてではなく、地域コミュニティーにとっては極めて重要な問題であると受け止め、「学校問題検討委員会」を中心に熟慮を重ね、校下住民の意見を尊重しながら検討して行かなければならないと考えています。

(注1) 馬場校下で締結されている「まちづくり協定」、「まちづくり協議会」

1. 東山ひがし地区まちづくり協定
(平成15年10月締結、平成28年10月27日改定)
2. 卯辰山麓まちづくり協議会 (平成19年9月1日発足)
3. 東山大通りまちづくり協議会 (平成23年8月8日発足)
4. 木町1番丁まちづくり協定 (平成28年7月25日締結)
5. 木町2番丁まちづくり協定 (平成29年1月23日締結)



町連設立50周年記念碑の除幕風景 (2009年5月6日)



99番目のグッドマナー宣言団体となる (2015年10月25日)



喫緊の課題をひとつ一つ 解決していかなば

浅野町校下連合町会

会長 畠 善昭

金沢に誇りをもって歩みたい

戦後の虚脱と混乱の真ただ中で祖国復興、郷土復興を願い、連合町会も産声を上げ早60年の月日が経ちました。

人間でいえば還暦、論語で「60にして耳順う」（みみしたがう）の一節があります。自立し他人の意見にも耳を傾けよう。というより心に余裕をもって他人の忠告を冷静に聞こうということと理解しています。

この60年間、先達が築られました「歴史と文化と伝統で世界に誇れる日本」の中核金沢に住まいでいることに大きな喜びと誇りを持つ者の一人です。これから続く若い人たちにこの遺産をしっかりと引きつがせる責任と義務があります。

先日、60周年の記念誌発行について寄稿依頼がありましたが、私自身何しろ今年初めて町会連合会会長をお引き受けしたばかりでございませう。

私が今年から取り組んでいきたいテーマで校下の町会長さんに話をさせていただいたこ

との一部をご披露申し上げます。

町会連合会の何たるや知りませんので、趣旨から逸れご批判を頂くことを承知で記します。皆様方のご批判を頂ければと思います。

私たちの重点政策

街はそこに住む人が作り出すものです。換言すれば、そこに住む人を育て上げたい。これが私の街作りの基本理念です。

連合町会は行政の下請けでもありません。また、連合町会は行政に何を貢献できるのか、独立性を保ちながら原点に戻り考えなければならぬのが60年の節目でないでしょうか。一人一人のそこに住む街の愛情が、また、その街を作り上げようという自覚の集積がその街の品格を構成していきます。

連合町会としては守ろう「マモル君」を徹底し金沢の北の玄関口に相応しい街づくりに取り組んでいきたいものです。

具体的な行動展開は

マはマナー

モはモラル

ルはルール

犬猫の糞の始末、ゴミ出しのルールを守ることを徹底し綺麗な街、浅野町校下に住んでみたい、住みたい、そんな街を住民全員で共有できればと思っています。

浅野町校下連合町会

【設 立】 昭和31（1956）年4月

【町会数】 19町会

【世帯数】 2,105世帯

【組 織】 会長、副会長2名、顧問、町会長19名、
各種団体長15名、防災士10名

地域コミュニティへの積極的な参加

近年における人口減少、高齢化、少子化の波により、地域コミュニティ組織の機能は低下、むしろ減少傾向にあり金沢市においても行財政改革が喫緊の課題になっています。

また、私たちの生活面でも、核家族化や一人世帯の増加、住民同士の繋がりやの稀薄化などが懸念されています。

浅野町校下はいまこそ、地域特性を活かした諸資源を背景とした、相互扶助、共同作業、親睦事業、文化の承継まさに「共同体」とした住民にとって必要なものに、これから取り組む必要があります。

このような視点で「地域コミュニティ」の維持と更なる活性化に取り組む必要があります。



防災訓練（平成28年8月28日）



校下新年会（平成29年1月29日）

地域防災力の更なる充実に向けて

浅野町校下はご存知の通り、平成20（2008）年7月28日、歴史に残る「浅野川氾濫」により大きな災害を受けたにも拘わらず被害は最小限に食い止めることが出来ました。また、森本、富樫活断層では河北郡津幡町から白山市明島までの全長26kmにはいつ発生してもおかしくないといわれている活断層が通っています。

災害を正しく理解し、万が一にも被災した場合どのような行動をとるべきか、そのために事前から備えなければならないものは何か、を習得しておくことが重要だと思います。このようなことを念頭に置きながら街の活性化を図り、安心で安全で明るい街を作り上げる覚悟でございます。

60周年の歴史の年輪を重ねてこられましたことに重ねてお祝いの祝意を申し上げます。



浅野川氾濫時（平成20年7月28日）



校下体育祭（平成28年10月1日）



伝統と親睦融和の森山

森山校下町会連合会

会長 谷村 憲治

私達、森山校下は、藩政時代以来の旧市街地と、昭和11（1936）年に金沢市に編入された、旧河北郡小坂村の一部とから成り立っていますが、昭和30年代に入り、宅地化を目指して相次いで実施された、土地区画整理事業により、農地から宅地（市街地）へと大きく変貌しました。只其の中でも、旧北国街道参勤交代の下街道として栄え、その総門だった、大樋松門（3代目）は、現存し往時の名残りを留めています。

伝統産業である大樋焼きや、製箔業が盛んであり、謡曲や詩吟、民謡等が、公民館や個人教授により、愛好者に伝承されています。森山校下のみなさんが、長年の念願だった、金沢市で一番古い校舎（昭和31年）といわれた森山町小学校は、みなさんの協力により、平成29（2017）年4月から、いよいよ改築工事に入ることになりました。平成32年4月から、新1年生が入学出きると思います。

校下の現状は次のとおりです。

森山校下町会連合会

- 【設 立】 昭和33（1958）年8月
- 【町会数】 46町会
- 【世帯数】 2,724世帯
- 【組 織】 会長、顧問、副会長3名、理事会計、理事6名、会計監査2名、事務局2名、防災士8名
- 【行 事】 太鼓行列（6月）、子どもお神輿（6月）、子どもはしご登り（6月）、もみじ太鼓（6月）、もりやま大運動会（10月）

1. 町会数は、46町会と2,724世帯です。
2. 平成23（2011）年度に、卯辰山麓地区が全国86番目、金沢市では、主計町、東茶屋街に次いで、3番目の伝統的建造物保存地区（略して、伝建地区）に認定されました。
森山校下では、山の上町の一部と東山2丁目地内で、馬場校下では、東山1・2丁目が含まれます。各関係者が連携して活動しています。
3. 藩政時代は、神宮寺の社僧達の所領であった住宅密集地である。旧大衆免地内の狭隘な市街地を改良し住み良い町造りをする為、地区内有志で「森山地区防災まちづくり協議会」を設け、市街地改良に向け活動中です。
4. 一方災害時の緊急救急目的で、平成21（2009）年に市で計画実施された、鳴和町→山の上町天下台団地間の防災道路の建設は、鳴和町地内で一部実施されましたが、其の後は頓座しています。早期の実施を要望したいところです。
5. 毎年文化の日は、公民館文化祭において、式典は勿論、校下の各種団体の協力のもと、校下の歴史や教養的な展示を企画し、又、模擬店では、校下民多数が参加し活況を呈しています。
6. 3年毎に、実施され好評を得てきた、校下社会福祉協議会主催の「森山福祉まつり」には、校下挙げて協力しています。

7. 市の伝統芸能の継承発展を目指し公民館で、謡曲や民謡教室を開いています。

8. 小学校と地域が一体化して「もりやま大運動会」を実施するなど、先進的な公民館活動をしています。

9. 1年間を総括する年末開催の校下大会では、森山校下の各町会で長年役員として貢献された方を表彰すると共に其の年の叙勲褒章受章者を招き、校下合同祝賀会を開き、其の栄与を讃えています。

10. 平成24（2012）年から、百万石まつりの3日目に、金沢城公園で開催の加賀百万石盆正月に、子供みこしと、子供はしご登りが毎年参加をしています。

11. 金沢市整備局緑と花の課の「卯辰山公園マナーアップ」の清掃活動に、毎年協力しています。

12. 森山校下町会連合会・日赤奉仕団・健康を守る市民の会との合同研修日帰り旅行を、年間1回実施をしています。



合同研修会日帰り旅行（平成28年11月6日）



文化祭（平成27年11月3日）



子どもはしご登り



子ども神輿



もみじ太鼓



もりやま大運動会



レンコンの産地から住宅地に

小坂校下町会連合会

会長 松本 明

立地と概要

IRいしかわ鉄道東金沢駅を中心として、城北大通（国道359号）を東西に挟み、夕日寺、浅野、森山、千坂と接し、小坂小学校、北鳴、鳴和中学校の他に稲置学園があり、かつてのれんこん畑の多くは宅地化されましたが、しろはす、はすのみ、はすの里の公園やアパート、商店等の名前にもはすが使われ、往時のれんこんに対する住民の愛着が伺えます。

平成20（2008）年4月1日

18町会 世帯数4,398、人口10,963人

平成28（2016）年4月1日

20町会 世帯数4,965、人口11,660人

平成29（2017）年4月1日

20町会 世帯数5,001、人口11,711人

（金沢市統計による）

主なできごと

平成21（2009）年 市民防災訓練の実施

平成22（2010）年 山側環状道路神谷内インターチェンジ開通
平成24（2012）年 小坂公民館60周年記念式典
平成26（2014）年 小坂校下町会連合会結成50周年記念式典
平成28（2016）年 土砂災害避難訓練
〃（〃）年 東金沢駅前「かがやき公園」「西口P&R駐車場」の完成

変貌する環境

平成27（2015）年3月14日、北陸新幹線開業の同日、IRいしかわ鉄道も運行を開始しました。

駅舎と駅西消防署小坂出張所の間に公園（約3,200㎡）が整備され、地元、小、中学生から公募した「かがやき公園」と名付けられ、近くの「こども園」の幼児が元気に遊ぶ姿が見られています。

大人の感覚では「かがやき」の呼称は思いがけず、名付けた児童、生徒が永く親しんでほしいと願っています。

また、西口にはP&R専用として市内初の公営駐車場（約2,900㎡）、（110台）が設けられ、休日は無料で利用出来、交通の結節点としての市中心部の渋滞を緩和させる機能として利用されています。

小坂社会文化センターの玄関ロビーに蓮田を遠望する絵（南萬三氏）が飾られています

小坂校下町会連合会

〔設 立〕 昭和39（1964）年4月

〔町会数〕 20町会

〔世帯数〕 3,280世帯

〔組 織〕 会長、副会長2名、監事2名、会計1名、全町会長20名、防災士（男性11名、女性5名）

〔行 事〕 社会体育大会（9月）、校下文化祭（10月）、成人式（1月）、互礼会（1月）

が、その多くが宅地化されたことは上述の通りです。

他方、山側環状道路の全通と疋田上荒屋線の開通により、更に宅地化が進み、10年間で世帯数が18%増になり、現在も三池栄町内では建築の槌音が途切れることはありません。

山側環状道路の東長江インターと神谷内インターの開通で一時は近辺の交通混雑は解消されましたが、最近は朝の通勤時間帯の神谷内交差点は上下とも金沢市内では最も渋滞はげしくなっていて、更なる対策が必要となっています。

今後の取り組み、抱負、将来に向けて

現存マンション2棟に加え、更に1棟が建設中で、合計約200世帯が、町内会が未結成で、設立を呼びかけ住民の融和のために早い時期の結成を願っています。

御所町の古墳群、〈1335（建武2）年に大

納言二条師基が加賀国司として下向し館を築いたという伝承〉と山側環状道路建設時に発掘された神谷内古墳群を地域おこしにつなげたい考えです。

また金沢マラソンで披露した子ども梯子のぼりは同じ年頃の子どもたちにも刺激になり、将来の消防団の活動にも積極的に参加して貰えれば嬉しいかぎりです。

今後もより一層住民の結束を強め、防災意識の向上に努めたいと思います。



町会連合会50周年記念式典・祝賀会



東金沢駅前かがやき公園 東金沢駅西P&Rパーク駐車場完成式



金沢マラソン応援スポットでの子どもはしご登りの披露



市民防災訓練



校下各種団体新年互礼会



千坂の地域コミュニティ 住民の「絆」が千坂の「力」

千坂校下町会連合会

会長 西田 稔

千坂校下の各地域コミュニティは、町会や公民館、地区社会福祉協議会、各種団体など様々な地域コミュニティ組織に支えられてきました。

しかし、近年の地域社会は、モノの豊かさを求めていた「成長時代」から、福祉保障、環境破壊、少子高齢化（人口減少）、核家族、災害、無縁化社会、共同体の崩壊などの不安要因に直面しています。

さらに、町会（地域コミュニティ）においては、会員や行事参加者の減少、町会役員の担い手不足、運営のマンネリ化により、子育てや教育、地域の安全・安心や環境対策など、これまでの地域コミュニティ活動に支えられてきた地域の絆が衰退しつつあります。

自治体は市民との協働政策、地域社会は自立・自律により人間主義を軸にしながら人のこころの豊かさ（幸せ）を求める質的充実、人の「寛容」と「包摂」の成熟地域社会を目指します。千坂校下各種団体と住民の「絆」が千坂の「力」で「千坂地域コミュニティ」です。

このような中、金沢市では市政の重要なパートナーである地域コミュニティ組織が、これまで以上に活発な活動が行われるよう支援し、再生するため、「自助、共助、公助」を基本として「市民と協働のまちづくり」地域コミュニティの醸成を目指す「金沢市における地域コミュニティの活性化の推進に関する条例」を掲げ市民と自治体による協働と連携のまちづくりです。

千坂校下では、地域の多様な人材や資源の有効活用、組織の集約・再編などを目指し、校下にある様々な地域コミュニティ組織が有機的に連携する地域コミュニティ協議会を設立し、幅広い団体・個人の参加のもと、活力ある地域づくりに向けて取り組みを進め、「共に助け合いみんなでつくる活力ある地域コミュニティ」を目指します。

石川県知事表彰授与

「地域の特色を活かした防災活動」

千坂校下自主防災会

千坂校下自主防災会の防災・減災活動は、毎年1回、千坂小学校合同の総合防災訓練にあります。

自分の命は自分で助ける「自助」の重要性から住民を対象とした一次避難訓練、安否確認訓練を継続的に実施、避難生活を想定した避難所の運営訓練では、人HUGを実施、女性の視点を取り入れるため女性防災士を登用する等組織力の向上に努めています。また、

千坂校下町会連合会

【設 立】 昭和40（1965）年4月

【町会数】 23町会

【世帯数】 4,935（2017年9月）

【組 織】 会長、副会長3名、会計、常任理事5名、
防災士14名

【行 事】 防災訓練（8月）、社会体育大会（9月）、
新春の集い（1月）

地域女性の協力による避難者への炊き出し訓練、AED取り扱い訓練・救急救命講習、図上訓練、車中泊対応訓練を実施するなど地域の特色を活かした防災訓練を計画的に行い毎回5,500名もの多くの住民が参加しています。

千坂校下自主防災組織とは

「自分たちのまちは自分たちで守る」、地域の防災活動を効果的に行うための組織です。

東日本大災害の教訓から、「備えていたこ

としか、役に立たなかった」「備えていただけでは、十分でなかった」ことから、最後にももの言うのは、一人ひとりの状況の判断と応用であった。

自主防災会の新たな取り組みでは、防災・減災に関する活動を地域社会が日常的に取り組んでいる活動の中に、防災・減災活動の取り込みを行い、生活まると防災・減災を目標とし、災害に強いまちづくりを目指しています。



コミュニティ活動 社会体育大会



支え合い活動 地域サロン



伝統文化保存活動 千木町獅子舞保存会



健康推進活動 健康教室



安全・安心活動 防災訓練



環境衛生整備活動 生活用水管理



自然と歴史の里 夕日寺 温もりと絆のまちづくり

夕日寺校下町会連合会

会長 中川 一成

金沢の東に位置する夕日寺校下は、四季折々に医王山、戸室山の美しい姿を仰ぎ、金腐川の清流と緑豊かな自然に恵まれた地域であり、また鎌倉時代末期の創建とされる勅願寺伝燈寺や、泰澄大師、蓮如上人にまつわる史跡、伝説を多く残していて往時の様子に想いをめぐらせることができます。

昭和40（1965）年までは6町会約200世帯の校下でしたが、同41（1966）年に高田団地、同42（1967）年に山王団地、同51（1976）年に東長江団地、同59（1984）年に御所ニュータウンが完成し、現在は12町会、約1,600世帯となっています。この規模と構成はお互いに顔が見える良さをもち、各種活動において結集協力しやすい規模であり、町会の加入率100%からも地域の絆を感じ校下の魅力ともいえます。

金沢外環状道路山側幹線が開通し東長江インターが設けられ地域の利便性は格段に向上し、一般県道清水・小坂線の改修工事、同線

と主要地方道金沢・井波線との連結、さらに市道塚崎・牧町線の改修工事も進み、地域内の安全性の向上にもつながっているところです。現在は金沢外環状道路山側幹線の4車線工事が進められ渋滞緩和が期待される場所です。

世帯数が増加したことに伴い児童数も増加し、平成17（2005）年に夕日寺小学校校舎が移転新築されたことにより、平成22（2010）年に旧校舎を改装した新たな地域のコミュニティの拠点となる夕日寺交流館が竣工し、校下の精神的シンボルの一つとして公民館活動、社会福祉協議会活動などの各種活動の場となっています。

校下の中心にある夕日寺健民自然園には、化石の広場、とんぼサンクチュアリ、サンショウウオ観察池などが保全され、全長4.5kmになる散策道も整備されていて里山を守る取り組みがなされています。いま、夕日寺県民自然園から卯辰山自然公園をとおり金沢大学角間キャンパスまでの遊歩道の整備も進められ、さらに多くの来訪者を呼び込み里山整備の充実が期待されます。

校下には自然豊かな地で先人たちが生み出した歴史文化遺産が数多く残されていますが、その遺産に再び光をあて継承する活動も始まっています。平成23（2011）年に発足した金腐川環境保全委員会は校下の自然環境を後世へ残していく活動を目的に小学生を対象にした学習塾を開き、地域の草花、水生生

夕日寺校下町会連合会

〔設 立〕 昭和25（1950）年頃

〔町会数〕 12町会

〔世帯数〕 1,619世帯

〔組 織〕 会長1名、副会長2名、会計・事務局1名、
会計監査2名、理事12名、防災士6名

〔行 事〕 自主防災訓練（8月）、いきいき健康教室（年6回）・社会体育大会（9月）、文化祭（10月）、三ノ坂遊歩大会（4月）、グランドゴルフ大会（年3回）

物の観察を続けていますが、加えて地域伝統作物の伝燈寺サトイモの植え付け収穫も行っています。伝燈寺サトイモは伝燈寺地区を中心に盛んに栽培されていましたが、面積当たりの収穫量が少ないことから近年は生産者が少なくなっていました。現在は、伝燈寺里芋栽培研究会、金沢星稜大学の学生の協力を得て栽培普及活動の広がりが見られます。また平成24（2012）年には、市の無形民俗文化財に指定されている長江ジョンカラ節保存会が発足し伝統芸能をよみがえらせる取り組みも始まっています。

校下の名前にもなっている夕日寺は、泰澄大師が養老3（719）年にお堂を建立し下日寺と名付けられ、その後夕日寺と云うようになり、今はその名が町名になっています。その夕日寺建立1300年を迎えるにあたり校下の各種団体合同で記念事業を計画し、史跡文化の荒廃が進み消滅の危機さえも感じられる

校下の大切な資産とともに、後世へ引き継ぐ体制の構築を進めています。

一方で、私たちの校下は金腐川が中央に流れその両岸には中山間地が続き、近年のゲリラ豪雨による土砂災害に対する意識は高く、毎年夏には校下全体の防災訓練として避難訓練や避難所運営訓練を夕日寺小学校の児童と合同で行っています。

今後の課題として、少子高齢化・人口減少の流れの中でますます地域のコミュニティ力が必要となり、地域の行事・活動の活性化が求められるところですが、若い世代が地域行事・ボランティア活動に参加しやすい環境の整備が重要と考えます。そのうえで、住民同士が地域の将来ビジョンを語り合い、金沢市の中心地から最も近い里山・中山間地として、市街地と共存する里山のモデル地区となる、明るく潤いのある元気な街づくりを目指します。



校下一斉防災訓練（防災ヘリコプター）



夕日寺歴史研究会（史跡の探索）



夕日寺環境学習塾（伝燈寺里芋の収穫）



社会体育大会（開会式の様子）



住み良い町づくりをめざして

諸江地区町会連合会

会長 楠 景二

諸江総合福祉センター建設をめざして

けやき児童クラブの発足

当地区では、住民の要望を受け平成13（2001）年に学童保育「けやき児童クラブ」を地区内の県営住宅の一室を借りて発足させました。その後、入所希望の児童数増から平成18（2006）年に諸江町小学校敷地内に移転し、2室で運営することになりました。更に児童数が増加したことから県営住宅の一室を再度借りて「第2けやき児童クラブ」を開設、定員は140人になりました。

建設計画に着手

諸江小の一室と県営住宅分は借室であり、両クラブとも設置基準は満たしていますが、くつろぎのスペースや雨天時の遊びの空間は十分なものではありません。子どもたちが放課後を落ち着いて過ごせる、ゆとりの場を設けるべきではないかとの地域の声に応じて、平成17（2005）年4月「諸江地区福祉活動

5ヶ年計画」の策定に際し、児童館と学童保育の施設を含む「福祉総合センター」の建築計画を盛り込みました。平成20（2008）年4月に「諸江まちづくり基金」を創設し、各世帯、毎月100円を5年間拠出、2,500万円を目標額として資金の積み立てを開始しました。平成25（2013）年11月に目標額に達したのですが、この間に、物価や諸費が少しずつ高くなり、試算の結果、費用はほぼ倍額になることが判り、目標額の見直しをするとともに積み立て期間を更に5年間延長することになりました。

期成同盟会の発足

平成26（2014）年度末に積立額が目標の8割に近づいたことから、用地の選定、自治体との協議、建築内容の具体的検討をするため、平成27（2015）年4月から、建設期成同盟会設立の準備に入りました。約1年間にわたり各種団体役員、福祉協議会役員、公民館関係者、町連役員らが集って規約の内容と策定手順について協議を重ね、平成28（2016）年5月24日に「諸江総合福祉センター建設期成同盟会」を発足させました。

今後の見通し

今後の大まかな予定は平成29（2017）年度に用地選定、30（2018）年度に実施設計の確定、31（2019）年度に建設、32（2020）年1月に供用開始となっています。

諸江地区町会連合会

【設 立】 昭和63年（1988）年4月

【町会数】 23町会

【世帯数】 3,899世帯

【組 織】 会長1名、副会長3名、会計1名、監査2名、事務局1名

【行 事】 総会（4月）、もろえ夏祭り（8月）、社会体育大会（10月）、もろえ文化祭り（11月）、成人式（1月）、互礼会（1月）、町会対抗ボーリング大会（2月）

金沢マラソンのスポット応援に取り組む

実行委員会の設立

平成27（2015）年秋の金沢マラソン2015の開催に際しては、初めてのことであり当地区は沿道応援と併せて鞍月・栗崎の両校下の皆さんとともに県庁前でパフォーマンスを交えたスポット応援に参加しました。事後、当地区内の幹線道路がコースに組み込まれていることから、独自にスポットを設置して応援してもよいのではないかと意見がでました。こうした地域の声を受け、平成28（2016）年度当初に、鞍月・栗崎の両町連の役員と公民館関係者と協議させていただき、当地区独自の応援スポットを設置することにしました。澤飯英樹市議、松本忠明公民館長、町連役員らで地区内のコースを踏査し、北安江交差点横をスポット設置場所に選定、隣接の会社や店舗、神社に協力を依頼しました。公民館と町連が中心となって実行委員会を設立し、隣接店舗のご支援・ご協力を得ながら諸準備を進めました。

当日を迎えて

出演に応募いただいた各団体と演目・出演順の調整について数回の打ち合わせを行いました。10月23日当日の運営には女性会にもご協力をいただき、謡舞会もろえ（民謡踊り）、夕風・鼓太郎鼓太姫（和太鼓）、KITA舞人（YOSAKOIソーラン）、諸江住吉おどり保存会（伝承おどり）、諸江上丁獅子舞保存会（獅子舞演技）、消防諸江町分団（梯子のぼり）、おもろえ一座（ちんどん屋）の各出演団体によるパフォーマンスとともに、地域の人たちが一体となった熱気あふれるスポット応援を展開することができました。



町会対抗ポーリング大会（マンボウ金沢店、平成29年2月）



もろえ夏まつり（アル・プラザ金沢前、平成28年8月）



社会体育大会（諸江町小学校運動場、平成28年10月）



消防諸江分団梯子登り（金沢マラソン2016、北安江スポット）



諸江上丁獅子舞保存会（金沢マラソン2016、北安江スポット）



安心安全で住みよい街づくりへ

浅野川校下町会連合会

会長 山田 博秋

はじめに

浅野川校下は浅野川下流左岸にあり、南北に長く8つの町会があり隣は内灘町です。そして北陸鉄道浅野川線の駅が5つあり、金沢駅に行くには非常に便利なところ。また、晴れた日には浅野川の堤防から、白山と立山連峰が同時に眺めることができる、金沢市の中でも数少ない場所もあります。

環境の変化

ここ数年で一番の変化は、海側幹線の開通と大河端地区の区画整理です。金沢外環状道路海側幹線は、平成25（2013）年3月に大友～大河端までが暫定2車線で共用され、平成27（2015）年2月に全線共用されました。現在は福久町までの延長工事が進んでいます。同時に、のと里山海道と海側幹線をつなぐ、市道「北間～中橋」線の大河端～北間間が4車線化され、能登へのアクセスが格段に向上しました。またこの道路には住民の要望により4基の信号機が設置されました。



金沢外環状道路海側幹線

また、準備段階から15年を要した、金沢副都心北部整備大河端土地地区画整理事業も完成し、商業施設が15店舗、100世帯を超える住宅が建設され、一挙にひとつの町内ができたほど人口が増加しました。

この区画整理事業などにより、平成26（2014）年からの3年間に、150世帯384名が増加することとなりました。

更新

児童クラブは平成24（2012）年に増築しましたが、その後の入所希望の児童の増加に追いつけず、平成28（2016）年12月に2つ目の児童クラブが増築されました。

また、校下に2つある保育園は、弓取保育園が平成27（2015）年、かたつ保育園が平成28（2016）年に新園舎になり、すばらしい環境で子供教育が行われています。

安心安全

見える防犯活動として、青パトによる巡回

浅野川校下町会連合会

- 【設 立】 昭和58（1983）年
- 【町会数】 8町会
- 【世帯数】 2,147世帯
- 【組 織】 会長、副会長2名、相談役1名、顧問1名、理事8名（全町会長）、防災士5名
- 【行 事】 新年互礼会（1月）、初顔合わせ会（2月）、いきいき健康教室

を行っています。これは毎回、各町会の代表者が4～5名集まり、校下全体をパトロールして、防犯意識の向上と地域の安心と安全を守っています。そのためか西警察署管内でも事件事故の発生率が低い地域となっています。

また、消防ポンプ車と要員機材搬送車も平成24（2012）年に15年ぶりに更新されました。

各種団体との情報共有

毎月町会長会議を開催し、情報の伝達や今後の活動などについて話し合っています。この会議には各団体長も出席し、情報の共有化と連携を図っています。

外国人の増加

かたつ工業団地や事業所で外国人が採用されるようになり、町内でも外国人の姿を見か

けるようになりました。今後はこれらの人々との付き合い方も、考えていかなければならないと思っています。

他に

北間町では7年をかけ、お年寄りからの聞き取りや歴史資料を参考に、小史「語り継ぎたい わがふるさと」を発刊しました。また、平成26（2014）年には町会会館も新築しました。

最後に

浅野川校下の目標である、「安心安全で住みよい街づくり」を目指し、防災訓練や防犯活動などを通じて住民の連帯感を深め、浅野川校下を活気ある住みよい町会にしていきたいと考えています。



北間～中橋線（北間付近）



海側幹線延長工事



商業施設群（大河端地区）



青パト巡回の皆さん



「潤いと融和に満ちた未来に拓ける 賑わいの街“鞍月”」を目指し

鞍月校下町会連合会

会長 西野 茂

発展の軌跡

鞍月校下は、金沢の西に位置し、かつての石川郡鞍月村から、昭和10（1935）年に金沢市に編入した新市内と言われるエリアです。

昭和35（1960）年に鞍月校下町会連合会が結成され、即、当時設立間もなかった金沢市町会長協議会（現金沢市町会連合会）に加入致しましたが、当時の鞍月校下は、6町会410世帯で、春は梨の花やレンゲ草が咲き匂い、秋には一面の稲穂が茂るといったのどかな田園地帯でした。

鞍月校下発展の兆しが見えてきたのは、昭和40年代に入って、国道8号線バイパス開通、金沢駅から海側へ延びる50m道路（金沢駅・港線）の構想や、金沢港の開港等の大規模な開発プロジェクトが施工された頃です。その後、地場産業センター等、石川県の基幹産業の中核をなす公共施設が多数建設されると共に、これら施設の利便性を確保する為の道路網の整備が進み、今迄の農村地帯から大きく変化を遂げる事と成りました。



県庁周辺を望む（『金沢市町会連合会50周年記念誌』より）

特に平成に入って、駅西再開発を目指し、鞍月土地地区画整理事業が施工され、鞍月エリアに「石川県庁」が移転された事から、鞍月にとって新たな歴史の1ページが生まれました。

この間10数年前から、町会連合会としては「潤いと融和に満ちた街“鞍月”」を街造りスローガンとして、校下住民自らの手で、これまでの良き伝統・風土を保ちながら、都会型行政ともたれ合いの村行政の良いところ取りの、住んで良い街・安全なまちづくりを目指す事とし、新たに「街づくり協議会」を設置して、4つの検討委員会を結成し、検討活動を開始して参りました。

その大きな成果の一つとして、熱意ある住民の皆さんの理解と、多大な支援を頂き、人口増に対応した「新文化会館」（愛称くらら）の建設に至った事です。今では鞍月の文化拠点として、多くの各種サークル活動や子供達の遊び・学びの場として、フル活用され、毎月の町会長定例会議や各種団体の例会等も整った会議設備の中で、効率よく利用され、高い評価を得ているところです。

鞍月はまだまだ発展途上と言えます。駅西における中核エリアとして、これからも絶え

鞍月校下町会連合会

〔設 立〕 昭和35（1960）年

〔町会数〕 8町会

〔世帯数〕 4,179世帯

〔組 織〕 会長、副会長3名（含む会計1名）、監事2名、町会長8名、事務局1名（兼務公民館主事）、防災士8名

〔行 事〕 新年互礼会（1月）、鞍月ふれあい体育祭（5月）、サマーフェスタin鞍月（7月）、鞍月ふれあい文化祭（10月）、鞍月校下防災訓練（10月）

ず街造りの研鑽を重ね、県庁所在地校下として、品格と風格の有る、崇高な街造りに努め、住民と共に歩み続ける町会連合会として、努力をして参ります。

鞍月の地域特性を生かした組織運営

鞍月が「金沢市連合町会長協議会」に加入した頃と比較すると、世帯数は約8倍の4,179世帯、人口は約4.5倍の10,398人（平成29年2月現在）に増加しました。正に躍進する鞍月です。

校下8町会（直江町、御供田町、南新保町、鞍月新町、近岡町、戸水町、直江北1丁目、大友町）を代表する各町会長と各町会のサポートを基本任務とする会長等の専任役員からなる構成が鞍月の特性です。

鞍月校下町会連合会は、上記のとおり他の町会連合会に比べ、1町会当たりの世帯数、人口が多いのが特徴です。これには歴史的経緯があつて、校下の急激な発展に伴う人口増加が昔からの町会を核にして伸びてきたことによるものですが、現在では、規模の大きさをうまく取り込んだまちづくりが行われております。

また、町会連合会の組織運営も、構成する町会数が少ないため、月1度の定例会を中心に密

度の濃い活発な論議が行われ、鞍月校下の最高意思決定機関としての機能を果たしております。

鞍月の活性化を支える各種団体の活動

鞍月校下には、公民館をはじめとする17の各種団体によって「鞍月団体協議会」が結成され、住みよい、安全・安心な街づくりに日夜努めています。

また、各種団体の活動は、年度毎の予算・決算時に定例町会長会議に報告され、団体と町会との密接な連携が保たれています。

鞍月の祭り・芸能

1. 「南無とせ節」：戸水町に約500年前から伝承されている盆踊り歌です。
2. 「お手古」：日本各地に伝承されていた「にわか」の鞍月版で各町の祭りの出し物です。
3. 「うさぎ踊り」：近岡・直江・南新保の祭りの出し物で、昔の粟ヶ崎遊園地の役者が教えたとの伝承があります。

鞍月の自主防災会

「自分たちの地域は自分たちで守る」という共通認識を育み、災害を最小限に防ぐことを目標に平成9（1997）9年に結成され、中学生と共に鞍月校下あげて毎年訓練を重ねています。



鞍月文化会館くらら



発展を遂げる鞍月エリア



町会長定例会議



防災訓練



金沢と内灘 そして能登へ 新幹線・港・空港・橋でつなぐ 共に躍進する「あわがさき」

栗崎校下町会連合会

会長 西澤 寛一

この度、金沢市町会連合会が昭和37(1962)年に結成されて今年で60周年を迎えられ心よりお慶び申し上げます。

振り返りますと我が栗崎校下町会連合会は、昭和38(1963)年に金沢市町会連合会に加入し、その歩みは共にその時代その時代の中で着実に住み良い町づくりを進めてまいりました。地域住民の安全安心な生活を守るためには、石川県や金沢市の行政指導を受けながら様々な活動に参加し、また我が校下自らも活力あるまちづくりの推進のためのコミュニケーションを図り、地域住民に喜ばれる数多くの効果や功績を上げてまいりました。

我が栗崎校下は、金沢市の北西に位置し日本海と河北潟から流れる大野川右岸に面した地域にあります。

歴史を振り返ってみますと、地名の由来は、古く鎌倉時代の頃より青崎、阿尾ヶ崎(あおがさき)、橋栗ヶ崎と呼ばれ、江戸時代の頃〈元禄15(1702)年 赤穂浪士吉良邸討ち入りした年〉には、村の戸数は約200戸程度で

あり、ほぼ呼び名も現在の栗崎となったと言うことが古い書物等には書かれています。

明治11(1878)年、郡区町村編成法発布により栗崎村役場が置かれ、当時の人口は明治13(1880)年には、396戸(1,723人)となり微増しました。

その背景には、藩政時代に栄えた海の豪商木屋藤右衛門の数多くの事業及び地元村人達をまとめてきた功績は非常に大きいものがあつたと思わなければなりません。また、事業家として数多くの事業を手がけられた「木谷吉次郎」は栗崎村長として活躍され、決して忘れてはならない人といえます。

「木谷吉次郎」翁は次の時代を担って行く若者の教育育成に多額の私費を投じられ、その功績は、『金沢偉人物語③』に謳われています。

栗崎校下は、石川県や金沢市における中心的かつ重要な位置関係にあります。今日、金沢港や駅西の発展に一翼を担うまでの地域となり、大変喜ばしい限りであります。とりわけ、昭和30年代に入って着手した大浜地区の栗崎土地区画整理事業により宅地利用の増進に寄与し、町は大きく変貌しました。現在では五郎島金時はもとより農業や工業の基盤もしっかりと根づき、町中は公共施設として小学校・保育園・善隣館・郵便局・文化センター・ものづくり会館・臨港消防署・各種社会福祉関係等も完備され、快適な地域となっています。ただ最近になって商店街の規模縮

栗崎校下町会連合会

- 〔設 立〕 昭和38(1963)年11月
- 〔町会数〕 10町会
- 〔世帯数〕 3,340世帯(7,876人)
- 〔組 織〕 会長、副会長2名、常任理事19名、理事17名、防災士7名
- 〔行 事〕 栗崎内灘海岸清掃、サマーフェスティバル、校下自主防災訓練、校下体育祭

小や高齢者の単身世帯化が進み、買い物難民が増えています。地域住民は、町会連合会や公民館等を中心に各種活動に参加し、これからの地域課題としては、町の活性化や防災に強いまちづくりに取り組んでいきたいと思えます。

金沢市市民防災訓練（避難所開設訓練）で

は、金沢市を震源とするマグニチュード7.2直下型地震が発生（震度6強）し、津波が発生したとの想定で津波避難訓練を実施。拠点避難場所（栗崎小学校）と指定避難場所（ものづくり会館）の2カ所の会場で避難訓練を実施しました。



市民防災訓練



栗崎内灘海岸清掃



サマーフェスティバル



校下自主防災訓練



校下体育祭



今後の変貌が楽しみ

白地に夢を描こう

川北地区町会連合会

会長 山岸 善久

初対面の人に「川北地区の山岸です」と自己紹介すると「え～遠い所から大変ですね」と言われることが多い。そこで「い～え手取川の川北ではなく、浅野川の川北です」と説明します。

川北地区は、浅野川下流右岸に沿った東西約800m、南北約2900mの細長い地域に、8町会約800世帯で構成されています。

昭和24（1949）年に金沢市に編入されるまでは、旧河北郡川北村と呼ばれ、その役場が松寺にあったこと等から各種団体の名称が複雑になっています。例えば川北は川北地区町会連合会、川北赤十字奉仕団、川北地区社会福祉協議会（大浦校下と共同運営）等、松寺は松寺公民館、松寺消防分団、松寺保育園等と紛らわしいです。

学区は諸江町小学校と浅野川中学校で、これまた歴史の変遷を思わせます。

さて、記念誌の本題にもどり、当連合会の平成20（2008）年から平成29（2017）年までの歩みを振り返ることとします。

平成20（2008）年に金沢・健康を守る市民の会モデル事業として「いきいき健康教室」をスタートし今年10年を迎えました。参加者の意見や指導員の助言により内容を変化させています。ただ参加者がやや固定化されている感があり、より多くの人に興味を持ってもらう工夫が求められます。この事業は平成23（2011）年に自主運営になりました。

平成23（2011）年8月には城北市民運動公園内に本田圭佑クライフコートが完成し、本人出席のもと式典が行われました。将来の日本代表選手がこのコートから誕生することを期待しています。

平成25（2013）年10月20日に川北地区町会連合会結成50周年記念式典・記念講演・祝賀会が挙行されました。感謝状贈呈、来賓祝辞、谷本知事の記念講演に続き、地元の加賀豊年太鼓沖町保存会の勇壮なオープニングの祝賀会では、当町連の更なる発展を語り合った。平成26（2014）年3月に記念誌「かわきた」を発行しました。

平成26（2014）年5月13日コミュニティバス「おおらっこ・かわきた号」の運行出発式が行われた。生活弱者を手助けしなければとの思いで、すでに運行していた大浦校下のコミュニティバスの延伸が実現しました。当初、利用者が少なかったので工夫を重ねた結果、現在では多くの住民の足として利用されています。

平成26（2014）年8月3日、金沢市第二

川北地区町会連合会

〔設 立〕 昭和38（1963）年4月

〔町会数〕 8町会

〔世帯数〕 794世帯

〔組 織〕 会長、副会長2名、会計1名、理事4名、
相談役1名、防災士4名

〔行 事〕 防災訓練、健康教室、社会体育大会

消防団松寺分団の消防ポンプ車入魂式が厳かに行われました。15年にわたり地域を見守ってくれたポンプ車を、地域住民・金沢市の協力で更新することができました。ポンプ車はもちろんのこと、これを支える消防団員に敬意を表し感謝申し上げます。

平成26（2014）年9月6日、北寺町地内において、金沢外環状道路海側幹線：大河端町～福久町間の起工式が行われました。浅野川や北鉄浅野川線を跨ぐ約600mの浅野川橋梁（仮称）をはじめ県・市が鋭意工事を進めています。この道路完成により、当地区の北部が大きく変貌することになります。

平成29（2017）年4月9日、城北市民運動公園に金沢プールがオープンしました。50mプール、25mプール、飛込プール、観客席、会議室等がある。50mプールには可動仕切り壁と可動床が設置されており、多用途に利用できます。一般市民からトップアスリートま

での幅広い利用を通じ、健康と感動を享受することができます。

当地区は金沢駅に最も近い市街化調整区域です。城北市民運動公園の更なる整備、海側幹線の開通によって約100haの農地を今後どのように利用するかが最大の課題です。



結成50周年記念式典



コミュニティバス（おおらっこ・かわきた号）



消防ポンプ車入魂式



海側幹線「浅野川橋梁（仮称）」の橋脚工事



金沢プール（健康と感動を）



住民全体で地域の安全と環境保全を守る 地域の伝統芸能を継承する

大浦校下町会連合会

会長 寺山 禎

スクールサポート隊

平成13（2001）年10月発足、隊員・平隊長ほか70人。

校下内の小学生の登下校時の安全はもとより、「挨拶運動」を実施するなど見守り活動のほか、小学校内に常駐し学校の警備も担っています。

このボランティア活動は全国に先駆けて行っており、平隊長は全国組織の代表にも就いています。平成24（2012）年に総理大臣表彰を受けるなど、こども見守りボランティア組織をリードしています。

コミュニティバス

平成24（2012）年7月から高齢者など買い物弱者のため、福久町の大手スーパー・医療機関などへ毎週火・金曜日に2往復、校下各町内をマイクロバス（20人乗り）と大型タクシーを併用運行しています。平成26（2014）年7月から隣接の川北校下と共同で運行し運賃見直しを行った結果、平成27（2015）年実績は対前年比、倍以上となっています。

青少年健全育成

防犯委員、交通推進隊、子供育成委員などで組

スクールサポート隊
（平隊長と子供達）



茅の輪くぐり
（東蚊爪町）

織する会で「校下の子供は校下の全体で守る」との思いで非行防止パトロール・愛の一声運動等を実施のほか、釣り大会・海岸への遠足などイベントを企画し、子供の健全育成に向け活動しています。

水害を克服し親水へ

大浦校下は地区に浅野川・金腐川・大宮川・血の川・柳橋川の5河川が河北潟に流入しており「水郷地帯」を形成しています。さらに、これらの河川に流れ込んでいる多くの水路がモータリゼーションの発達により、道路に変わりました。そのため、今では、水郷地帯のイメージは薄くなりました。しかし、市街地近郊の都市化により、大雨時には毎年道路冠水が発生しています。そこで、これらを解消すべく、河川改修工事が実施されており被害は解消されつつあります。

また、大宮川には「雷魚」「もくずカニ」「なまず」「鯉」などが生息しています。特に、「雷魚」については歯が鋭く雑食性であり、餌の食い付きが強烈で、その引きを求め全国的に「雷魚のメッカ」として知られています。土日、平日を問わず

大浦校下町会連合会

〔設 立〕 昭和54（1979）年4月

〔町会数〕 6町会

〔世帯数〕 2,435世帯

〔組 織〕 会長、副会長1名、会計1名、監査2名、
防災士6名

〔行 事〕 獅子舞、奴行列、校下体育祭



獅子舞（木越町）ゲント市での演技

県内外から多くの釣り愛好家が訪れています。

「こなん水辺公園」では稲作体験として田植え・稲刈りを市民に呼び掛け多くの家族づれが参加しています。また、その名の通り「ほたる・めだか・かえる」など多くの水辺の生き物も生息しており多くの家族連れが楽しんでいます。

大浦ほたる飛ばそう会

毎年「ヘイケホタル」を金腐川から採取し、こなん水辺公園に放流しています。「ホタルが生息できる環境を取り戻す」を目標に活動しています。

大浦ひしのみ歩こう会

月2回校下内の健康サークルとして校下内を中心に約7キロ程歩いています。

茅の輪くぐり

東蚊爪町の須岐神社で、7月の夏祭に開催される茅の輪を8の字にくぐる祭典。古老の言い伝えではこの日から浅野川で泳いでもよいと言われています。

獅子舞

東蚊爪町・大浦町・木越町に保存会が結成され伝統芸能を守っています。特に、木越町の獅子舞は「喧嘩獅子」とも呼ばれ、獅子と棒振りが戦う闘争型で、新陰流の棒振り、獅子は小杉流といわれます。真剣、真槍を用いた演技は迫力があります。

奴行列

東蚊爪町・大浦町に保存会が結成されています。奴の掛け声と所作はどちらも同じですが、奴の顔に塗る化粧が白と黒の大浦町に対し、青と黒が中心の東蚊爪町と違いがあります。特に東蚊爪町は金沢市の保存会9団体をまとめ伝統芸能保存会をリードしています。

地蔵祭り

東蚊爪町では、毎年8月18日（旧暦7月24

日）は地蔵盆とも呼ばれ、道祖神信仰に結びついた路傍の地蔵が対象。子供の守り神として信仰されるようになった。仏僧による読経法話が行われ、その加護を祈る習わしになっている。地域の子供たちのコミュニケーションの場にもなっている。

その他

◇みずき町会は、毎年町会単独で百万石まつりに「踊り流し」で参加し祭りを盛り上げています。

◇木越団地・湊町会ほか校下内の各町会は町内の夏まつりを実施するなどそれぞれの町会を盛り上げています。

◇長年の念願である、新公民館が本年10月に完成します。近年、金沢特有の地縁による共同社会の絆が弱くなっています。校下の住民が互いに協力し住みよい街づくりを担う意識が減少しています。今後この公民館を通じて人づくり、まちづくりの意識を高めていきたいと思っています。

◇校下のどこからでも白山連峰と立山連邦が一望できる景観と、市内有数の約250haの耕作農地が存在し、この、のどかで良好な環境を守っていきます。



秋まつり奴行列



地蔵祭り（東蚊爪町）



犀川・伏見川の美しい桜並木と 地域・人との温かい交流が自慢

米丸校下町会連合会

会長 中本 保

河川改修によって姿を消した往時の風情を偲んで、平成2（1990）年から校下や町会あげて植樹し大事に育ててきた桜並木が見事に成長し、新たな名所として多くの花見客が訪れるようになりました。満開時には、堤防沿いの地元企業が地域貢献の一環としてライトアップしてくださり、間近から見ても対岸から見ても淡いピンク色が際立つ景色に、皆さん、是非一度は足を運んで頂きたいと思っています。

植樹からやがて30年。見事な枝ぶりの大樹となる一方で、並行する道路や遊歩道に枝が大きく張り出し、通行に支障をきたすことも、近年、起こりつつあります。せっかく大事に育てた桜並木。それが通行人や車両に影響を及ぼすことになれば、大変、心苦しいものになります。

さすがに、車道側の大枝は業者をお願いしなければなりません。堤防上の遊歩道に張り出ている枝は、新しい試みとして、平成28

（2016）年から毎年、花見が終わった時期に県や市から資機材提供なども頂きながら、校下に組織されている「犀川・伏見川を美しくする会」や「校下緑化美化推進委員会」などの皆さんが中心となって、高枝ハサミやノコギリなどを使って、自ら剪定作業にあたっています。米丸校下内の犀川左岸と伏見川兩岸、総延長は約3.7kmにも及びますが、校下自慢の桜並木です。今後とも地域のみんなで大切に守っていきます。



ライトアップされた満開の桜並木

米丸校下町会連合会

〔設 立〕 昭和33（1958）年4月頃

〔町会数〕 28町会

〔世帯数〕 3,975世帯

〔組 織〕 会長、副会長2名、会計理事1名、理事6名、監事2名、町会長28名（重複有）、防災士14名（うち女性4名）

〔行 事〕 盆踊り大会（7月）、防災訓練（8or9月）、社会体育大会（9月）、文化祭（10月）

ごみをエネルギーに活かす循環型社会の拠点施設としての「西部環境エネルギーセンター」が、装いも新たに平成24（2012）年春から稼働し、発電などの焼却熱有効利用もさらに促進されております。

そして、地域と共存する施設の周辺整備の一環として、平成27（2015）年7月に、旧の焼却工場跡地に、芝生の緑が眩しい「米丸交流広場」を金沢市で新たに整備して頂きました。伏見川に隣接し、新鮮な空気と太陽を

いっぱい浴びながら小さなお子さんと遊ぶ家族の姿や、地元愛好会によるグラウンドゴルフなど、米丸の新たな憩いの広場として、大いに活用させて頂いています。広場の完成式には、米丸小学校合唱団「ファンタジー」が花を添えました。



米丸小合唱団「ファンタジー」

また、JR西金沢駅の西側、旧J T跡地には、行政や民間によって都市計画道路や多目的グラウンド、住宅地や店舗などが順次整備され、平成28(2016)年4月には、校下28番目となる新しい町会も誕生したところです。

少子高齢化がさらに進んでいくと言われて久しい昨今、米丸校下では近い将来、児童・生徒数がどのように推移していくのか、ということ調べてみました。

米丸小学校の児童数で見た場合、平成27(2015)年の約700人が、10年後の平成37(2025)年には何と約960人、約1.4倍も伸びるという驚きの予測数値が立っております。

その要因は色々あると思いますが、国全体で子どもの数が減少していく中において、米丸は大きく伸びてゆく。大変、うれしいことです。

いつの時代も、子どもは地域にとっても宝です。また以前のように、まちなかや公園のあちこちから子どもの元気な声が聞こえてくる。そのような光景を皆さんとともに思い描き、ま

た、そのための環境を、行政はもとより街頭交通推進隊や米寿会「米丸安全パトロール会」、防犯交通委員会の皆さん方とともに整えてあげたい、このように思い願っております。



登下校を見守り中

気象変動がますます激しくなる近年。校下の防災訓練も、毎年、地域の皆さんといっしょに趣向を凝らしながら実施していますが、今年、平成29(2017)年は、20年ぶりに市民防災訓練を実施しました。金沢市をはじめ関係機関の協力も得ながら、本訓練前には、地区や町内の中で危険箇所が無いかや、安否確認の体制などを把握するための図上訓練の開催など、例年にも増して、気合を入れて訓練に臨みました。



防災図上訓練の様子



みんなはみんなで安全で 住み良い町づくり

新神田校下町会連合会

会長 西村 義雄

住民一丸になって頑張る校下

新神田に住んでみたい、住んで良かったと言う町づくりをモットーに住民一丸になって頑張っている校下です。子供たちが生活の基本になる時代と言える新神田小学校、高岡中学校があり、安全確保を重要課題にし、「子供を育み住み良い町づくりの会」を組織して、町会長、公民館、社会福祉協議会、長寿会、育友会、少年連盟、町会防犯委員、金沢西警察署役員、校下各種団体役員がみんなで通学時、下校時に見守りをし、他所からの不審者が現れないよう活動しているところであります。

校下の大きな行事としては、一致団結するために、毎年4月に町会連合会主催の各種団体顔合わせ親睦会や、研修旅行を挙行していますが、特に6月最終の日曜日に執り行う「防災訓練」、7月第3土曜日に開催する「納涼盆踊り大会」ですが、これはいわゆる日本の伝統文化だと認識しております。特に防災訓練につきましては、いろいろな方面から高い評価を受け注目されております。平成20



親睦会

(2008)年に各町会から防災委員を選出し、防災委員会を組織したことが成果の大きな要因だと考えています。

然しリーダーである防災委員長、副委員長、公民館長の三役がしっかりとスクラムを組み、訓練内容を立案し、防災委員会を何度も開催することによって仲間意識を共有し、訓練日に向かって町会単位でもいろいろな訓練をしていることによって防災意識を高めていると思っています。新幹線開通に伴い工事をしていました安原跨道の開通式を昨年の11月30日に執り行い、名称も新たに「神田地下交差道」と改め、今まで自動車と歩行者、自転車と同じ道路で通行していましたが、自動車と歩行者を区別することによって通行の安全を確保できたことは交通事故防止に繋がることと確信しています。

町会連合会を含め各種団体がいろいろな行事を開催していますが、古来より遠くの親戚より近くの他人と言われていたように、行事に参加をすることによって顔見知りになることが助け合いの第一歩だと考えています。

新神田校下町会連合会

- 〔設 立〕 昭和56（1981）年4月
- 〔町会数〕 15町会
- 〔世帯数〕 2,057世帯
- 〔組 織〕 会長、副会長2名、会計1名、会計監査2名、防災士6名
- 〔行 事〕 各種団体連絡協議会・親睦会、研修旅行、防災訓練、納涼七盆踊り大会

校下では公民館の改修や、増加する高齢者対策、児童館の運営などまだまだいろいろと問題を抱えていますが、校下訓である「みんなはみんなでみんなの為に尽くそう」を合い言葉に問題点を共有して、未来ある新神田校下の発展に頑張ろうと思っています。

防災をリードする新神田校下

新神田校下は防災活動が盛んで、毎年6月下旬の日曜日に実施する防災訓練には市内外からの視察者が多いです。当地区は住み良い環境であります。最近の集中豪雨時には犀川、伏見川の水位が上昇すると、内水が氾濫する場合があるので毎年、土のう積み訓練をしています。

金沢市地域防災計画では、小・中学校や公民館が指定避難所となっています。毎年、新神田小学校では自主防災訓練を、高岡中学校では集団避難訓練&クリーンキャンペーンを、公民館では避難所の開設運営訓練、災害ボランティア受付訓練、災害ニーズ把握訓練、避難所開設運営のための避難所運営ゲー

ム：ワークショップ(HUG訓練、クロスロードなど)を実施しています。防災訓練の母体である新神田校下防災対策委員会(防災会)を平成9(1997)年、「阪神淡路大震災」を契機に発足。防災会長(町連会長)、副会長(公民館長)など地域の各種団体長で組織し、訓練を重ね、平成23(2011)年、これまでの活動が評価され、最初の石川県自主防災組織交流大会で知事表彰を受けました。

この母体を側面的・機動的に動かしているのが「育む会」です。平成13(2001)年、防災会のメンバーに小・中学校長、市議会議員、交番、消防局などを加えた「新神田校下子どもを育み住み良いまちづくりの会(育む会)」を発足、隔月に開催。今年の11月で83回を数え、情報交換しながら安全安心のまちづくりを目指しています。更に、防災訓練の実働部隊として各町会に1名、任期3年の防災委員を専任、防災士を加えた「防災委員会」が活動方針を決定し、年間を通じた訓練や防災学習をしています。



自主防災訓練



視察研修



神田地下道完成式



社会体育大会



住みたい街づくりを

めざして！

押野校下町会連合会

会長 柏木 信二

待望の北陸新幹線も開業3年目を迎えました。開業するにあたり我が校下にも新幹線が縦断している為に用地買収等で100世帯近くの住民の方々が移転を余儀なくされました。住み慣れたこの地から離れるゆえの、寂しさ心残りのお気持ちを忘れてはならないと思います。

それゆえに団結力のある安全で安心な明るい笑い声の絶えない「押野に住んでいて良かった」「そんな押野に住みたい」と言われる街づくりを目指しています。

3年ごとに開催される「押野じょんから踊りの夕べ」も復活して来年で5回目となります。押野小学校のグラウンドで校下の全町会住民が集い、三世代が楽しい夏の夜のひとときを満喫しております。

押野じょんから保存会は、各町会の町会長、各団体長、踊り・地方（唄・三味線・笛・太鼓）の専門部で構成されています。

専門部は小学校や保育所へ出向き踊りの指導をしたり、じょんからのいわれや歴史を説

明したり、また校下での体験教室を開催したりと保存と普及に努めています。

特に押野小学校は保存会発足時からご理解とご協力を頂き、毎年、運動会では3・4年生による「押野じょんから踊り」の演技が行われています。成長した児童たちが押野じょんからの普及・継承の大きな存在となっています。

また、社会体育大会・敬老会・町会夏祭り等でも取り入れ、校下全体で伝統を守り育てていきたいと思っています。

社会体育大会は、各町会応援団の声援の中、町会対抗種目の結果に一喜一憂しながら、校下全体で楽しく爽やかな汗を流し、日頃の運動不足を痛感しながらも思い出づくりの一日となります。

運営には公民館役職員や公民館委員があたりますが、各町会長のご心労と校下住民全員の参加協力に感謝します。

平成7（1995）年の阪神淡路大震災、その後の能登地震、東日本大震災、広島土砂災害、熊本地震など大災害が続発しています。

森本富樫断層帯による地震の発生確率は、今後30年以内にマグニチュード7.2程度の地震が2～8%と報道されています。

発生時に自分を守る自助、校下近隣での共助、行政等による公助など迅速な行動は日ごろの訓練によるもので、押野校下では毎年、防災訓練を行っています。

我が町の危険個所を充分把握する図上訓

押野校下町会連合会

〔設立〕 昭和33（1958）年1月

〔町会数〕 15町会

〔世帯数〕 2,855世帯

〔組織〕 会長、副会長2名、会計1名、常任理事2名、理事（全町会長）、防災士10名

〔行事〕 押野じょんから踊りの夕べ、敬老会、防災訓練、社会体育大会、文化祭、三校下合同成人式

練・避難状況を確認する安否確認・各町会避難場所での確認・拠点避難所までの避難誘導訓練・情報収集訓練・拠点避難場所でのAED操作体験・家具転倒防止・応急救護訓練・簡易担架作り・炊き出し訓練などを行ってきました。平成28（2016）年度には押野校下避難所運営マニュアルを作成しました。

本年度からは避難所開設にも取り組んでい

ます。訓練によって想定される災害に迅速対応出来る事が減災につながると思います。

町会・校下の各行事には、住民全員の参加協力が大前提です。日頃からの親睦が融和を作り、「向こう三軒両隣の精神」が「絆」を育てます。この「絆」が街づくりの大変重要な原点であり、これからも積極的に絆づくりに取り組みたいと思います。



押野じょんから踊りの夕べ



敬老会



防災訓練



社会体育大会



文化祭



三校下合同成人式



子育て世代から高齢者世代まで 安心して暮らしつづけることが出来る地域づくり

西南部校下町会連合会

会長 中川 俊一

市町会連合会発足60周年おめでとうございます。

西南部地区の概要

当西南部地区は、JR西金沢駅に隣接し、北陸自動車道西インターや国道8号線も近く利便性の良い地域であります。また、一昔前、この地は手取川の伏流水の終点で湧水が勢よく流れ出ていたと聞かされております。

(初代町連会長 西村圭一様談)

当校下町会連合会の発足は、昭和59(1984)年4月に西南部小学校開校に伴い押野校下より分離独立いたしました。

西南部校区の成立ち

太郎田、八日市、八日市出、新保、森戸、矢木、上荒屋の在所が点在する石川郡押野村で有りましたが、昭和30(1955)年6月の村議会で金沢市編入を賛成10、反対5で議決し、昭和31(1956)年1月1日を期し金沢市に編入し押野小学校校下となりました。

西南部校下町会連合会

- 〔設 立〕 昭和59(1984)年4月
- 〔町会数〕 14町会
- 〔世帯数〕 3,162世帯
- 〔組 織〕 会長、副会長2名、会計1名、理事2名、防災士9名
- 〔行 事〕 防災訓練、歳末パトロール、毎月定例町会長会議、各種委員会活動

チカモリジョンガラ踊りの夕べ

西南部地域の発展は、国指定遺跡であるチカモリ遺跡とともにあると言っても過言ではありません。金沢市の教育努力目標の一つ、「かおり高い金沢の伝統文化の継承、発展」を図りながら、歴史的価値の高い文化財の保存整備に努めたいと思います。紀元前からそこに生活した先人の方々から受け継いだ、地域の伝統や文化を受け継ぎ次世代につなげていくことが、私たち住民の原動力となっていくのではないのでしょうか。

毎年夏に、各種団体一体となり開催している「チカモリジョンガラ踊りの夕べは」はその最たるものであり、毎年、幼児から高齢者まで、多くの住民の参加者で賑わい先人たちに思いを馳せつつ絆をつよくしています。

町会連合会の課題や今後について

当西南部地域においては、人口は微増しておりますが、近い将来、これからますます高齢化社会が進むことと思います。また、近年多発している自然災害の対策や町会加入率の低下・役員のなり手不足など解決策を探って行かなければならないなど、課題が山積していますが、地域コミュニティセンターである「西南部公民館」「西南部児童館」を拠点として、住民が支え合い、仲良く暮らせる“安全で安心”な町づくり活動を推進し、住民が町に愛着が持てるよう、うるおいと安らぎのある町の構築に努め、新しい時代に適応した住民

の自治確立に向け、各種団体が一丸となり心のふれ合う明るい町づくりに頑張っていきたいと思っています。

わが町3000年の歴史に想う

町連会長として多忙を極める中、ある日私はひとり国指定史跡、チカモリ公園に立ち寄りました。直径90cmほどの栗の大木を半分に断ち割った10本の柱がサークル状に立てられています。縄文時代晩期、今から3000年前、石の斧で多数の大木を切り出すのは空前

絶後の難事だったに違いありません。それを可能にしたのは、そこに住む人々の共同作業だったのでしょう。

レプリカながらその巨木に手をかけると「私たちは厳しい自然環境の中で、みんなで協力し合って生き抜いてきました。みなさんも頑張ってくださいね！」と、縄文人の声が聞こえてくるようでした。市や地域のために私も頑張ろうと決意を新たにして、新緑の美しい遺跡公園をあとにしました。



チカモリジョンガラ踊りのタベ



チカモリ太鼓の演奏

西南部校下町会連合会の歩み

昭和40年	西南部中学校開校
昭和43年	西南部中学校校舎新築落成
昭和58年	西南部小学校開校
昭和59年	押野校下町会連合会が発展解消 西南部校下 押野校下 三和校下 として分離独立
昭和60年	チカモリ遺跡公園が開園
昭和61年	チカモリ遺跡が国史跡の指定
同年7月	チカモリ遺跡公園に隣接して市 新保本町埋蔵文化収蔵庫開設
平成3年	西南部公民館が竣工
平成16年	西南部児童館竣工
同年10月	西南部公民館が県公民館大会 で優良公民館表彰を受ける
平成18年	西南部公民館が全国優良公民 館文部科学大臣表彰を受ける
平成19年	第1回西南部検定を実施
平成20年	第2回西南部検定を実施
平成21年	第3回西南部検定を実施



上荒屋遺跡は国史跡 古代歴史、文化薫る「三和」

三和校下町会連合会

会長 桶谷 隆雄

三和校下には、南北に三つの用水が流れています。これは、手取川扇状地の一角を占める平坦地「富樫」「郷」の用水から安原川、馬場川、十人川が七ヶ用水から分流しています。以前は、2メートル程の掘削で湧水し、井戸水が自噴していた地であり、今でも上荒屋4丁目地内に立つ、簡易給水塔は豊富な井戸水を地域の方々に供給しています。昭和55（1980）年から始まった土地区画整理事業により、校下内は大きく発展し、同事業によって完成した幾つかの公園は地区の景観に安らぎを与えると同時に地域の方々にとって健康づくりの拠り所となっています。

交通網の充実

平成21（2009）年には、金沢市が進めてきた「ものづくり産業団地」は稲穂がたれるような実りを期待して「いなほ工業団地」と名付けられ、現在、20企業約1,000人を超える方々が従事しており、隣接する白山市の横

江鉄工団地とともにものづくり産業の拠点となっています。

さらに、この工業団地に隣接して金沢外側環状道路（海側幹線）と北陸自動車道が直結して白山インターチェンジが、平成24（2012）年に開通し、交通網の充実ともに発展が期待されています。

自分達の地域は自分達で守る

平成21（2009）年には、押野分団の消防会館（新保本町地内）が昭和50（1975）年に建設されてから築30年余が経過し、老朽化が甚だしく、また近年においては新潟中越地震、能登半島地震など日本海側での地震が頻発している中で消防機材庫の耐震化が求められ、三和、押野、西南部校下住民の方々の生命・財産を守る拠点としての消防会館の改築に取り組んできたところです。

また、平成26（2014）年には、消防ポンプ車の性能の劣化が激しく、地域住民の理解をいただき新たにポンプ車と人員機材搬送車を導入し、地域防災の充実に努めるとともに、三和、押野、西南部3校下の消防体制の万全を図ったところです。

児童の健全な育成

平成2（1990）年、市内で初めての公民館、児童館、集会所の三和文化会館が建設されましたが、今ではその児童館も児童数の増加に伴い施設が狭隘となり、児童の健全な育

三和校下町会連合会

〔設 立〕 昭和59（1984）年4月

〔町会数〕 21町会

〔世帯数〕 2,979世帯

〔組 織〕 会長1名、副会長2名、庶務1名、会計1名、三和校下防犯連絡会75名

〔行 事〕 セイフティナイトパトロール（7月～9月）、自主防災訓練（10月）、美化清掃（4月・10月）、新年互礼会（2月）

成と安全な確保から平成21（2009）年9月、隣接地に平屋建てを新築し解消に努めてきたところです。

水害から地域を守る

平成24（2012）年12月には、昭和63（1988）年に着工された安原川改修工事の三和地区を含む金沢区間が完成するとともに、桜並木の遊歩道も整備されウォーキングや散策など住民の憩いの場となっています。



自主防災訓練



体育大会



市民ソフトボール大会で優勝

上荒屋遺跡は国史跡

上荒屋7丁目の東大寺領横江荘遺跡・上荒屋遺跡（上荒屋史跡公園）は、平成18（2006）年に国史跡に指定され、上安原南地内には高床式建物をイメージした外観の市埋蔵文化センターが建設された。史跡公園では毎年7月、「史跡フェスタみわ・平安まつり」が開催され人気を集めています。

「和」の心を大切に

「三和」の名のとおり和を大切に、安全・安心な町づくりに取り組んで参りたいと思っています。



簡易給水塔



平安まつり



新しい三馬、 勇気・愛情・信頼・希望の町づくり

三馬校下町会連合会

会長 若松恵美子

三馬校下は金沢南部に位置し、10年の間に町会加盟世帯も約200世帯増えて4,322世帯となっている広域校下です。

町会連合会は、三馬校下各種団体連絡協議会の中の一つとして所属し、公民館・社会福祉協議会・高齢者の会連合会・婦人会・子ども会連合会・交通安全推進協議会・防犯委員会・ボランティアみんま・遺族会・消防後援会・育友会との連携のもと活動しております。そして、三馬小学校・清泉中学校とのコミュニケーションを大切にしております。

代表する活動は今年20回目の開催となった「みんま桜まつり」です。先に記述した団体長から成る実行委員会を立ち上げ、地域の活性化を図る為に総力を挙げ、地域住民の協力をお願いして実施しております。会場は伏見川久安新橋上手緑地です。開催日の前後2週間、地域の方々の協賛を受けた「ぼんぼり」を川沿いに町会長さん方が中心となり設置し、花見を楽しんで頂いております。アトラクションや各種団体がそれぞれ工夫して作る模擬店も大好評で、校下外の方々も訪れて

くださいます。桜の歴史は50年誌に語られておりますが、美しい桜がずっと毎年咲いてくれることを願い、伝統を守りながら、新しい風を取り入れた楽しい桜まつりが三馬の名物として広く知られて欲しいと思っています。

そしてもう一つの行事は「みんま夏祭」です。これも協賛のお力をお借りして出来る季節を感じる伝統行事です。ボランティアで汗を流しながら準備をする皆さんのお姿に感動しています。小学校のグラウンドで集い、暗くなるとやぐらの明かりの下にみんなが踊り出す。日本独特の風情を感じます。世代を超えた交流をするにはやはり行事が必要だと感じます。

さて、町会連合会(町会長)の仕事は、公民館行事などにも如何に参加を促すか、地域の活性化の大切さをどう住民に伝えていくか、災害時にどう助け合うか課題を含めて沢山あります。わか町会連合会では、建設的な意見交換が自由に出来る事を考えながら、町会長会議を実施しております。他校下町会連合会の素晴らしい活動もお手本にして元気な三馬を次の世代に伝えていきたいと思います。今後町づくりには色々な問題も出てくるでしょうが、ずっと三馬を守ってきた方々と、新しく住民となられた方々が仲良く楽しく暮らしていけるように、各種団体の活動の協力に努め、市政行事への理解、問題提起、市民参加を促せる様結束を固めて、視野の広い三馬を、性別・年齢を問わない連携プレーで発信していきます。

三馬校下町会連合会

〔設立〕 昭和33(1958)年4月

〔町会数〕 23町会

〔世帯数〕 4,322世帯

〔組織〕 会長1名、副会長2名、代議員1名、顧問1名、防災11名

〔行事〕 みんま桜まつり(4月)、みんま夏祭(7月)



毎年、美しく咲いてくれる伏見川の桜並木です。

—— みんな桜まつり ——



開会式の参加呼びかけの為にイベント実施。
現場ではスタートを待ちわびています。



桜まつり最後のお楽しみ抽選会、
子どもたちが真剣になる瞬間です。

—— 社会体育大会 ——

広まる交流の輪



強まる絆

公民館主催の社会体育大会には23町会が揃って参加し、みんなで楽しんで結束しています。

—— みんな夏祭 ——



みんな夏祭開会のあいさつ！実行委員が勢揃いです。
行事の成功と安全を祈る気持ちでいっぱいです。



子どもたちと大人と一緒に輪踊り！日本らしい風景です。
みんなの力で伝統を守っていききたいです。



小さな校下を大きな絆でつなぐ ～10年を顧みて～

米泉校下町会連合会

会長 山田 八郎

創立25周年記念誌「よないずみ」の刊行

米泉校下町会連合会は、平成2（1990）年4月に三馬地区町会連合会から分離独立し、誕生いたしました。校下としては、まだ若く比較的規模の小さい地域ではありますが、六つの町会がしっかりと連携して、地域の進歩と発展並びに住民の福祉向上にそれぞれ強い熱意を持って取り組んでいます。

平成27（2015）年に、創立25周年を迎え、あらためて先人の足跡をたどり歴史を紐解きながら、記念誌「よないずみ」を発刊し、全戸に配付いたしました。

今後は、各町会の連携をより一層深め、地域の人々の融和を図り、小さな校下を大きな絆でつなぐことで、明るく住みよい町づくりに努めてまいりたいと考えています。

防災士の充実と校下防災マップの制作

平成19（2007）年の能登半島地震や平成23（2011）年の東日本大震災などを教訓に、災害に強い町づくりを目指して、平成25（2013）年4月に校下防災対策委員会が中心となって「米泉校下防災マップ」を作成しました。

防災マップには、各町会ごとの避難場所を地図に示すとともに、災害時の対応などを掲載しており、永久保存版として3,000部を作成し、校下の全世帯に配布することで、現実起こりうる自然災害に対処できるよう、住民の意識の高揚を図っています。

また、石川県及び金沢市が自然災害に備えて、自助・共助の意識啓発と災害時の被害抑制を図るため、各町会に防災士を配置し、防災活動の指導者の増員を求める中、私たち米泉校下では、毎年、地域の中から防災士を養成し、現在、6町会すべてに防災士を配置し、校下全体で11名（男性8名・女性3名）を配置しています。

防災士は、地域の防災リーダーとして、防災訓練の計画や避難所の運営訓練などに積極的に参画し、災害時の自助・共助の啓発を図っています。

中でも、女性の防災士は、避難場所における女性のプライバシーの確保や悩みへの対処など、大切な役割を担っており、女性ならではの視点で防災意識の啓発や訓練指導に取り組んでいます。

米泉校下町会連合会

〔設 立〕 平成2（1990）年4月

〔町会数〕 6町会

〔世帯数〕 2,064世帯

〔組 織〕 会長、副会長1名、防災士11名

〔行 事〕 伏見川清掃（4月）、防災訓練（9月）、
新年互礼会（1月）

地域の生活道路・通学路の歩道整備が完成

平成28（2016）年、校下の生活道路並びに小学校の主要な通学路、約1.3kmの歩道が整備されました。

老朽化により破損した歩道の法面や、側溝の雨水処理などの問題があった箇所が改良され、バリアフリーで歩行しやすい安全な歩道となりました。

段差が無くなり、ご高齢の方にも優しく、また、小学校の子供たちも「見守り隊」の皆さんと笑顔であいさつを交わしながら、毎日元気に通学しています。



25周年記念誌『よないずみ』と米泉校下防災マップ

平成29（2017）年度高橋川・伏見川水防訓練に参加

米泉校下は、その中央に二級河川の高橋川、伏見川が流れる地域です。5月14日、これらの堤防の一部が破損が生じたとの想定のもと、金沢市が主催する水防訓練が、米泉小学校グラウンドを拠点に実施されました。

訓練は、水防工法等を習熟し、洪水などの災害発生に万全を期することを目的として行われるもので、金沢市長をはじめ、消防局、陸上自衛隊、市や県の職員など約350名が参加して行われました。

また、同時に実施された「土のう造り」や「土嚢積み」の講習会には、地域住民や町会の役員、防災士など約100名が参加し、初期の水防活動の大切さを学びました。



整備された歩道と子供たち



水防訓練に参加する地域の住民と防災士



水防訓練の様子



オール富樫で 住民みんなが誇れる町づくり

富樫校下町会連合会

会長 渡辺 茂樹

富樫校下は、金沢錦丘中・高校、金沢南総合運動公園や周辺には金沢泉丘高校や金沢市立泉野図書館があり、文教地区と知られています。また、金沢外環状道路山側幹線（山側環状）の開通により田上商業地区への交通アクセスが良くなると共に近年都市化が進んだことにより、人口増加が加速してまいりました。その環境変化に伴い校下では常に改革意識が高まっています。

歴史と進化が融合する景観

金沢南総合運動公園バラ園のばらの花や、大乘寺丘陵公園のつつじの花が、色とりどりに花咲き地域に安らぎと華やかさを演出してくれています。

また、金沢外環状道路山側幹線（山側環状）が、新しい交通の流れを作り出しています。校下内には、金沢の地名の由来とされる芋掘り藤五郎のゆかりの地でもありまた、500年以上前からの伝わる「しんこう踊り」もある、歴史と文化そして進化が共存する多様性豊かな校下となっています。

富樫校下町会連合会

- 〔設 立〕 昭和28（1953）年4月
- 〔町会数〕 31町会
- 〔世帯数〕 3,229世帯
- 〔組 織〕 会長、副会長2名、会計1名、会計監査2名、防災士11名
- 〔行 事〕 体育まつり（5月）、夏まつり（7月）、文化祭（10月）

な校下となっています。

三位一体型の町づくり

当校下では、体育まつり・夏まつり・文化祭を「3大祭り」と称して校下の活気作りに取り組んできております。こういった各種団体の枠を超えての取り組みは、まさに「オール富樫」の原動力となっています。

毎年スケールアップをして行くにつれ、今では校下だけではなく周辺校下の皆様にもお越し頂き、スタッフや住民の方々が世代を超えて自主的に活動し、それぞれが行事の主役になっています。富樫小学校・高尾台中学校・錦丘高校・ろう学校のボランティア協力も頂き、三位一体での町づくりに日々邁進しています。

防災力のスキルアップ

安心安全の町づくりでは、森本・富樫断層の真上に位置する事から、防災対策にも力を入れてきております。金沢外環状道路山側幹線（山側環状）が開通したことから世帯数の増加に伴い、一時避難場所と避難所設営案を記した防災マップの各戸配布を行いました。また防災士の育成に重点を置き、防災努力もし、「グッドマナー宣言」をして住民の安心安全の構築防災意識の向上に務めています。

調和を大切に、変化を感じる町

近年では、こうした環境変化に対応した人

材育成の取り組みも行っています。恒例行事になるとマンネリ化が出てきます。これでは魅力ある町づくりが出来ませんので、若い力を発揮できる「青年部」の設立を致しました。歴史と伝統は引き継ぎながら、近年の環境変化に対応した意見交換をしながら町づくりを行っています。

これから、東京オリンピック・パラリンピックまでの数年は急加速で社会情勢の激変

が予想されます。社会・物・そして、人にとっても環境変化の対応が必要となってきます。地域もそれに伴い、発展をして行くのが不可欠な課題となってきて居ります。

我が校下もこれまで以上に、歴史と文化を上手く融合させて、これからの時代の変化に柔軟に対応し魅力ある地域づくりを目指して行きます。



公民館主催「体育まつり」



各種団体および世代を超えた「夏祭り」



小学校協力の「わくわく文化祭」



防災の第一歩は町連・町会の活性化 統一と個性の伏見台

伏見台校下町会連合会

会長 坂本 和紀

金沢市町会連合会の創立60周年を心からお祝い申し上げます。

また、60年の長きにわたり、輝かしい歴史を築いてこられました歴代の役員の皆様のご努力に心から敬意を表します。

自主防災会を再構築

私たち伏見台校下は東側に窪・高尾の丘陵地帯、また東西に万願寺川、南北に伏見川が流れる風光明媚な地域に位置する17町会、約4,000世帯の校下です。幸い近年は大きな自然災害もなく一見穏やかな環境のように思えますが、窪・高尾の丘陵地帯には森本富樫断層帯が横たわり、また一旦集中豪雨に見舞われれば土砂災害特別警戒区域を抱える伏見台校下は「土石流」「がけ崩れ」「地すべり」の危険性ははらんでいます。

一昨年〈平成27（2015）年〉に実施した市民防災訓練を機に町連内でも防災意識の向上の必要性を再認識し、校下防災会の再構築を手がけました。金沢市危機管理課のアドバ

イスも受け、約1年の時間をかけ「より具体的に、より実践的に、わかりやすい」伏見台防校下防災計画書を完成しました。平成28（2016）年9月1日防災の日に第1回の総会を開催し伏見台校下防災会が新たなスタートを切りました。役員、各町会の担当者は任期を3年とし、また3年毎には高尾台中学校の生徒も参加する校下全体の防災訓練を実施することにしました。石川県が積極的に進める防災士の養成にも応え、現在女性防災士4名を含む17名の防災士が誕生しています。

今後はさらに防災計画の充実を図り、実態に即した防災訓練の実施、避難所運営のノウハウの蓄積に校下一丸となり取り組んでいきたいと思います。

サマーフェスタ「踊りの夕べ」を通し縦横の繋がりを強化

伏見台校下では以前から町連主催の「納涼盆踊り大会」がありました。高尾や窪を含む旧富樫村には加賀地区では最古といわれている富樫しんこう踊り、高尾じょんから踊りがあり夏の盆踊りが盛んな地域でした。しかし時代の流れとともに「盆踊り」の参加者が年々減少していき、新しい「夏祭り」への衣替えが期待されていました。

平成26（2014）年、名称を「伏見台サマーフェスタ2014 踊りの夕べ」に変更、アトラクションの導入、パパーズクラブ・各町会による模擬店の出店、大抽選会の開催と祭りの

伏見台校下町会連合会

- 〔設 立〕 昭和52（1977）年4月
- 〔町会数〕 17町会
- 〔世帯数〕 約4,000世帯
- 〔組 織〕 会長1名、副会長4名、会計1名、会計監査2名、理事14名、防災士17名
- 〔行 事〕 団体長研修旅行（6月）、伏見台サマーフェスタ 踊りの夕べ（8月）、社会体育大会（9月）、文化祭（10月）、成人式（1月）

内容を一新しました。今年4年目を迎え参加者は1,500人〈平成28（2016）年実績〉を超えるまでになりました。

町連では17町会から実行委員を募集、公民館からは館長以下役員、婦人部の応援を受け縦横の「糸」が絡み合う実行委員会を作りました。より多くの住民が町会の代表として関わることにより、町連と町会、公民館と町会、

町会と町会の繋がりがより深くなったと実感しています。

また、「盆踊り」から「夏祭り」へ衣替えた平成26（2014）年、伏見台5地区（高尾・久安・窪・三馬・横川）の風情を四季の移り変わりに合わせ歌にした『伏見台いらっし音頭』が披露されました。最後にこのご当地ソングを紹介します。

伏見台いらっし音頭

作詩 黒澤和規
作曲 三谷潤也
唄 京さくら
振り付け 京さくら
伏見台婦人部

一、 はあーここは 金沢伏見台 ゆかしき名を いただいて
桜開くは 高尾の見晴らしか さあさ みんなでいらっしねー
来まつし 見まつし いらっしねー

二、 はあーここは 金沢伏見台 ゆかしき名を いただいて
鮎が跳ねるは 久安伏見川 さあさ みんなでいらっしねー
来まつし 見まつし いらっしねー

三、 はあーここは 金沢伏見台 ゆかしき名を いただいて
月が昇るは 窪山満願寺 さあさ みんなでいらっしねー
来まつし 見まつし いらっしねー

四、 はあーここは 金沢伏見台 ゆかしき名を いただいて
祭りの太鼓は 三馬のお社か さあさ みんなでいらっしねー
来まつし 見まつし いらっしねー

五、 はあーここは 金沢伏見台 ゆかしき名を いただいて
牡丹雪降る 横川在所 さあさ みんなでいらっしねー
来まつし 見まつし いらっしねー

六、 はあーここは 金沢伏見台 ゆかしき名を いただいて
みんな踊るは 伏見の音頭 さあさ みんなで笑って踊ろー
来まつし 見まつし いらっしねー



市民防災訓練



伏見台サマーフェスタ 踊りのタベ



模擬店の出店



踊りのタベ2017のチラシ



安心・安全、快適に暮らせる 街づくりをめざして

額校下町会連合会

会長 小林 一次

額校下は、設立されて本年で58年経ち金沢市の郊外の町として発展してきました。

しかし、最近では少子・高齢化が懸念され、町の活力が低下しつつあるのが現状です。

私達が過去10年取り組んできたことと、これから取り組むべき課題をご紹介します。

これまでの10年間の取り組み

1. 設立50周年式典の開催

平成20（2008）年に金沢国際ホテルで須野原副市長に特別講演をお願いし、歴代町会連合会会長に感謝状を贈呈し皆さんでこれからの校下の発展を誓いました。

2. 額振興会と共催によるサマーフェスティバルの開催

平成元（1989）年からの開催で校下最大のイベントである。来場は約10,000人。道路を通行止めし、歌やゲームなどのアトラクション・ビールや食べ物の夜店もたくさん出て、毎年大いに盛り上がっています。



創立50周年式典

3. 健康の増進（スポーツの支援、活動）

①ウォーキングの開催

年6回の開催でメンバー40人。

②グラウンドゴルフクラブの支援

メンバー80人で毎週月水金の練習日年5回の大会を行っています。

③花運動

北鉄石川線・額乙丸駅等の花壇の世話。

4. 防災活動（自主防災）

当校下は、各町会長を中心に防災委員3名を選任し災害が起きた時に、即対応できる体制をとっています。また、弱者・一人暮らし・高齢者世帯などの安否確認をデジタル化し、各町会地図に入力・維持管理を行い、共助活動が即対応できるようにしました。

5. 公民館の建替え積立金の開始

現建物が完成後40年経過することから、10年後を目途に平成28（2016）年度より一戸あたり一ヶ月100円の積立を開始しました。

6. 額小学校創立140周年

平成27（2015）年10月10日、小学校にて

額校下町会連合会

〔設 立〕 昭和33（1958）年4月

〔町会数〕 16町会

〔世帯数〕 3,020世帯

〔組 織〕 会長、副会長2名、会計1名、会計監査2名、防災士11名、町会長全16名

〔行 事〕 サマーフェスティバル（8月）、グラウンドゴルフ大会（年4回）

記念式典が行われました。明治時代からの歴史ある学校です。また、中学校においても平成22（2010）年に40周年を迎え記念式典が行われました。

これから未来への取り組み「希望・夢」

1. 若い子育て世代の定着

学童クラブ・児童館・図書館等設置を行い子供たちの夢ある街づくりを行います。

2. 公共交通機関の充実

高齢者が自家用車を持たなくても中心部へのアクセスが手軽にできる様に電車・バスの整備とダイヤの改正。

何よりも安心安全のコミュニティを構築しなければなりません。そのために町連・公民館・社会福祉協議会が中心に上記の「希望・

夢」を叶えるため、お互いに協力しながら額校下の街づくりを行っていきたいと思います。そのためには今までの事業を着実にを行い、一步一步前に進んでいくことだと考えています。



額小学校創立140周年



毎年賑わう「サマーフェスティバル」



健康にと「ウォーキング」



ふれあいグラウンドゴルフ



額丸駅を彩る花壇



地域の発展・活性化をめざして

四十万校下町会連合会

会長 北野 俊一

金沢市南部に位置する四十万校下は、平成6（1994）年に額地区町会連合会が四十万・額・扇台校下別に独立分離して以来、現在は17町会、人口7,900人を抱える地域に発展をとげてきました。

山側環状道路が全線開通した平成18（2006）年以降、この地域の交通の流れが大きく変わり、金沢市内東部方面や北部方面への交通の利便性が格段に改善され、さらに能登方面及び北陸道への連絡も大変便利になりました。

平成23（2011）年には、金沢大学四十万農場跡地利用で敷地の山側部半分に新たな住宅地が造成され、新町会が誕生し四十万校下の町会数は17町会となりました。新町会は約90世帯ですが、入居者の方はほとんどが若い子育て夫婦世代であり、高齢化の傾向がみられる校下既存町会の中で、新町会の誕生は地域にとって大きな活力となり、将来の発展の原動力となる期待が感じられます。そ

の効果として昭和58（1983）年に創立開校された四十万小学校では、本年度84名の新1年生を迎え全校生徒数506名が学んでおり、市内小学校の生徒数が減少傾向にある中で、近年本校生徒数が増加していく兆候が表れています。

また、農場跡地の平野部側半分の跡地利用に関しては、地域の街づくり協議会にて検討の結果、地震等の自然災害時における避難場所や仮設住宅建設用の敷地、また緊急時に防災ヘリが発着出来る施設として活用ができる「四十万きずな広場」が平成22（2010）年10月に完成しました。

広場内は普段は約一周400mの遊歩道を兼ねたジョキングトラックや芝生内に地域の住民や子供たちの遊ぶ姿が多くみられ、また年間を通じて町会連合会主催のグラウンドゴルフ大会等の会場として有意義に利用されています。

四十万地区の地形はなだらかな丘陵地と平野部で形成されており、平成23（2011）年に特色のある地形や景観を楽しんでもらうと共に地域の歴史や文化に親しめる目的で、蓮如上人のお墓がある「四十万霊宝山」標高約150mの高台に「四十万霊宝山見晴台」が金沢市の助成を受け設置されました。ここからの眺望は眼下に四十万校下を一望でき、金沢市街地、白山市、日本海が一望できる景観が楽しめます。なお、四十万校下の見晴台は他に山側環状道路が開通した翌年の平成19

四十万校下町会連合会

〔設 立〕 平成6（1994）年4月

〔町会数〕 17町会

〔世帯数〕 2,263世帯

〔組 織〕 会長、副会長2名、会計1名、理事（全町会長）、防災士8名

〔行 事〕 ソフトボール大会（5月）、さわやか健康教室（6月～）、グラウンドゴルフ大会（6月）、四十万夏祭り（8月）、社会体育大会（9月）、四十万校下新年互礼会（1月）



「四十万霊宝山」見晴らし台から一望した四十万校下（中央に四十万小学校校舎が見える）

（2007）年に「四十万見晴台」が設置され、2カ所の見晴台があります。

四十万地区には金沢市を縦断する森本・富樫断層が走っており、校下における防災体制の充実が求められている現状の中で、自主防災会組織内に8名の防災士資格者を育成しており、日頃より住民の防災に関する危機管理意識を高める目的で、毎年防災に関する講習会や2～3年毎に防災訓練等の啓発活動を行い、緊急時の備えとして取り組んでいます。

四十万校下の最大の課題として、地域活動

の活性化を図るため核となる公民館を建設する要望が高まってきました。子供からお年寄りまでの地域住民の生涯教育を通じて「集い・学ぶ」ことのできる場所、地震など自然災害に備えるための拠点となる場所、また被災時の緊急避難場所となる「四十万公民館」の建設に向けて平成28（2016）年に公民館建設期成同盟会を立ち上げました。

現在期成同盟会にて、建設のため金沢市との協議等準備を進めており、四十万校下の念願である本事業が計画どおり成就されますと共に地域の更なる発展を願っています。



四十万きずな広場でグラウンドゴルフ大会の開催



四十万校下町会連合会と四十万振興会が主催する「四十万夏まつり」



「我が街、扇台校下」

扇台校下町会連合会

会長 和田 早苗

我が街、扇台校下は、この地を南北に流れている「高橋川」、「扇台小学校」、「扇台公民館」を中心に、11町会（高尾南1丁目町会、高尾南2丁目町会、高尾南3丁目町会、高尾台4丁目町会、光が丘1丁目町会、額新町会、若葉自治会、額新保1丁目町会、額浦野森自治会、馬替町会、馬替新町会）で構成されています。

扇台校下の主な行事

○4年毎の校下全体での防災訓練

平成28（2016）年には第14回扇台校下自主防災会総合訓練を扇台小学校・扇台公民館で開催しました。11町会の町民、金沢市役所、日赤奉仕団、南ヶ丘病院、金沢市中央消防署、額消防分団、女性防火クラブ、民生委員協議会などから725名が参加しました。今回の訓練では、参加者が各自で、災害時に何を持ち出すべきかを考えて、持ってくることを課題としました。

これにより、非常持ち出しグッズの見直しや防災について家族で相談したりして、考えてもらう試みをおこない、防災意識の向上の一助とすることができたと思います。当日は、好天にも恵まれ、訓練を担当した町会の方々の準備の甲斐もあり、とても有意義な訓練を実施できました。

○社会体育大会

今年の5月に46回目を開催

○ソフトボール、ソフトバレーボール大会

今年の6月に20回目を開催

○扇台川まつり

今年の9月で23回目を開催

○長寿の集い

今年の9月で21回目を開催

○町会対抗ゴルフ大会

今年の10月で18回目を開催

○扇台公民館文化祭

今年の10月で21回目を開催

今年は20周年記念式典も開催

○新年互例会

毎年1月2日に扇台公民館で開催

○町会対抗ボウリング大会

来年の1月に20回目を開催

○日本赤十字社活動資金募金

○歳末助け合い募金

○その時々に応じた災害に対する募金活動

昨年は熊本地震災害義援金募金を実施

扇台校下町会連合会

〔設 立〕 平成6（1994）年4月

〔町会数〕 11町会

〔世帯数〕 2,706世帯

〔組 織〕 会長1名、副会長2名、会計1名、会計監査2名、顧問1名、防災士8名（うち女性1名）

〔行 事〕 自主防災訓練、扇台川まつり、新年互礼会

この他にも金沢市の行事として、一斉美化清掃（クリーンキャンペーン）を春と秋の年2回実施、高橋川愛扇会主催のクリーンキャンペーンとして、校下の高橋川周辺の雑草取りや清掃を年2回実施、金沢マラソンのスポット応援を第1回から継続して実施するなどをしています。

こうした行事を定例的に実施しており、校下の皆さまの積極的な参加をお願いしている状況です。

さらに、平成28（2016）年には、特別に、扇台公民館開館20年を記念して、町会毎に42.195kmをリレーで走り抜くりレーマラソン大会を金沢市営陸上競技場で開催しました。幼児からお年寄りまで、総勢167名が参加して、一人1回200mを走ってタスキをつなぎ、参加全組が完走しました。

校下の行事は、扇台公民館及び各種団体が中心となって実施される事が多く、町会連合

会はその共催者として全面的に協力しております。毎月17日には定例町会長会議を開催して、各町会長への連絡・協議事項などの情報共有のほか、メンバーからのいろいろな意見交換を行い、町会としての情報収集を行っています。

これからの課題としては、防災士の育成があげられます。森本・富樫断層帯の上に位置する当校下としては、常に災害発生への備えが必要であることは言うまでもありません。

11町会の中では、高尾南2丁目町会が一番防災意識の高い町会であり、防災士の育成にも力を入れていて、3名を育成しています。さらに災害時の隣近所の生存確認体制やその結果を集約したりする連絡網の作成等も出来ています。

従ってこの高尾南2丁目町会を手本として、全町会の意識向上に努めていきたいと考えています。



自主防災会総合訓練



地域のお祭り「扇台川まつり」



「新年互礼会」



全チーム完走「扇台公民館会館20年記念リレーマラソン大会」



「地域の価値」構築と 「成熟地域社会」づくり

長田町校下町会連合会

会長 松村 理治

これまでの長田校下 成長時代の自立・ 長田町地域社会づくり

昭和33（1958）年8月の長田町校下町会連合会会則の第三条（目的）に、各町会相互の親睦と融和をはかり、相協力して住民の福祉の増進と地域の発展に寄与することとあります。

長田町校下の地域社会の特性は、校下の中央を貫く金石（宮腰）往還道の北側（金沢駅西）地域は金沢市都市計画の区画整理で整然とした街路の街並みと田園で、小路は消滅しました。北陸新幹線が平成27（2015）年3月開通後は、企業事務所、高層集合住宅、若い人、新しい住民の流入、昼間人口増の新しい感覚のまちづくりが急激に進んでいます。

金石縦貫道の南側は、田園、中小企業の古い町から現在は長田町小学校、公民館を中心として家屋の面影と従来の人々が多く高齢化が進んでいます。

街並みも、人々も違う両地域の町会活動もそれぞれ特徴があり、長田町校下町連会長と

して南北の二極化の現状の均衡を保ち、それぞれの地域固有の有形・無形のストックを生かした発展のリーダーシップには、苦勞と喜び、働きがいがあります。

校下町連会長として、駅西地区の区画整理、新幹線観光客・全国会議客に恥じない元気な長田住民、電線地中化による景観の美化、災害発生時の金沢市民の救助・救援の道路確保で減災対応する金沢市と協力できることは、長田住民の誇りです。

子供も高齢者も安心して歩ける長田町小学校前歩道のバリアフリー化完成、更にバリアフリーの道路延長も決定し、これからも住民が安心して住み続けたい長田町校下の「地域の価値」向上の実現に取り組みます。

新たなこれからの長田町校下の形 地域の価値を生かす地縁コミュニティづくり

モノの豊かさを求めていた「成長時代」から新たなこれからの未来は、人間主義を軸に人のこころの豊かさを求める質的充実を目指す長田町校下の価値は、「成熟時代」です。

近年の流れは、官主導から民自立へ、自治体は市民との協働政策へ。しかし、地域社会で共通して抱える不安要因、福祉サービス、環境破壊、人口問題、災害リスク、人間関係（無縁化）、共同体衰退など、住民はいま異なった事態に直面し、不安な社会来たる心配です。

価値の多様性を特徴とする「教育・学び」

長田町校下町会連合会

〔設 立〕 昭和33（1958）年8月

〔町会数〕 21町会

〔世帯数〕 1,635世帯

〔組 織〕 会長、副会長3名、常任理事3名、会計1名、監事2名、理事（町会長）21名、防災士9名

〔行 事〕 社会体育大会（5月）、夏祭り盆踊り（8月）

と「文化」、「コミュニケーション」を実践して「寛容」と「包容」、道徳価値の人間主義の「成熟」でこれから、未来の新しい形の地域社会を実現するため、持続可能な資源の人財、歴史、文化、伝統に裏打ちされたその地域だけの“宝物”『人間力』が生かす人間主体の「成熟地域社会」を長田町地縁コミュニティはつくり出すことにより、住民みんなの幸せにつなげます。

各町会の役割は安全の確保など「生活密着機能」に加え、近年は、福祉サービス、社会貢献活動と住民の「共通の利益」及び一人ひとりが「人間性回復」を実現できる地域社会づくりです。人間、生活、仕事、自然との共生

による「地域住民一体化」と行政との協働を進め、現在の課題であるごみマナーと地球環境保護に取り組み、誰もがこころ豊かに幸せを感じる長田町地縁コミュニティの構築と、住民が自分を生かす「生き方」を引き出す長田町校下町連をつくります。

災害においては「備えていたことしか、役には立たなかった」「備えていただけでは、十分ではなかった」「最後にものを言うのは、一人一人状況の判断と応用である”“心構えに必要なのは、歴史と地域特性、経験の中からいくつでも見出せる”、これらを校下指揮官の心得とします。

善き金沢市があって、善き長田町校下があるのではなく
善き長田町校下があって、善き金沢市がある



若い住民の活力はまちの活力につながる



地縁コミュニティづくりが重要な課題



子供たちのはしご車体験。これも災害への備えの一つ。



親子で防災の心構えを培う



飛躍を続ける戸板

戸板校下町会連合会

会長 吉田 和夫

当校下は、明治22（1889）年の石川郡戸板村設立から地方自治体戸板村として55年の歴史に幕を下ろし、昭和18（1943）年10月に金沢市に編入しました。金沢市の西部地区に位置し、自然あふれる所で営々と農業を主な生業としてきました。

時は移り、昭和41（1966）年には校下内に金沢市中央卸売市場が開設され、各事業所や工場等も徐々に増え、金沢市の施設も出来てきました。時代の要請により北陸自動車道や国道8号線も昭和48（1973）年に校下内を横断するように開通しました。

金沢市の都市整備事業である区画整理事業も、当校下では昭和53（1978）年より順次施行され、旧市内の近郊であったため都市化が進み、事業所・世帯数・人口は増え続け現在に至ります。

この10年の事業活動及び取組みで特筆されるものの一つは、校下最後の土地区画整理事業です。校下内7町の地内を施行区域として、面積約51.7ha、組合員（地権者）288名

で区画整理組合を設立し平成14（2002）年に起工、魅力ある新しい街づくりをめざし、13年の歳月を経て平成27（2015）年に完工に至りました。一面農地であった土地も優良な土地として生まれ変わり、景色も一変しました。住宅が建ち並び道路も整備され、大型商業施設（84,000㎡）も平成18（2006）年に開店、日常生活での利便性も高く、1日平均約12,000人の来客があり連日賑わっております。

時を同じくし、校舎の老朽化や耐震化の基準を満たさない、区画整理事業完工後の更なる児童数の増加予想などの理由から、住民より戸板小学校の新築を望む声があがっていました。区画整理事業が進むにつれその機運は高まり、小学校新築移転を区画整理組合と共に推進する旨運動を開始いたしました。

平成18（2006）年9月、金沢市長は議会定例会に於いて、区画整理事業地内に学校用地を確保すると表明されました。この機会を逃がさないようにと平成19（2007）年9月に「戸板小学校・戸板会館建設期成同盟会」を発足させ、更に戸板一丸となった支援体制が整いました。

そして平成23（2011）年10月起工式を経て、ついに平成25（2013）年4月に竣工を迎え、校下住民らに新たな戸板小学校がお披露目されました。新しい街並みに調和したモダンなデザインで、木材を使った温かみのある校舎です。ちなみに平成29（2017）年度

戸板校下町会連合会

- 〔設 立〕 昭和33（1958）年
- 〔町会数〕 17町会
- 〔世帯数〕 4,950世帯
- 〔組 織〕 会長、副会長2名、理事（全町会長）、防災士11名
- 〔行 事〕 盆踊り大会（8月）、社会体育大会（9月）、文化祭（10月）

児童数は789名で、予想をはるかに上回る児童数であり次年度以降もまだ増加すると予想されております。

小学校には放課後児童クラブ2教室が併設されており、利用者の増加により平成28（2016）年4月より出雲町で3教室目が開設されました。児童の放課後の諸々の習得の場所として利用して頂いております。

戸板公民館も、住民の大幅な増加に伴い地域活動の拠点としては手狭で機能的にも不足していることから、町会連合会や公民館関係者、社会福祉協議会など諸団体が、公民館の建て替えの協議を重ねていました。戸板小学校移転新築が決定した折、小学校隣接地に戸板公民館をと金沢市に幾度となく陳情申しあげ、金沢市のご指導を受けながら、平成26（2014）年11月に起工し、防災対策室を備え平成27（2015）年10月に完成しました。公募の結果、名称は「戸板会館・かがやき」に決定しました。

戸板会館2階には戸板校下初の児童館を

併設しており、連日元気な子どもの声が聞こえます。児童館や放課後児童クラブを整備し、子育てがしやすく教育環境の良い街づくりに努めています。

こうして戸板会館は、特にこの地で新しく住居を構えた若い住民の利用が多く、幼児からお年寄りまで利用できる、地域活動と生涯活動の拠点となりました。

こうした取り組みの結果、主要な施設も整い住民は増加を続け、校下として発展を遂げました。町会連合会は、これに平行し交通安全や防犯、防火や防災など様々な施策を講じてまいりましたが、校下規模の拡大に追いついていない現状があります。

今後の主な課題は、防犯カメラの設置や交番所の誘致、道路の整備や小学校の増築などですが、関係各位と鋭意協議し解決へと歩を進めていきます。

駅西副都心の一翼を担う「飛躍を続ける戸板」として住民総参加で安心安全で明るく住みやすい街づくりに邁進したいと思います。



平成25年に新築移転した戸板小学校



平成27年に完工した区画整理地内の街並み



平成27年に新築移転した戸板会館



平成27年に完工した区画整理の記念碑



安心、安全で 明るく暮らしやすい西校下

西校下町会連合会

会長 茅野 勇平

地域安全安心ステーションに警察庁より認定

今、西校下は、「安心安全で暮らしやすい西校下」を目指し、日々努力をしています。

七町会と少ない校下ですが、各町会の皆様が心豊かに明るく暮らせる街、暮らしやすい町を心掛け、いかに良い校下になるか、話し合っております。

平成21（2009）年に地域安全安心ステーションとして警察庁より認定を受けました。平成19（2007）年に西念三丁目町会、平成20（2008）年に西念第三町会が防犯モデル地区として指定されております。西校下では以前より住民が続けていた夜回りを一層強化し、防犯委員会によるパトロールも続けて行っています。また、平成18（2006）年には西小学校学童サポート隊、平成23（2011）年には当時町会連合会会長の提案で、わんわんパトロール隊を発足いたしました。ペットを飼っている方々に声をかけ、散歩時に不審者がいないか、危険な所は無いかと気にかけていただき、子ども達の通学時に見守るだけでなく、地域の方にも意識してもらい、見守りをさせていただいています。

西校下町会連合会

〔設 立〕 昭和61（1986）年4月

〔町会数〕 7町会

〔世帯数〕 2,103世帯

〔組 織〕 会長、副会長2名、常任理事3名、会計監事2名、理事（全町会長）、防災士9名

〔行 事〕 新年互礼会、納涼盆踊り大会、社会体育大会、文化祭

近年は金沢港へクルーズ船や豪華客船の発着が増えた為、その船を見に行こうとする車で渋滞になる事もあります。クルーズ船や豪華客船の観光客や海外の方が市内へ向かう姿を目にすることが多くなりました。西校下は、そうした多くの方の出入りが増えた事で、地域の人達が不安を感じていることも確かです。

しかし、安心・安全で暮らしやすい地域造りを目指しております西校下の子ども達が毎日楽しく元気に活動ができますよう、登校時や下校時は勿論のこと各町会のボランティアの方々が子ども達を見守っております。又、災害が起きた時などは素早く対処出来るよう防災士を育成増員し、災害に強い西校下を合言葉に対策会議等を行っています。

長年の懸案であった西公民館の駐車場のスペースが狭いという問題がありました。平成25（2013）年、西公民館に隣接する田畑が売出されたことを知った西校下の一員から、その田畑を取得すべきではないかとの提案があり、西校下の有志の皆様で土地を取得することとしました。西校下町会連合会と西公民館とで協議を重ね、各町会及び有志のご厚志により取得することに決議され、西公民館隣接地取得期成同盟が結成されたのであります。約20台の車両が駐車可能な駐車場が完成し、そのおかげで公民館利用者の皆様からは西公民館をより利用しやすくなったと喜ばれています。

平成26（2014）年3月には待望の北陸新幹線が開通し、3年目を迎えた今でも多くの観光

客が来てくれています。金沢駅では今、兼六園口と金沢港口となり、かつては西口だった金沢港口にも多くのビルやホテルが建ち並ぶようになりました。そして、その新幹線開業に合わせ、秋には市民参加型の金沢マラソンが開催されることになり、こちらも毎年多くのランナーが参加していて人気となっています。駅西側には西、戸板、長田町の3校下が合同の応援スポットがあり、西太鼓保存会による太鼓演奏や、長田中学校のブラスバンド部による演奏で盛り上げております。そのコースの一部に通称50m道路「けやき通り」が入っており、西校下を通過します。そのため七町会で話し合いを行い、いろいろ工夫を凝らした応援をしています。

平成27（2015）年には西校下30周年を迎え記念式典を新年互礼会と合同で盛大に行いました。今後はゴミ有料化問題など様々な問題が出ると思われますが、七町会が団結し取り組んで参りたいと思います。

活発な各種行事

新年互礼会

各団体長をはじめ、各町会役員、女性会、



新年互礼会



社会体育大会

少連、老人会、民児協、社会福祉協議会、学校関係、公民館関係者等一同が一年の健康と繁栄を願い毎年行っています。

西校下納涼盆踊り大会

西校下女性会の方々が各町会を回り協賛金を集め、公民館関係者が当日の朝早くから会場設営をし、協力しながら校下盆踊りを盛り上げています。毎年500人以上の方が参加し、踊りの輪も何重にもなり賑わいを見せています。

社会体育大会

各町会より競技に選手を選出してもらい、どの種目も皆さん楽しく参加しています。最大の見せ場である町会対抗リレーは最高に盛り上がります。

文化祭

毎年人気の串焼きコーナーや餅つき、青空市場、少連の模擬店、ウエストサークルによる手作り品、女性会による食堂などなど、そして個人による趣味のコーナーは毎年力作ばかりで、来場者の目を引いています。

こうして、地域一丸となって協力し合い、校下を盛り上げながら一年間を通して交流を深めています。



納涼盆踊り大会



文化祭



「二塚ジョンカラ」の文化の継承と 住民のコミュニティの充実が自慢

二塚地区町会連合会

会長 赤丸 義和

二塚地区には大正時代から踊られている「二塚ジョンカラ」の保存会が結成され、平成17（2005）年から、「子どもジョンカラ教室」を開催し、小、中学生による三味線や横笛などの練習を月2回重ね、8月の第1土曜日に開催する二塚夏まつりに参加し、伝承文化の継承に努めています。

また、地元の緑小学校の3・4年生が中心となって運動会で発表し、緑中学校でも1年生が運動会の開会セレモニーで披露しています。

二塚地区は、住民同士のつながりが強く、公民館活動と一体となって、平成28（2016）年度は、各町会対抗の第63回社会体育大会、第56回文化祭、ソフトボール大会、トリムバレーボール大会を開催し、町民同士の融和を大切にしています。

当地区は、歴史が古く、縄文弥生時代から集落が存在していました。石斧や土器、石槍、勾玉などの出土品が発掘され、平成10（1998）年には、二塚の地名の由来にもなっ

ている「おまる塚古墳」と「びわ塚古墳」の二つの塚が市の指定文化財に指定されました。

また、平成27（2015）年には、天徳院の境内にあった5代藩主綱紀の御霊屋を明治9（1876）年に移築された佐奇神社拝殿が、市の指定文化財に指定されるなど古い文化の薫りのする地域です。

明治22（1889）年に、二塚村が誕生し、昭和18（1943）年に金沢に編入した。昭和43（1968）年から、金沢バイパスが整備され始め、昭和47（1972）年に北陸自動車道の金沢西一小松インターチェンジが開通し、現在は西の玄関口となっています。市街化が進む地区内には、水田や県西部緑地公園に見られる緑も多く、健民海浜公園、県営陸上競技場、県立野球場、県産業展示館や、いしかわ総合スポーツセンターなど施設も充実している環境にあります。

一方、佐奇森町や赤土町は、大正から加賀野菜の「二塚からしな」が栽培されており、厳しい寒さを乗り越えたその風味はぴりっとした独特の辛味で食欲をそそる味わいであります。

専光寺地区は、白山の伏流水の自噴する豊富な水量と、一定水温による環境から昭和45（1970）年に市内の染色業の従事者が集まり、加賀染色団地が建設されました。

これまで、二塚地区には犀川、伏見川の堤防決壊にたびたび見まわれたことから、犀川下流域改修事業が進み、その新堤には今は桜

二塚地区町会連合会

〔設 立〕 昭和32（1957）年4月

〔町会数〕 19町会

〔世帯数〕 1,740世帯

〔組 織〕 会長、副会長2名、監事2名、防災士9名

〔行 事〕 社会体育大会（6月）、二塚夏まつり（8月）、文化祭（10月）

の若木が植えられ、未来に向かってその満開の日を夢見ています。

災害はいつやってくるかわかりません。毎年定期的に防災訓練を続けることが大切であり、要救護者を把握するための福祉防災マップ、図上訓練など普段から地域の防災に全力で取り組んでいます。

二塚地区では、女性会をはじめとした各種団体の皆さんのすばらしい活動はもちろんのこと年代の切れ目のない壮年会、ふたば会の存在は文化祭でのもちつき実施で喜ばれています。

緑小学校、緑中学校では、地域を知る総合学習の一環として、縄文時代に食べられていたとされる古代米の田植えや稲刈りを体験し

地域の人達とふれあい、古代米を使ってもちつき大会を開き地域イベントなどに提供されています。

また年間を通じ、「安心、安全のまち二塚」をアピールするため、防犯協会が中心となり犯罪防止や住民の防犯意識の高揚を図る活動を実践しています。

平成12（2000）年に結成された「子どもをはぐくみ住み良いまちづくりの会」は、二塚・安原・緑団地の3地区で活動し、地域教育支援の小・中学校の挨拶運動、教育環境支援の夏休み夜間パトロール、ホタルが舞う町づくりの活動、自主活動支援のまち探検、広報支援の年2回の会報の発行をし、子どもたちの健全育成に努めています。



夏まつり



社会体育大会



図上訓練



文化祭



未来と希望に向かう安原地区 防災・防犯に強いまちづくり

安原地区町会連合会

会長 西川 昇

当安原地区は、金沢平野の西北に位置し、東側には朝夕に仰ぐ雄大な白山と西側には安原海岸から見る荒波の日本海そして、中央には悠々と流るる安原川があり、明治21(1888)年に上安原村の高多久兵衛氏の努力により全国に先駆けて耕地整理が施工され、^{いくいくせいせい}郁郁青青の自然に恵まれた田園地域であります。

現安原地区の変遷は、藩政時代を経て、旧安原村＝明治22(1889)年から昭和29(1954)年まで存在した石川郡の自治体名であり、当時の上安原・下安原・下福増・中屋・専光寺新町(豊穂)・打木の6か村が合併して成立したのであります。

その昭和29(1954)年7月に、市町村合併が進められ、^{かんかんがくがく}侃侃諤諤の議論はもちろん地域の発展のためと辛酸をなめられた等々～先人のご苦勞の末、金沢市に編入されたのであります。

現在の当安原地区は、加賀野菜の宝庫として金沢市はもとより石川県最大の砂丘地農業地帯はもちろん、居住環境が整った金沢市営緑住宅団地、美術的な物づくりの基盤となる安原工業団地の形成また、交通網整備として

北陸自動車道の金沢西インターへのアクセス、さらには、安原会館・児童館を中心とする小中高各学校、幼・保育園の教育施設と各種福祉施設の充実、安原分団施設等の防火・防災の治安の充実等々を基盤としています。

この10年の歩みは“光陰矢の如し”のとおりに白山インターに接続する海側環状道路完工、先の安原土地地区画整備事業の完工を経てスーパー・商店の進出や戸建住宅の増加、安原交番移転新築で交通・防犯の充実、第二こじか児童クラブ、きりん児童クラブの新築等々で、新しく3町会、世帯数204世帯・人口311人増加しています。

当安原地域の人口動態の伸び率は平成29(2017)年4月1日現在：世帯数約3,879世帯、人口約9,541人となり、今では当地区が金沢市の目標的地域すなわちランドマークと言っても過言でないと思っているところであります。

このように、住民の生活向上はもとより車や人の流れの利便性等、めざましい発展を遂げたのは、多くの先人の方々の先見的な展望と汗と努力の賜ものであると確信し、心から敬意と感謝の意を表す次第であります。

昭和32(1957)年には、安原地区の町会連合会が初代会長に高田之言氏が就き「安原地区町会連合会」が誕生したのであります。

現在の当安原地区町会連合会は、未来と希望に向かって“何をする？”でなく“何ができる！”かを、みんなで新しい感性とアイデア・意見等々の知恵を出し合い事業運営に取

安原地区町会連合会

- [設 立] 昭和32(1957)年
- [町会数] 33町会
- [世帯数] 3,879世帯
- [組 織] 会長、副会長2名、常任理事5名、理事(全町会長)、防災士13名
- [行 事] 防災フェスタ、いんぎらあ～と盆踊り大会、海岸保安林のクロマツの植樹、安原・二塚両地区住民合同震災訓練

組んでいます。

このことが、地域住民の方々との連携を強くするとともに、地域の特性を遺憾なく発揮できる態勢で各種事業を展開し、元気で明るいそして安全で安心して暮らせる地域づくりすなわち「安原地区づくり」に、邁進しています。

さらに、幾星霜を経て、今も変わらないのは、住民一人ひとりが土着で頑固なまでの純真無垢で、思いやりの心がある気質と風土は、当安原地区のコミュニティ活動が活性化している源でもあり、何ものにも代えがたい素晴らしいことと自負しているところであります。

当安原地区町会連合会の事業活動等々～10年（2008年～2017年）の歩みは、別途年表のとおりであります。

安原地区町会連合会の事業活動年表 【2008年～2017年】

◇2007年以前から継続している事業等

- ①防犯。交通安全の集い（西警察署と合同）
- ②自主防災研修会（講演等）
- ③視察研修会（他都市の防災の取組み含む）
- ④安原交番連絡協議会（意見交換会）

2008年～ 海岸保安林のクロマツの植樹実施

2010年～ 町会連合会の事務分掌表（グループによる事業活動）

2011年～ 安原地区防災マップ作成（4年計画）

2012年～ 防災フェスタ開催

2014年～ 金沢市編入60周年式典・記念誌発行

2014年～ いんぎらあ～と盆踊り大会開催

2015年～ “実(み)守り隊”パトロール出発式開催

2017年～ 安原地区・二塚地区住民合同震災訓練実施

◇その他～継続協力事業等

- ①石川県知事と若手就農者との懇談会
- ②子どもをはぐくみ住み良いまちづくりの会（夏休み夜間パトロール出発式・あいさつ運動他）
- ③緑住宅団地の整備計画に伴う意見交換会（金沢市営住宅課：低層階を10年計画で建替え）

《安原地区の3偉人》

- ① 高多久兵衛翁（上安原町）＝明治時代・全国に先駆けて農業の基盤である耕地整理事業の創始者であり、かつ、日本の同事業の模範となっています。
- ② 松本佐一郎翁（打木町）＝篤農家で、昭和初期に源助だいこん・赤皮甘栗かぼちゃの生みの親で、砂丘地園芸の基礎を打ち立てられたのであります。
- ③ 増川将雄翁（福増町）＝優れた見識と人一倍強いリーダーシップで、安原農協組合長として昭和30～40年代に、県下を代表する近代的大園芸産地の礎を築かれたのであります。



防災フェスタ：参加者約1,000人、公民館の文化祭と同時開催。ツエーゲン金沢の選手協力。



いんぎらあ～と盆踊り大会：20数年ぶりで復活し、新曲「安原音頭」完成披露。安原小学校の児童が応援出演（運動会では、全児童が「やすはら音頭」を踊る。〈平成29（2017）年度〉
①緑中学校・吹奏楽部の生演奏で踊る！
②金沢市のモデル事業に採択される。

やすはら音頭
作詞：横山浩仁 補作：中西剛明 作曲：でえげっさあ

【1】 加賀の国の 海沿いに 安原名産 加賀野菜 すべすべ素揚げの 太きゅうり 打木赤皮甘栗かぼちゃ (たんまっし) 源助大根 うまそいね 砂丘で作る スイカは甘い (あ よいしよ) 新鮮野菜の 収穫だ 踊ろう 安原 安原音頭 (ほうや おいね ほんながや) 【2】 命と 合併したけれど 昔は安原 六ヶ村 団地ができて 住む人が 増えてできたよ 13町会 (まいどさん) 大きなスーパーマーケット 海側環境 近路もできた (あ よいしよ) 町の未来を 夢に見て 踊ろう 安原 安原音頭 (ほうや おいね ほんながや) 【3】 加賀の白山 眺めよし 11階建て みどり団地 のどかな田んぼが ひろがって カエルの鳴き声 大合唱 (あら いいじい) なかよし みどりの連合会 1丁目から 2丁目まで (あ よいしよ) 祭りとなれば にぎやかに 踊ろう 安原 安原音頭 (ほうや おいね ほんながや)	【4】 発明アイデア 閉いてくる 会社の集まり もの御り 工業団地は 農業種 悪い悪いの 人々が (あら りくつな) 一歩損ね 「負けんけん！」 エジソンさんも たまげるだろう (あ よいしよ) 発明特許 ぶち上げて 踊ろう 安原 安原音頭 (あ だいいね) (ほうや おいね ほんながや) 【5】 緑・安原 子どもたち 緑・安原 小学校 学んで遊んで すこやかに 一緒に得た 友達だから (あら いちやけな) 部活でがんばる 中学生 青春まん中 高校生 (あ よいしよ) 大人になっても さあ一緒に 踊ろう 安原 安原音頭 踊ろう 安原 安原音頭
---	--



海岸保安林のクロマツの植樹：参加者約600人、地元住民の方々、安原・緑小学校の各6年生全員（卒業記念）、緑中学校1年生全員（課外授業）、石川県農林協会の協力。



安原・二塚両地区住民合同震災訓練：金沢市で最初の2地区住民合同震災訓練であります。対象参加者は全住民・全施設、小・中・高各学校。まちなか訓練・拠点訓練実施。安原・緑小学校全児童・緑中学校全生徒は、当日登校日。〈平成29（2017）年度〉
○金沢市のモデル事業に採択される。



国際交流や伝承芸能の継承など 住民が積極的に協力する地域づくり

大徳地区連合町会

会長 高畠 菊丸

地区内の大徳中学校は、米国シアトル市のエクスタイン中学校と20年以上交流を続けています。旧制四高に留学経験があるワシントン大学のリチャード・N・マッキンノン名誉教授が、母校のエクスタイン中学校と交流する中学校を金沢で探したのがきっかけで、マッキンノン氏が平成4年（1992）年10月に大徳中学校に来校し、文通や作品交換などの交流を始めました。

翌年4月には、マッキンノン氏の仲介で両校の姉妹校提携が結ばれました。1年ごとに両校の生徒らが互いの中学校を訪問しています。大徳中学校が派遣する年は、シアトル市でホームステイをしながら、エクスタイン中学校の授業を受けます。大徳中学校が受け入れ側の年は大徳地区の住民がホストファミリーとして歓迎し、エクスタイン中学校の生徒に日本舞踊や能の鑑賞など日本文化を体験してもらっています。

さらに、平成23（2011）年にはエクスタイン中学校から贈られた壁飾りなどを展示す



大徳地区盆踊大会



大徳じょんがら

る「交流館」は大徳中学校の空き教室を利用し、ガラスの置物、先住民族の羽飾り、交流の様子を撮影した写真パネルなどが並んでいます。文化祭などの行事の日には保護者や地区住民も自由に見学できるようになっています。学校だけでなく地区住民も一緒になってウェルカムパーティーを開くなど、地区全体で国際交流を進めています。

大徳地区には、民謡の大徳じょんがらが伝わっています。もともとは無量寺方面に伝わっている盆踊り唄で「大野村じょんがら」といわれていましたが、平成3（1991）年

大徳地区連合町会

〔設 立〕 昭和30（1955）年

〔町会数〕 16町会

〔世帯数〕 7,083世帯

〔組 織〕 会長、副会長、常任理事3名、理事16名、防災士12名

〔行 事〕 16町会定例会、各種団体長協議会、大徳公民館運営審議委員会、防犯委員会

に「大徳じょんがら」と地区名に合わせた名称に改められました。歌詞には昔の村の風景や農村の様子が入っており、振り付けは豊年を祝う踊りとなっています。

さらに、民謡教室に通っている人が校下のお年寄りをたどって出来上がったのが「木曳野めでた」です。「めでた」とは、結婚式などの祝い事の時に手拍子に合わせて唄われていたもので、鶴や亀、松といった縁起の良い言葉が入っています。大徳地区の女性だけの和太鼓グループ「もっくり太鼓」と「大徳じょんがら」を守り伝えようと平成16（2004）年に大徳地区地域伝承芸能保存会が結成されました。同会では、大徳小学校3年生を対象に太鼓とじょんがらの体験教室を開いています。それがきっかけで太鼓に興味を持ち、子どもチームの「もっくり太鼓瑞穂」に入る女子児童も現れ始め、少しずつその野が広がっ

ています。同会では現在、太鼓とじょんがら以外に唄と三味線が加わり、約60人で活動しています。20年以上活動している太鼓とじょんがらを中心に、大徳地区の芸能を守り継いでいきます。

大徳地区は近年、住宅が急増し市内最多の世帯数を誇ります。地区内には小学校2校、中学校1校、高校2校があり、保育園と幼稚園、学童施設など子どものための施設が充実しています。また、平成23（2011）年には住民の念願がかなない金沢海みらい図書館が開館し、市中心部まで行かずに本に触れる機会が増えました。今後も子どもがのびのびと成長できる文教地区をめざし発展していくように住民全体が積極的に地域づくりに協力しています。



エクスタイン中学校との国際交流会



もっくり太鼓瑞穂



金沢マラソン（大徳公民館前）



金沢海みらい図書館



歴史と文化が生きづく町 住民の結びつきを大切にした地域づくり

金石町校下町会連合会

会長 鶴山 庄市

金石町は、江戸時代から明治時代初期にかけて、北前船の交易で大変栄えた地域でした。豪商銭屋五兵衛を生み、その交易で地域経済は大いに活性化しましたが、鉄道を始め陸上交通の発達と共に北前船は役割を終え、それと共に地域経済は衰退し、今では残された史蹟・遺品等で往時を偲ぶしかありません。

一方では、昭和18（1943）年に金沢市に編入されるまで、金石町として行政体が維持されていた為か、独特の町の気概というものを感じられます。その繁栄の面影を色濃く残した町並みを大切にしながら、宝生流の謡を受け継ぐ「金石宝生会」や、「船玉節」など地域に伝わる民謡をしっかりと守って活動している「金石民謡会」の存在など、伝統文化・芸能の継承発展に取り組み、住民が暮らし易い環境の維持、そして町民の連帯意識の強さをより強固にしていくべく種々の活動を行っています。



住民の繋がりを強く感じる社会体育大会

只、町の人口構成は高齢化が進み、65歳以上の人口が金沢市内の平均よりはるかに高い33%を超えている状況です。町の道路も狭く、木造住宅が連担し、消防局からは特別火災防御地区に指定されていますが、8月31日には当地域にとって歴史的とも言える大火災が発生し、多くの家屋が被災しました。

この事が契機となり、住民意識の大きな変化の中、火災は勿論の事、自然災害にも備えるべく地域の自主防災会の在り方を見直し、より実効性のあるものに組織化していく必要に迫られています。

一方、金石町でも、宅地開発が幾つかの箇所で行なわれ、若い方々を中心に移り住んでいただけるようになってきました。この町は、今でも古くから伝わる44の町会名（旧町名：例えば味噌屋町、本町、鉄砲町などなど）で地域活動が行われています。写真に見られる、大野湊神社夏季例祭に於ける曳車、太鼓台の行列などは、それぞれ旧町名毎に参加し、社会体育大会ではスポーツを住民が町会

金石町校下町会連合会

〔設 立〕 昭和31（1956）年8月

〔町会数〕 44町会

〔世帯数〕 2,515世帯

〔組 織〕 会長、副会長3名、会計1名、監査2名、
幹事3名、防災士7名

〔行 事〕 大野湊神社夏祭り（8月）、社会体育大会（4年に1回 10月）、海浜清掃（7月）、戦没者慰霊式（9月）

単位で競い楽しむ重要な地域イベントになっています。

更には、何十年もの間、毎年7月第3日曜日の朝、全町民が参加して海浜をきれいにしようと、「金石海浜一斉清掃」活動をしています。地元企業の社員皆さんの協力や、金石町小学校の生徒さん方の協力も得て、住民の海浜への愛着心を高めてもらいつつ、参加者の環境保全の大切さをしっかり認識して頂く事に大いに役立っています。

それらの地域活動に新しく住まわれる人々が出来るだけスムーズに加われる様、地道な日々の町会活動に取り組んでいかなければならないと思います。

金石町は、海を背にし犀川の最下流に位置する地理的条件を持っています。また、金石海岸を埋立てした「金石海原」と名付けられた広大な土地があります。今は、暫定的に簡易野球場やサッカー場として土地の一部を利用していますが、15万坪以上の広さがある土地です。

この土地の利活用をどの様にしていくのか、行政と一体となって考えていかなければなりません。また、広大な土地に繋ぐ道路をどうしていくかといった事も大切です。この壮大な夢のある取り組みを通じて、是非共これからの金石町の発展に繋げていけるよう種々活動していきたいと思っています。



住民が毎年楽しみにしている大切な夏祭り



子供も大人も住民全員が参加しての海浜清掃



平和の尊さを確認する戦没者慰霊式



金澤の海の玄関 大野町校下・まちづくりの歩み

大野町町会連合会

会長 栗森 長八

大野町は、江戸時代より港と醤油の町として、活況を呈してきました。

大正11（1922）年、先人たちは町の繁栄を願い「大野漁港」築港を目指し、県に対して請願運動を始めました。翌年、光谷次郎松氏が町長に就任し、「漁港」とするよりは、金沢市を後背地とする貿易港とすることにより、大野町に昔日の繁栄を回復させようと考えました。このような構想を描き、町の将来の活路を開くため「金沢港築港運動」へと発展させていきました。

昭和5（1930）年には、『金沢港建設の急務』という論文が北國新聞で発表され、市政県政の中に位置づけられました。その後、帝国港湾協会の後援もあり、金沢港築港が昭和8（1933）年に閣議決定されるに至りました。

昭和10（1935）年12月、大野町最後の町長となった山守六太郎氏は大野町を金沢市に編入し、将来の金沢港の実現を夢見て奮闘し

ていきました。しかし、第二次世界大戦により計画は暗礁に乗り上げ立ち消えとなりました。戦争により中断されていた計画は、昭和36年になると漁業根拠地としての重要性や日本海の対岸貿易の重要性が再び認識されるようになり、金沢港建設の予算が計上されたという朗報が入りました。このことを計画から実現の段階に進んだものとみて町民の氣勢があがり、築港が具体化した時の土地問題などを含めた、総合的な「まちづくり」が論議されるようになりました。さらに、38豪雪の際、陸上輸送路の途絶による燃料や生活物資の不足問題が国県で取り上げられ、昭和39（1964）年4月には国の重要港湾に指定されました。金沢港の実現を夢見た日から34年目に、幻の金沢港が陽の目を見、昭和45（1970）年11月1日の開港に至りました。

金沢港開港に至る過程では、町の活性化を期待して大野町の砂防林や農地など約20万坪の土地買収などに協力してきました。しかし、大野日吉神社1250年の大祭を終えた昭和62（1987）年頃になると、青年層の流出による人口減やそれに伴う児童数の減少などの問題が表面化してきました。そのため、町の活性化に向けた、まちづくり運動が叫ばれるようになりました。そこで、昭和63（1988）年に山本勝美氏、山守敏雄氏が先頭に立ち「大野まちづくり委員会」を設置していきました。

さらに、大野町各種団体で議論を重ね、地

大野町町会連合会

〔設 立〕 昭和28（1953）年4月

〔町会数〕 12町会

〔世帯数〕 725世帯

〔組 織〕 会長、副会長2名、会計1名、町会長12名、防災士3名

〔行 事〕 一斉美化清掃（5月）、海岸周辺清掃（7、10月）、戦没者慰霊祭（8月）、大野日吉神社祭礼曳山（7月）、盆踊り（8月）、町民体育祭（9月）、自主防災避難訓練（10月）

の利を生かした「まちづくり構想」の原案を策定しました。それをもって県行政に対して陳情や要望をあげていきました。

その働きかけがようやく実り、平成4（1992）年には「県営住宅」、翌年には「大野お台場公園」「大野からくり記念館」建設が決定しました。その後、地元委員会では、規模や運営方法などを行政と協議「大野からくり記念館」が開館するに至りました。

同年には、「県営けやき住宅」が竣工するとともに、町の一部が「金沢市こまちなみ保存区域」に指定され、大野の町並み整備が推進されました。平成10（1998）年には、魚釣りができ「航路護岸整備」が完了し、翌11（1999）年5月には「大野お台場公園」が開園するとともに「市道・大野桂線」が開通し、翌12（2000）年7月には、からくり記念館に「子どもからくり体験棟」が増設されました。

平成13（2001）年には、4丁目児童公園を地元提案型として名称を町民公募した「大野こまちなみ公園」として開園しました。平成20（2008）年には、大野川分水路の川岸にプレジャーボート係留施設が誕生し、海の玄関口が素晴らしい環境で整備されました。翌21（2009）年には、日吉神社境内に「曳山収納庫」を新設し、各町会の曳山7基を常設展示する「曳山館」が開館しました。平成25（2013）年には、小学校・公民館・児童館・児童クラブに隣接する土地「大野町町民会館」を新設することができました。

以上の取り組みと並行して、金沢港西地区の海岸周辺や航路沿い、大野埠頭等の自然保護と環境美化を目的に24年間続けてきた清掃活動が認められ、平成28（2016）年の海の日「国土交通大臣表彰」を受賞することができ、今日に至っています。



曳山館



曳山館落成式



大野町町民会館



国土交通大臣表彰状



共同で協働し、安心のまちを

小立野町会連合会

会長 高野 健三

小立野学生のまち推進協議会発足

古くから日々の暮らしにおいて学生と住民が親しく交流してきた当区域ですが、更に交流を深め、地域の賑わいと活力が創出される事を目的に、田上校下「大学門前町学生のまち」の先例に習い、平成23（2011）年9月“小立野学生のまち推進協議会”が設立されました。

先立つ8月には、美大の学生の作品を常時展示し、発表する「アートベース石引」が石引商店街の協力でオープン。金沢大学医薬保健学域の健康相談室。学生サークルからは、節分行事の他、夏休みに開催する“星を観る会”への参加も頂いています。又37回目を迎える“御山まつり”では、神輿の担ぎ手、舞台イベントへの出演等、広く交流活動を行っています。

安全・安心の街を目指して

○青パト発足：平成19（2007）年10月、2

台の自家用車両が“青パト”に登録。町会長や地域安全委員の参加協力を得、校下を巡回し、見せる防犯活動で生活安全の一端を担っています。

○こだつのつ子安全サポート隊活動：小立野小学校児童の、登下校時の安全を守る活動が始まって10年を経過しました。又、児童と日々挨拶を交わす事も心掛けています。皆さんの協力で、継続していかなければならない活動です。

地域特性を伸ばす

木の温もりを感じさせる小立野小学校と、対照的に近代的な威容となった金商高校が相前後して、新しく生まれ変わりました。又、紫錦台中学校では、体育館が新しくなりました。

平成21（2009）年には辰巳用水の清流を引き込んだ「石引の広見」が完成。又、10年以上の歳月をかけて、整備された、金沢大学附属病院の工事が完了し、正面から見る様相は一変しました。文教の地小立野が一層伸長したと思いました。

又、新幹線開業後、歴史ある前田家所縁の寺院群には、ガイドブックを片手にした観光客が目立つようになりました。

認知症への取り組み

“認知症患者を地域で見守り、安心して暮らせる街づくり”をテーマに、平成28（2016）

小立野町会連合会

〔設 立〕 昭和33（1958）年

〔町会数〕 35町会

〔世帯数〕 2,580戸

〔組 織〕 会長、副会長3名、理事3名、監事2名、幹事2名、相談役、参与、コミュニティ防災士8名

〔行 事〕 御山まつり（9月）、文化祭（11月）、ソフトボール・ソフトバレー大会等

年に認知症サポーター養成講座を全町会で実施。更に進んで「認知症行方不明者捜索訓練＝認知症みつくてねっと」を市内第1号として実施しました。“温かいお節介をする勇氣”そんな気持ちを皆が少しでも持って頂ければと願っています。

これからの・・・

小立野台地の東端、本多の森公園に、東京国立近代美術館工芸館の工芸館の移転が決定しています。旧工学部跡地には、県立図書館と美大が移設されます。完成後、人の流れも少しは変化をみせ、商店街の活性化や世帯数の減少傾向にも少しは歯止めがかかるものと期待しています。

他団体との共同と協働で＝より良く、より多くの成果を

町連・公民館・社協等、夫々が個々に団体活動をする中で、共同で行う事で効率的且つより大きな成果が期待される事業や行事が必ずあると思います。

地域コミュニティの醸成を目標に、他団体と協調・協働し、住み良いまちづくりを目指して行きたいと思っています。



認知症行方不明者捜索訓練



御山まつり“御山神輿”



学生との“星を観る会”



整備された“金沢大学病院”



左側“小立野小学校”・右奥“金商高校”



地域の特性を活かした 「魅力ある街づくり」に取り組む

崎浦地区町会連合会

会長 野脇 格

「崎」は岬を「浦」は水岸を指すことから、当該の「崎浦地区」は海辺の町を連想する人が多いです。その崎浦村の由来は、一帯が加賀の国史でも著名な山崎山の麓で、その一端が石浦荘といわれていたことから金浦郷ともいい、これら古名を折衷して「崎浦」と称したのです。この崎浦地区は金沢市を代表する犀川、浅野川の両河川にそって造られた小立野河岸段丘上に拡がっていて、市内校下で両河に接する唯一の地域でもあります。

台地上からは医王の稜線から昇る朝日と日本海に沈む夕日と広がる市街地の大半を望むと同時に、彼方金沢から松任に至る日本海の水平線まで遠望できるのです。また東南浅野川対岸に卯辰山、西南には野田山と寺町段丘を望見できる景勝地でもあります。区域内を貫通する「辰巳用水」は、平成22（2010）年2月国史跡として指定されましたが、静岡の「箱根用水」、東京多摩郡の「玉川用水」とともに「日本三大用水」として貴重な遺産になっています。更に藩政期には、この用水を

利用し火薬製造所を設け国内随一の規模と生産品を誇った「土清水塩硝蔵」の跡地があって、地元有志間で、平成19（2007）年「塩硝の道検証委員会」を結成し、現地調査や研究を契機に金沢市で発掘調査を行って「辰巳用水附土清水塩硝蔵跡」として平成25（2013）年3月17日に国史跡になるなど快挙が続いたのです。

なお辰巳用水沿いには約2キロメートルにわたって遊歩道が延び、遊歩道横の崖地で茂る灌木が遊歩道の天蓋となって四季の移ろいの変化を見せ、樹幹から洩れる光と流水の煌めき、飛び交う小禽しょうきんの囀りは、すぐ際の県道に車の往来があることも忘れる深山幽谷の境地に充たされるのです。こうした自然環境とは別に崎浦地区にはそれぞれ通学する小立野と南小立野の両小学校、紫錦台と城南の両中学校があり、警察派出所も小立野、涌波の両交番があつて区域の大きさが憶測されるのです。

こうした穏やかな環境にも大きな変化が訪れ、平成19（2007）年金沢大学工学部が角間キャンパスに移転したことで、学生がいなくなり周辺の飲食店まで移転・廃業し、アパート、マンションなどに空室が増え、しかも高齢化と相俟って急激に町としての賑いが喪失しました。この危機打開を図るべき工学部移転前の平成15（2003）年に立ち上げた「工学部跡地問題プロジェクトチーム」で地元意見も集約し検討を重ね、平成20（2008）年、金

崎浦地区町会連合会

- 〔設 立〕 昭和33（1958）年
- 〔町会数〕 29町会
- 〔世帯数〕 4,420世帯
- 〔組 織〕 会長1名、副会長3名、会計1名、監事2名、防災士32名
- 〔行 事〕 自主防災訓練、盆踊り（8月）、社会体育大会（9月）

沢市には現美術工芸大学に伝統芸能と現代音楽科を増設した「芸術総合大学」を、石川県には工学部を継承する「子ども科学博物館」の建設を要望しました。これを受け、金沢市は、文教地区に相応しい美術工芸大学の移転に決まり、美大関係者の作品の収蔵、展示する付属美術館と市民との交流の場「まちなかサテライト」の新設などで大学のみならず地域の文化に磨きをかけ地方創生に生かすとのこと、一方石川県は、全国で4番目に古い「県立図書館」の移転改築をすることで「石川らしさ」をコンセプトに掲げ、公文書、生涯学習機能併設、新県史編纂室など図書館の各機能を備えた新図書館を建設することで賑いを創出するという、一部地元要望とは相違するがいずれも魅力ある施設であることは間違いありません。

これら完成の暁には、美大生が崎浦を第二の故郷となるよう町会や公民館などの行事に

も参加して交流を深めるとともに、空き家を利用した工房で作品制作や展示などを行い芸術の町として再生を願っています。また県立図書館も地元との間で何が出来るかを考え、新たな協力体制を築き智の拠点ばかりでなく、災害時には避難所として利用できることも考慮し当局と協議をしたいと考えています。魅力ある街とは人が集まり楽しめる場所であり、楽しむ場所は心を磨く場所でもあると言われています。この新施設こそが魅了ある街造りの拠点となり、土清水塩硝蔵の復元と辰巳用水の親水性を進めると同時に、崎浦地内にあった上野射撃場で明治11（1878）年、明治天皇が歩兵第七連隊を閲兵された記念碑「明治天皇御野立場跡」や崎浦御塚遺跡、大桑動物化石群など歴史的遺産を活かした街づくりに取り組むことを考えています。



辰己用水遊歩道ウォークラリー



社会体育大会



盆踊りで一息



自主防災訓練



校下の組織が連携一丸

“今より&明日へ”

内川校下町会連合会

会長 小山 秀昭

これまでに地域がいかに変化してきたかを考えてみると、60年前には竹林はまだ限られたところにしかなく、その周囲には「用材林」として杉の植樹と育樹が進められてもいましたが、ほとんどがミズナラ等の落葉樹の山々であり、また水源が確保される場所では水田が棚田で耕作されており、農作業のほとんどが手作業、それが私にとってのふるさとの原風景だと記憶しています。その後今では名産となっている「たけのこ」の生産拡大の一環のためにあちこちで竹が移植され、いまの風景が醸し出されています。

今の内川を考えると、昭和63（1988）年11月に「'88内川シンポジウム」が開催され、地域の20組織の方々から「テーマ：明日の内川を考える」と題して意見発表がされ、それらが今日の大きなマスタープランの基になったのではなかったでしょうか。また各種のライフラインとして、上下水道の完備や道路網の整備などが早期に推進されてきています。

これらの事業等はほんの一例かもしれません。



深い谷を盛土し地滑り対策もされた道路

金沢市町会連合会50周年が過ぎ、今回60周年の節目を迎えています。今、内川のこの10年と今後について期待と希望に思いを馳せてみたいと思います。

平成16（2004）年9月、熊が公民館近くで目撃され捕獲、その後各地で熊情報が報告されるようになり、また猿も集団で移動、さらに猪の出没被害とここ近年大幅な増加がみられます。地球温暖化の影響や繁殖力への対策が追いつかず、ここ10年獣害が山里の生活に深い影響を与えています。

また、先祖伝来の土地を利用して新鮮でおいしい野菜を作り、子供たちや知人に分けて喜ばれる楽しみがある一方で、里山には多くの耕作放棄地が見られ、名産内川の竹林も同様であります。限界集落と呼ばれることに不安を抱え、今はどの地区でも後継者問題が大きくクローズアップされていること等をきっかけに、町会連合会もその対策に活路を見出すべく、また学校問題の対策として生徒数増加の願いを込めて地域内外の方々にアンケー

内川校下町会連合会

- 〔設 立〕 昭和29（1954）年7月1日
- 〔町会数〕 9町会
- 〔世帯数〕 229世帯
- 〔組 織〕 会長1名、副会長1名、会計1名、監事2名、町会長9名、防災士4名
- 〔行 事〕 たけのこ祭り、コミュニティバス「青竹号」、自主防災活動、廃棄物安全パトロール

トを実施しました。その結果、高齢者の交通手段の利便性の向上と、校区外の見学生徒の通学手段の一つとして、平成24(2012)年11月から「コミュニティバス」の試行運行を開始し、利用状況からダイヤ・経路・時間等々に試行を重ね、平成26(2014)年4月より本格運行を開始しました。これからの免許証返納者の増加への対応を含み、学校問題の対策としてもさらに継続実施を望んでいます。また「コミュニティバス」は熊対策として児童生徒の送迎にも利活用されており、安全・

安心な学校運営にも大きく貢献しています。

これからも学校を核として、地域では今後も「強い連携」と「互助の精神」を後世に受け継ぎ、町会長の方々と力を合わせて、明日への町会活動の運営を図りたいと願っています。

なお、5月4日の「第29回内川たけのこ祭り」も盛大に終わり、翌年の30周年の開催や、内川地内の金沢市第二残土処分場の跡地の利活用問題も地域にとって大きな課題であります。これからも防災・減災の強化に取り組み、明日に向かって歩んでいきたいと願っています。



内川第1号の山川トンネル



学童野球のメッカ内川スポーツ広場



コミュニティバス事業（平成29年9月）



コミュニティバス事業（平成24年12月）



第29回たけのこまつり



内川小中運動会で復活した「内川たけのこ音頭」(平成29年9月)



地域住民の絆の下に災害に強く 住みよいまちづくりを目指して

犀川校下町会連合会

会長 井口 栄市

犀川校下は、犀川の清き流れを中心に中山間地域や市街地からなり、自然豊かな地区であり、また歴史的文化遺産が豊富で、高校、短大、大学も存在しています。

平成20(2008)年から現在に至るまで、世帯数は増加傾向から減少傾向にあり、空き家や一人暮らしの高齢者世帯が増加しております。

このような状況の中、当地区においても、地域の活性化のために、この10年の間、校下住民が一体となって、様々な活動の取り組みを行いました。

特に、平成22(2010)年8月、長年、地域住民の念願であった犀川地域総合センターが完成し、同年8月22日、金沢市長や関係者を招き盛大に竣工式を執り行いました。

犀川公民館と市民センターを併設しており、地域の活性化や生涯学習の拠点として、現在も、幼児からお年寄りまで幅広く利用されており、各種行事の申し込みも多く、災害時には指定避難場所となっております。

平成7(1995)年に活動を休止した犀川校下の青年団でしたが、平成23(2011)年3月には、新しく「犀川青年団」が復活し、盆踊りでの三味線の生演奏や公民館行事にも積極的に参加し、他の地区の青年団とも交流を深めています。

また、婦人会活動では、各町会には婦人会が存在しますが、金沢市校下婦人会への不参加町会が増え(一町会のみが参加)、各町会長にお願いし、主に校下の行事に限定し、各町から女性リーダーを選んでもらい、平成28(2016)年8月に新たに「犀川女性の会」が21名のリーダーと地区内の女性全員を対象に発足し、防災訓練や社会体育大会等校下の行事に参加する等盛り上げていただいております。

校下住民の安心・安全の要は、地域防災の一翼を担う地元消防団(犀川分団)であります。市の操法大会での優勝も多く、県の大会にも幾度も出場する傍ら、加賀鳶はしご登りにも参加するなど普段の分団員の活動には敬意を表するところであります。

平成28(2016)年には、消防ポンプ車の更新時期を迎え6年前より、地元負担金の拠出を全世帯にお願いし、同年5月15日には、新しい消防ポンプ車と機材搬送車の入魂式及び初放水が行われ、その後、梯子のぼりの演技にも多くの観客が魅了されました。

平成28(2016)年8月28日に直下型地震

犀川校下町会連合会

〔設 立〕 昭和29(1954)年7月

〔町会数〕 25世帯

〔世帯数〕 1,623世帯

〔組 織〕 会長、副会長3名、理事7名、防災士7名

〔行 事〕 夏祭り(8月)、防災訓練(8月)、社会体育大会(9月)、文化祭(10月)

(震度6強)を想定した市民防災訓練を実施しました。三つの会場に分け、犀川小学校児童、犀生中学校生徒も学校より参加し、約1,500名参加の大規模な訓練となりました。

その後、防災訓練の検証と今後の対応等を協議し、平成29(2017)4月より自主防災会組織の会長以下、各班長までを3年間固定するとともに、7名の防災士(内女性3名)に担当地区を割り振り、今後は、防災士の方々が中心となり、防災訓練の内容(対象者や訓練項目等)を検討し、毎年8月の最終日曜日に、防災訓練を実施することになりました。

本年は、8月27日犀川公民館において、災害発生時に避難所が開設された時、どのように運営したらよいか模擬体験をする避難所運営ゲーム(HUG)を、普段高齢者等と顔なじみの民生委員及び各町会長に参加していただき、6グループに分かれ実施しました。参加者から様々な意見や感想が出て今後の参考と

なりました。

「まさか」の時に備え、普段から向こう三軒両隣、住民同士の絆が大事だと考えます。

今後、高齢化が進む中、「まさか」の時に備え、手作りの「防災ニュース」を各戸配布するとともに、校下の各種団体と防災についての打ち合わせを実施し、防災意識の向上を進めながら、地域住民の絆を深め、災害に強く、住みよいまちづくりを目指したいと思っています。



完成した犀川地域総合センター



女性の会による炊き出し訓練



消防ポンプ車入魂式



市民防災訓練(犀川小学校体育館)



避難所運営ゲーム(犀川公民館)



水害を乗り越え 元気なまちづくりをめざして

湯涌校下町会連合会

会長 山本 正直

湯涌校下は、金沢の市街地から東南約12km、浅野川の上流域に位置し、周囲は、奥医王山、順尾山、高尾山に囲まれた中山間地域です。

当校下には古くから「金沢の奥座敷」と言われ、市民から親しまれている湯涌温泉があります。近年、アニメ「花咲くいろは」の舞台として描かれ、毎年秋に行われる「湯涌ぼんぼり祭り」には全国各地からアニメファンが詰め掛け、賑わいます。

湯涌の名所、金沢湯涌夢二館、金沢湯涌創作の森、金沢湯涌みどりの里に加え、平成22（2010）年にオープンした金沢湯涌江戸村が観光スポットとして人気が高まり、明るい光が差し込んでいます。

ここ10年間の湯涌校下を振り返って、特筆すべき出来事を紹介します。

55年ぶりに浅野川が氾濫

平成20（2008）年7月28日

未明から早朝にかけて湯涌校下全域が局地的集中豪雨に見舞われました。芝原橋で5時から8時の3時間に254ミリ、6時半から1時間



湯涌温泉街 車も押し流された

に138ミリという猛烈な降雨が観測されました。

昭和28（1953）年以来、55年ぶりの大雨で浅野川本流と支流の板ヶ谷川、河内川、医王山川などが氾濫し道路は到る所で寸断され、電柱が倒壊し電話回線が不通、携帯電話も通じず、情報の把握や住民の安否確認に手間取り校下全体がパニックに陥りました。

幸い、人的被害こそありませんでしたが、住宅の全半壊6棟、一部損壊、床上・床下浸水69棟、公共建物6棟、農作業場など91棟が被害に遭いました。また、農道、用水路262箇所、田んぼ、畑など農地26.7haが冠水し流失しました。一方、土砂崩れで芝原、折谷、板ヶ谷の3町で合せて20世帯58名に避難勧告が発令されました。このため仮設住宅7戸のほか民宿や市営住宅で翌年7月～10月末まで避難生活が続きました。

この災害で金沢市が湯涌みどりの里に総合連絡所を開設、被害者の援護や大勢のボランティアを派遣し復旧支援に努めてくださったことは、復興をめざす住民への大きな励みとなったことを水害から10年目を迎えた今も、忘れることなく感謝しています。

湯涌校下町会連合会

- [設立] 昭和35（1960）年6月
- [町会数] 21町会
- [世帯数] 282世帯
- [組織] 会長、副会長2名、会計、理事5名、会計監事2名、顧問1名、防災士4名
- [行事] スポーツフェスティバル（5月）、伝承虫送り（7月）、戦没者慰霊法要（8月）、防災訓練（8月）、文化祭（10月）

江戸村の開園と維持保存研究会の設立

平成22（2010）年9月25日

金沢市によって旧江戸村の移転整備が進められ、平成18（2006）年に茅葺き農家群3棟が先行して公開され、さらに5棟の移築を終えたことから「金沢湯涌江戸村」として全面オープンしました。

2万㎡に及ぶ園内は、「町家・武家ゾーン」と「農家ゾーン」に分けられ、江戸時代の町並み散策や体験学習の場として活用できる多目的施設でもあります。

こうしたことから、歴史的建造物の維持保全と活用、施設案内などを通して湯涌地域のPR、情報発信など、地域の振興発展につなげようと「金沢湯涌江戸村維持保存研究会」を設立しました。

校下内外から募った会員26名が地元につながる風習や食文化、生業などを紹介し、施設運営に貢献しています。

江戸村ではその後、平成25（2013）年に紙漉農家の旧園田家が公開され、平成28（2016）年に武家住宅旧平尾家の移築が始まり全体の整備計画の完成も間近であります。



旧園田家公開記念式（平成25年9月）



軽トラ市（四季のイベント・秋）

まちづくり推進プロジェクトの発足

平成24（2012）年3月4日

地域の活性化をめざして、まずは歩み出そうと町会連合会と各種団体の代表が集まり、「花咲く湯涌・まちづくりネットワーク推進プロジェクト」を立ち上げました。今年6年目を迎えるこの活動も校下全体に広がってきています。四季を通じて地域資源の魅力に触れられるイベントや体験ツアーを実施し、その様子や開催情報等をホームページやフェイスブックで発信しています。

移住定住促進相談窓口を設置し、寄せられた情報や要望を不動産会社と共有し、スムーズに売買・賃貸を進めることで近年、移住者の増加に一定の成果をあげています。

平成28（2016）年10月には、金沢市初の地域おこし協力隊を迎え、住民と連携したイベントの支援、特産物や商品開発など活性化への機運も高まりを見せています。

子供たちの遊び声が聞こえる「元気なまちづくり」をめざして、今後もこうした活動を支援していきたいと思います。



夢二の歩いた古道散策（四季のイベント・春）



山野市長からの委嘱状交付式（地域おこし協力隊）



学生が溢れる大学駅前町であり、 人口が増加し続けている活気ある地域

田上校下町会連合会

会長 上田 幸男

山側環状線の開通〈平成18（2006）年〉と区画整理の進行により、町並みも大きく変貌してきています。特に、金沢市でも数少ない総人口が増加している地域で、若い世代や子供たちが多く、金沢大学をはじめ多くの大学が集まる学生が溢れる大学駅前町でもあります。また、留学生も多く住み、国際色豊かな町でもあります。

28ある町会の中には、若者が町から離れ、高齢化が進む町会も少なくありません。そんな、田上・杜の里両小学校にまたがる校下があります。

春には、公民館主催の社会体育大会が盛大に開催され、各町会の子供からお年寄りが集い、様々な種目に一喜一憂します。競技参加者は我が町会の名誉を背に疾走し、大きな声援と笑いが飛び交います。皆が汗を流して、それぞれが自己を表現しながら互いの親ばくを深めあう場となっています。

秋には、グランドゴルフ大会が開催され、

それぞれの町会を代表する選手が日頃の練習成果を発揮し得点を競い合います。各町会の選手がともに汗しながら競技を通して、交流を深めあっています。

また、5月から11月には毎月1回、いきいき健康教室を開催しています。少しでも多くのお年寄りが健康でいきいきとした生活を送るために役立つようなテーマを選定し、金沢・健康を守る市民の会と連携した取り組みも行っています。

一方、住宅の増加に伴い子供の人数が増加しており、田上小学校の教室数の不足が問題化しつつあり、今後、金沢市と連携しながらより良い教育環境の構築が急務となっております。

そんな中、旧田上小学校校庭に設置されていた二宮金次郎像が、今の子供達にも「金次郎の姿から地道に努力する大切さを学んでほしい」との願いから校舎の玄関前広場の銀杏の木の下に40年ぶりに復活しました。

今後、「若い世代」、「学生」、「外国人市民・留学生」、「高齢者」、「子供」すべての属性がうまく共存する町、協働するまちを目指していききたいと思います。

最後に、平成25（2013）年11月には田上校下町会連合会50周年の記念式典が開催され、50年の活動を顧みるとともに、今後の益々の発展を誓い合いました。

田上校下町会連合会

- 〔設 立〕 昭和37（1962）年4月
- 〔町会数〕 28町会
- 〔世帯数〕 3,818世帯（平成29年4月現在）
- 〔組 織〕 会長、副会長3名、理事4名、会計監査2名、防災士4名
- 〔行 事〕 社会体育大会（5月）、グランドゴルフ大会（9月）、いきいき健康教室（年に7回）

以下に田上校下町会連合会の歩みを紹介します。

田上校下町会連合会の歩み

- ・昭和32年 河北郡浅川村から金沢市に編入
- ・昭和37年 金沢市町会連合会に浅川地区町会連合会として編入（東浅川、俵、医王山、田上、鈴見）
初代浅川地区町会連合会長に本田伊守氏就任 31町会、926世帯
- ・昭和38年 北陸地方に記録的な豪雪（38豪雪）
- ・昭和41年 市内電車全面廃止
- ・昭和45年 金沢刑務所が小立野より田上公町に移転
- ・昭和48年 旭町地区区画整理事業完成
- ・昭和51年 兼六園有料化
- ・昭和54年 旭町地区が浅川地区町会連合会に加入
- ・昭和55年 北陸地方に大雪（56豪雪）
- ・昭和59年 浅川地区町会連合会が田上校下町会連合会に改名 20町会、1,691世帯
- ・昭和60年 2代田上校下町会連合会会長に宮口功氏就任・若松橋開通
- ・昭和61年 3代田上校下町会連合会会長に田上武氏就任
- ・昭和61年 金沢大学移転に伴う角間新町の開町式
- ・平成6年 太陽が丘町会が田上校下町会連合会に加入・鈴見橋開通
- ・平成7年 金沢大学城内キャンパスより角間地区に移転
- ・平成9年 田上第5、田上本町地区区画整理事業着工
- ・平成15年 田上小学校130周年式典
- ・平成16年 田上公民館、浅川市民センター移転し業務開始
- ・平成18年 4代田上校下町会連合会会長に宮口功氏就任 21町会、2,563世帯
- ・平成19年 山側環状線開通・金沢ナンバー開始・朝露大橋開通
- ・平成20年 5代田上校下町会連合会会長に板谷睦卓氏就任 21町会、2,821世帯
杜の里小学校開設（杜の里小486名）（田上小428名）
田上校下総合防災訓練を杜の里小学校にて実施（約1,200名の参加）
湯涌街道景観整備協議会・ゆずの街道愛護会に参画・下田上橋開通
山側環状線の美しい景観を創る会に参画・学問の里浅野川愛護協会に参画
グッドマナー宣言金沢市と調印・大学門前町ホテルの会に参画
- ・平成21年 金沢健康を守る市民の会田上校下いきいき健康教室設立
- ・平成22年 雪かきボランティア金沢大学生と調印
大学門前町学生のまち推進協議会、町連、金沢大学、金沢市と調印設立
田上消防会館移転し活動開始
- ・平成23年 八田與一技師の記念公園、墓前祭に公民館30周年記念として町連も参加
- ・平成25年 田上校下町会連合会50周年記念式典、記念講演、祝賀会 28町会、3,515世帯
- ・平成28年 田上小学校玄関前広場に二宮金次郎像が復活
- ・平成29年 6代田上校下町会連合会会長に上田幸男氏就任 28町会、3,818世帯
金沢第一消防団田上分団の消防ポンプ自動車更改



社会体育大会



いきいき健康教室



グランドゴルフ大会



二宮金次郎像の復活



－地域の絆－

安全・安心のまちづくり

東浅川校下町会連合会

会長 石野 良雄

当校下は、浅野川の清い流れと湯涌街道（ゆずのみち）沿いに位置し山側環状道路からの支線利用で交通アクセスが格段に向上し交流人口が増加している自然豊かな地域です。

教育文化等の施設では、県自然史資料館・学校法人北陸大学があり、療育施設では、ふじのき寮・石川療育センターがあります。

北陸大学主催で毎年恒例の花見の会には校下住民が大勢招かれ、大切な地域の絆と貴重な交流の場となっています。

太陽が丘キャンパス3号棟が平成29(2017)年3月22日に竣工し、臨床検査技師と臨床工学士の2つを目指す「医療保健学部」を新設し、医療のニーズに対応した学部として期待されています。花見の会終了後、新設科棟及び松雲記念講堂の見学会が開催されましたが、最新鋭の検査研究機器に目を奪われるばかりでした。

療育施設・ふじのき寮や石川療育センターから、盆踊り大会やバザー等の催事に地域住

民が気軽に参加し楽しいひとときを過ごしています。

忘れてはならない、平成20(2008)年7月28日の集中豪雨による浅野川洪水の氾濫で、多くの床下・床上浸水・護岸崩落・崖崩れ・田畑の流失等の大きな被害を受けました。その際、北陸大学やふじのき寮より被災者やその周辺の皆さんへの、炊き出しや、機材の提供を受けたことに対し、今も心から感謝しております。

自然災害に対する心構え、**人の命を守る**（安否確認）に重点をおいた避難訓練が平成27(2015)年6月28日校下一斉に実施されました。

事前に市当局の丁寧な説明会を数回に亘って開催し、各町会ごとに指定避難場所を設定し、市当局より自主防災会長に携帯電話による緊急連絡が入り即、防災士・各町会長・消防分団長に伝達された。町会長が所持する電光表示システムに避難指示情報が入り緊張感溢れる避難行動が展開され、避難場所からは集合人数＋在宅者確認数の集計が刻々と現地対策本部へ携帯電話で速報が入りました。ふれあいセンター多目的ホールでは校下婦人会（現女性会）が中心となって市支給のアルファ米の炊き出しを行い、非常食を初めて頂いた方も多く予想外の美味しさを口々にした後、県当局の河川砂防専門官による防災教育講座が開催され、会場は満員に達し自然災害に対する住民の関心の高さが感じられました。

東浅川校下町会連合会

〔設 立〕 昭和53（1978）年4月

〔町会数〕 14町会

〔世帯数〕 224世帯

〔組 織〕 会長、副会長3名、幹事4名、会計、事務局長、会計監査2名、防災士5名

〔行 事〕 新年会（1月）、防災訓練（3月）、大運動会（5月）、戦没者慰霊追悼法要（8月）

地球温暖化の影響か、大雨洪水警報の発表回数が年々増加傾向にあるようです。

災害緊急時の3原則・自助・共助・公助の他にもう一つ、**隣助**の言葉が聞かれます。これは高齢者社会で一人暮らしの方や思うように行動できない方への配慮から、緊急時には、隣へ一言声かけが重要と近年特に叫ばれるようになりました。

校下自主防災会緊急連絡網の整備を平成

27（2015）年6月28日の土砂災害発生を想定した避難訓練実施を契機に、毎年4月に更新し自主防災会役員・各防災士・消防分団長・各町会長・市災害拠点支援支部長・校下公民館・市当局に届け、自然災害の緊急時に備えています。避難訓練で学んだ反省と教訓を糧に、減災に結びつく活動を地域全体で行い**安全・安心のまちづくり**に取り組んで参りたいと思います。



太陽が丘3号棟竣工（平成29年3月22日）



災害現場（がけ崩れ）現地調査



現地対策本部での吹き出し



災害教育講座に参加のみなさん



豪雨災害を伝える新聞記事
（北陸中日新聞 平成27年6月29日）



地域の活性化をめざして

俵地区町会連合会

会長 岡嶋 平吉

地域の概要

俵地区は金沢市の東部に位置する中山間地で、標高200mの大地に6町会から成り立っています。戸室山から湧き出る水は地域の田畑を潤し、四季折々の自然に包まれた農村地帯です。近年若者が地元を離れ子供の数が減り続け、少子高齢化時代が急激に進んできました。

旧俵小学校の利活用

旧俵小学校は明治7（1874）年に創設され、140年の歴史があり何度も増改築された後に、戦後木造2階建校舎に改築されました。地元は基礎石や松や杉を切り出し、無報酬で建設の支援をしました。創立100周年には体育館が完成、昭和58（1983）年には鉄筋コンクリートの3階建てが完成し、地域は喜びに沸いていました。教育熱心な地域は学

校との繋がりも強く、詩集「とむろ」をはじめ、国語研究指定校の学校を支援し、「博報賞」を受ける学校となりました。しかし、少子高齢化時代に入り急に児童数が減少し、平成26（2014）年3月をもって閉校し、田上小学校と統合する事になりました。地域のシンボルとして栄えた学校を利活用出来ないかとの思いが強く、この度関係各位ご協力により、「市民の創造活動支援施設」としてよみがえる事になりました。平成30（2018）年開設です。音楽・演劇・ダンス・アートなどの創造活動の練習場として、地域と一体化した文化交流活動が出来る事を願っています。

県道石引～芝原線の整備

戸室山の裏側には県施設、医王山スポーツセンターをはじめ、金沢市キゴ山周辺整備事業で医王山スキー場・ふれあいの里研修館・天体観測センター等の教育施設があり、子供達や多くの市民の方々に利用されています。県道は坂道でカーブも多く、事故が多く発生していました。地元として市民の交通安全を願い長年にわたり、県道改良工事を進めています。現在、事故はほとんどなくなりました。また、町連をはじめ公民館各種団体でカンナ植え・花いっぱい運動・クリーンキャンペーン等を毎年行っています。県道はいつも綺麗な花で飾られています。

俵地区町会連合会

- [設 立] 昭和53（1978）年
- [町会数] 6町会
- [世帯数] 91世帯
- [組 織] 会長、副会長2名、会計・事務局1名、相談役（常任理事）1名、理事（町会長）6名、会計監査（理事）2名、防災士3名
- [行 事] 地区連合町会長会議（年6回）、運営審議会兼総会、地区新年互礼会、県道市道道路管理作業、地域振興活動に協力、各種団体活動に全面支援

埋立場と地域

現在の埋立場は昭和49（1974）年度に開設され、使用期間もあと数年で終了する事になりました。

第一期の跡地利用として、戸室リサイクルプラザ・戸室スポーツ広場などが整備され野球場・グラウンドゴルフ場等があります。子供達や市民の環境教育をはじめ多くの方々に利用されています。近年では冬に親子雪遊び体験など「戸室ランド」の交流イベントが行われています。さらに地域として次世代の環境問題を考え、平成21（2009）年度より新埋立場問題に協力致す事にしました。平成32（2020）年3月に開設する予定です。埋立場

容量は約271万 m^3 、事業面積は54.1haで使用期間48年間です。今後は環境に配慮しながら、市民の安心安全の町づくりに協力したいと思っています。

終わりに

21世紀はグローバル化が進み、社会が大きく変化してきました。私達の先代が戦後きびしい環境の中で、絶え間なく努力し守り続けてきた自然と俵の大地を、どう活力ある町にするのか。また、若者が夢を持てる地域にするのが私達の責務と思います。先代の苦勞に感謝しながら、一歩でも前進したいと思っています。



俵小学校開校式（平成26年3月）



県道石引～小原線拡幅工事



県道花いっぱい運動（子供会と公民館）



戸室リサイクルプラザ前の雪の戸室ランド



住民一体での地域活性化にふ心 30年続く「二俣紙すきの里まつり」が自慢

医王山地区町会連合会

会長 寺井 孝好

当地区は金沢市の東方医王山麓に位置する、中山間地にあり（JR金沢駅から18km）、奥新保、砂子坂、荒山、二俣、田ノ島、清水の6町があります。

この地域の大部分は森下川の上流にあり、医王山の北面から発する豊吉川と西面から発する田ノ島川の合流点付近に集落が所在しています。清水町は戸室山に発する金腐川の上流にあります。

この地区はほとんどが山地であるため、古来から稲作専用農家は少なく、山間地の特性を生かした二俣和紙、製炭林業に従事するものが多くいました。しかし、これらも社会、産業構造の変化によりほとんどが姿を消し、わずか100人が続けているに過ぎません。

2年前より県道27号（金沢・井波線）の清水・田ノ島トンネルが完成してからは、路線バスで金沢駅まで30分という地理的な条件もあって、市街地へ勤める給料生活者が大部分といってもよいくらいです。

しかし、地域の伝統文化を守り（県文化財



二俣紙すきの里まつり

二俣いやさか踊り、二俣和紙等)、地域の特性を生かしている学校教育に対する期待感も大きいです。又、地域の活性化の為に始めた「二俣紙すきの里まつり」30回目に続いており、約2,000人の集客を数えるまでになりました。

近年、小中学校の生徒数増加策の為、金沢市小規模特認校制度を活用すると共に、保育園から小中学校、児童クラブの一貫教育制度が注目されています。それにより、医王福祉バスによる送迎の開始とインターネット・パンフレット配布によるPRが奏功して生徒数も増加してきております。



医王山福祉バス

医王山地区町会連合会

- 〔設 立〕 不明
- 〔町会数〕 5町会
- 〔世帯数〕 193世帯
- 〔組 織〕 会長1名、防災士3名
- 〔行 事〕 防災訓練、敬老会、いきいき健康教室等

文化財としては蓮如上人の本泉寺があります。この寺は嘉吉2（1442）年、本願寺第六世の功如の第四子如乗（蓮如の叔父）が創建したものです。

醫王山神社の石柱には犬養毅の書が刻まれています。神社拝殿の背後に位置する社叢^{しゃそう}は自然林で、郷土景観を代表する特定植物群落であり、平成28（2016）年3月市文化財の天然記念物として指定されています。

又、学校のプール近くにある室生犀星文学碑は、作家・井上靖の書です。昭和48

（1973）年の碑設置当時、二俣は室生犀星の生母の生誕地とされました。

又、毎年8月15日、盆踊りが本泉寺境内で行われますが、これは県無形民俗文化財の二俣いやさか踊りです。手踊り、扇踊り、傘踊り、鈴おどり、太刀踊り、菅笠踊りの6種類があります。

この地域の良さを今後どのように活用しながら発信していき、活性化に全員で取り組み続けていけるかが課題であり、またやっていかなければならないと思っています。



二俣いやさか踊り



児童クラブ「医王っ子クラブ」



本泉寺



金沢市文化財「醫王山神社社叢」



敬老会



総合防災訓練



伝統文化の伝承と 安全安心を誇れる町造りを目指して

森本地区町会連合会

会長 森川 文博

森本地区町会連合会は梅田、観法寺、塚崎、吉原、弥勒、東森本、ふたば、南森本、北森本、の9町会からなっており、金沢の北の玄関口と言われ古い歴史を持った地区です。現在でも北国街道の松並木や旧家（亀田家、菊池家など）が名残として象徴されます。

昭和37（1962）年に森本地区が河北郡から金沢市に編入し、その翌年（昭和38年4月）に金沢市町会連合会に入会して森本地区町会連合会が創立され、今年が55年目に当たります。平成25年には、森本地区町会連合会創立50周年記念式典を森本小学校体育館で、山野之義金沢市長をはじめ、多数の来賓を招き厳かに執り行われました。

式典後、体育館では森本中学校の吹奏楽、北稜高校のブラスバンドや、姉妹によるフルートとピアノ演奏が披露され会場を魅了しました。一方、グラウンドでは各町会の、子供神輿、獅子舞、南森本町会と北森本町会の合獅子共演、消防団による梯子登りや新調した消防車による放水が行われ創立50周年を

祝いました。

当地区には吉原、弥勒、南森本、北森本の各町会に「獅子舞保存会」があり祭事（9、10月）には各家々の前で「家内安全、子孫繁栄」を笛や太鼓などで唄を披露して祈念します。

また、森本大橋では秋の祭事に、この橋の真ん中で南森本と北森本の獅子舞が向かい合って共演する「合獅子の舞」を近年行われるようになりました。（一度見学にいらしてください）

防災、減災については、地球温暖化の影響なのか近年「ゲリラ豪雨」が各地で発生しており土砂崩れや洪水のほか、当地区は「森本一富樫断層」の真上に位置しており地震も懸念されます。災害発生後の「自助、共助、公助」の内、自助、共助については地域の役割が大切であり防災訓練として、危険個所の把握や避難経路の確認、避難誘導を主とした、「図上訓練」、「HUG訓練」の充実で住民の自意識を高めることが大切と考えております。

山側環状道路が開通し、森本駅前の恒常的な渋滞も大きく緩和されましたが、その反面商店街に立ち入る人も減ってきたことや後継者不在などから廃業する店が増えつつあります。地域全体の活性化を図る上でも、金沢市も注視する「森本駅前広場」を有効に活用す

森本地区町会連合会

〔創 立〕 昭和38（1963）年4月

〔町会数〕 9町会

〔世帯数〕 2,005世帯

〔組 織〕 会長1名、副会長2名、監事1名、防災士8名

〔行 事〕 社会体育大会（5月）、防災訓練（9月）

るために関係団体と連携しながら、地域の拠点とし人々が寄り合うことができる広場となることを期待しております。

また、山側環状道路から国道8号線に抜け建設中の海側環状道路に向かうには複雑な経

路と狭い幅員の道路を通らなければならず、交通事故やトラブルの基となっており道路拡幅やインターチェンジの新設が利便性と安全性の向上に欠かせない要件であり、当地区の課題であると考えられます。



50周年記念式典



子供神輿



獅子勢揃い



北国街道の松



地域の発展は 住民総意が原動力

花園地区町会連合会

会長 中村 登

はじめに

平成25（2013）年に創立50周年を迎え、新たな世紀へスタートした花園地区は、2校下26町会で構成され、水稻・加賀野菜等農業を主産業として発展してきた地域ですが、少子化により朝日小学校が平成27（2015）年度に閉校となり、かつて4校あった小学校も花園小学校のみとなりました。当地区の今後の課題は少子高齢化対策、定住化の促進であり、先人達が守り育ててきた美しい自然と価値ある文化を住民総意で次世代へ継承していきたいと考えています。

過去10年の主な出来事

1. 歩道整備と下水道工事

県道（利屋・福久線）東側歩道のフラット化、拡幅整備により、花園小学校児童、住民の安心安全が向上しました。また、下水道工事も完了した事により、各河川、河北潟の浄化につながっています。

花園地区町会連合会

〔創立〕 昭和33（1958）年

〔町会数〕 26町会

〔世帯数〕 972世帯

〔組織〕 会長1名、副会長3名、会計1名、監査2名、委員長3名、防災士10名

〔行事〕 山側環状・今町IC草刈（年2回）、サマーフェスティバル、防災訓練

2. 旭日地区（中山間地）の取組み

長年生活用水の確保が最大の課題でしたが、森本中部地区上水道整備事業に続いて平成32（2020）年には北部地区が完成する予定です。悲願の水不足問題が解消される事となり、地域活性化の大きな原動力となっていくものと期待されます。一方で、旭日地区の少子高齢化は進み、平成27（2015）年3月をもって金沢市立朝日小学校が閉校となりました。142年の歴史を刻む記念碑を建立すると共に記念誌を発刊、閉校記念式典も盛大に挙行されました。平成29（2017）年4月からは旧校舎の一部に旭日公民館が移転し地域コミュニティの拠点として利活用されています。

3. 防災対策と避難対策

花園地区は現在10名の防災士と地区自主防災会が、土砂災害と地震対策等を想定し毎年訓練を実施しています。平成26（2014）年には、金沢市民防災避難訓練を実施。図上訓練、住民台帳の作成と安否確認訓練、自衛隊の協力により、ヘリコプターによる旭日地区孤立者救助、給食給水訓練、救急救命訓練等を実施し、多くの住民が参加し防災意識を高めました。また、この機に地区自主防災倉庫を設置し防災資機材を装備しました。平成28（2016）年度からは地区独自の避難所設営マニュアル作成に着手し、福祉施設や地元企業等と避難誘導、一時避難所、救命救助等で協力体制を確立するべく活動を進めていく予定です。

4. 国際交流事業

旧花園村今町に生まれ、台湾南部で烏山頭ダムを完成させた郷土の偉人「八田與一」の顕彰活動を機に、花園と台湾は民間交流を続けています。台南市では道路の一部を「八田路」と命名、花園では旧北國街道の一部（今町から利屋町まで）を「與一の道」と命名（花園小学校児童から愛称を公募）。花園公民館前にモニュメントを設置しました。さらに石川県が主催するジャパンテントでは、留学生のホームステイを受け入れ、同時期に花園サマーフェスティバルを開催、花園プログラムとともに地域をあげて交流を深めています。10年前は5名だった留学生も28（2016）年度は27名を受け入れました。

5. 花園地区の更なる発展に向けて

- ①森本地区各種団体連絡協議会の発足を受けて、花園地区各種団体連絡協議会を平成26（2014）年に発足し、地域の支え合い活動に取り組んでいます。
- ②青年部を平成27（2015）年に発足させ、青

年層の人材の育成、つながり強化を図りながら世代間交流を実施しています。

- ③花園小学校創立140周年記念事業として、平成28（2016）年11月に記念式典の挙行と花園校下住民の賛助金による儀式用幔幕、体育館用大型暖房機2基、記念樹等を寄贈しました。

- ④金沢市第二消防団花園分団消防ポンプ車・人員資機材搬送車更新と入魂式の実施。

〈平成29（2017）年10月1日〉

6. 将来のまちづくり構想

花園地区は金沢市都市計画マスタープランにより、市街化調整区域とされ、農地から宅地への転用が制限されています。また農業振興地域でもあることから住宅の建築、企業の誘致等、将来に向けて活力ある地区を創造するため地域住民をあげて次の取組みを進めていきます。

- ①金沢市都市計画マスタープランの見直し
- ②花園駅の新設
- ③いしかわ農業公園（仮称）の恒久的活用



旧朝日小学校校舎の旭日公民館



金沢市町会連合会加盟50周年記念式典



與一の道のモニュメント



市民防災避難訓練



河北潟に面した田園の広がる おだやかな湖南地区町会連合会

湖南地区町会連合会

会長 小谷 達郎

金沢市町会連合会結成60周年を迎えられますことを、心からお慶び申し上げます。

私達の湖南地区町会連合会は平成27(2015)年5月に、それまでの「湖南連合町会」から「湖南地区町会連合会」に改名致しましたが、現在7町会1,373世帯で構成される、北方を河北潟に面する標高の低い、農業中心のおだやかな地区であります。市街化調整区域で農業振興地帯であり、平成に入ってから、さしたる施設の建設もなく推移してきました。公共施設としてはほとんど昭和時代に出来た金沢競馬場、県農業総合研究センター、県食肉流通センター、市動物愛護管理センター、北部公園、湖南運動公園、柳瀬川つつみ公園、八田ホーム、老健ホーム石川、社会福祉会館別館長寿生きがいセンター、金沢向陽高校、八田駐在所、八田保育所等々があります。

この10年間の事として、湖南公民館の移転改修が上げられます。これは、それまでは、旧八田小学校(廃校)体育館の古い建物にあった公民館を、平成22(2010)年度にJA金沢

市八田支店を森本に移転統合され、その跡地を建物〈平成2(1990)年築〉込みで、当時の連合町会で買い取り、改修して公民館として、金沢市に寄贈しました。この時は、平成20(2008)年よりJAから話があり、各町会で町民の合意(賛同)を頂き、JAと金額の交渉を何度も行い、又、金沢市より補助金を頂き改修して、平成22(2010)年10月に完成致しました。各町会長さん、町民の方々の御協力を頂き、又、JAの御理解、御協力、金沢市の対応、工事会社の協力により、今思えば比較的スムーズに事は運んだと思いますが、お金の面では大変悩んだことを思い出します。これにより、平成23(2011)年3月に連合町会は、金沢市長より感謝状を頂きました。なお、完成落成式は山出保前市長が出席して頂き、感謝状は山野之義現市長に頂きました。

さらにこれには続きがあります。感謝状贈呈時に、町連各町会長と出席したのですが、その式後の懇談の席で、新市長に新公民館視察方々森本地区を視察されたらどうですかと、提案しましたところ、4月に行われた市議会議員選挙の後早々に森本地区を視察に来られ、森本地区5町連の連長が市長とマイクロバスに同乗して廻り、それぞれの地区の課題を説明し、見て頂き、大変有意義な時間を作って頂きました。もちろん湖南公民館は見えて頂きました。

又、平成24(2012)年7月に行った「河北潟周辺排水等機能施設見学」もあります。こ

湖南地区町会連合会

〔創立〕 昭和38(1963)年

〔町会数〕 7町会

〔世帯数〕 1,373世帯

〔組織〕 会長1名、副会長2名、理事3名、会計1名、会計監査2名、防災士10名

〔行事〕 盆おどり(各町会別)、運動会(各町会別)、文化祭(11月)

れは、我々の地区は河北潟に面していて、地面が低く、少しの雨でも浸水しています。その対策で当地区のみでなく周辺の地区（津幡、内灘、かほく）は降雨時には排水ポンプで河北潟に排水しています。その排水機能施設のみならず、河北潟干拓地に水を取り入れる揚水施設と、河北潟が大雨等で水位が上昇した時に海に流す防潮水門（これは潮水が干拓地の作物の栽培に被害を与えないため、通常は閉まっています）の管理施設を見学し、知識を深めるため、各町会の町会長と役員で大型バスに乗り、それぞれの施設を廻り、担当者に説明を受けました。これは「概念では解っていたが、実際に見学してみると、非常に勉強になった」と、参加者から喜ばれました。

さらに、この河北潟には、流れ込む河川からのゴミや、不心得な輩が捨てる不法投棄ゴミ等が多数あります。それを拾うイベントが、毎年、年に1度、民間団体「河北潟自然再生協議会」主催により「河北潟クリーン作戦」として行われています。今年も4月16

日（日）に第23回目のクリーン作戦が行われ（今年は実行委員会が主催）、地元の人のみならず、広く市内全域の方々も参加（約750人）して頂きました。行事が浸透したおかげか、回収するゴミが年々少なくなっている感じはします。集めたゴミは金沢市を始め2市2町（金沢市、かほく市、津幡町、内灘町）の行政で回収処分して頂いており、大変感謝致しております。

尚、八田町には、金沢競馬場があります。少し前までは年々競馬をやる人が少なくなり、赤字が続き、その存続が危惧されていましたが、県や事業局等の努力により、最近は少し回復し、黒字経営となってきました。皆様方も一度来場されてみてはいかがでしょうか。きれいな馬が疾走する様は見ている爽快感になりますヨ。



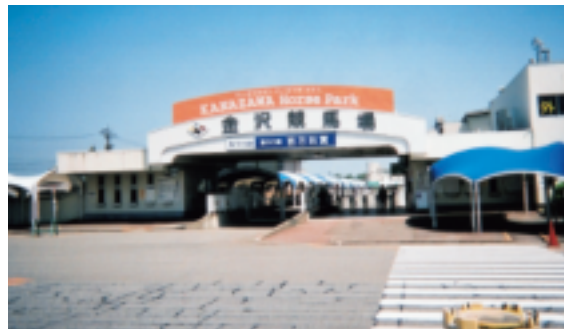
湖南公民館



河北潟クリーン作戦



河北潟



金沢競馬場



金沢市町会連合会加盟

「50周年記念式典&夏まつり」の開催

薬師谷地区町会連合会

会長 荒木 和男

薬師谷地区はJR森本駅から国道304号を東に約2km進んだところに広がる地域であり、面積は約11.7km²、17町会の約2,750人で構成されています。

地区内には北陸自動車道、国道304号、359号、金沢外環状道路山側幹線が通り、交通アクセスが良好です。

町会連合会が中心になって組織した「金沢・北の玄関口をきれいにする会」は夏と秋の2回北陸自動車道金沢・森本インターチェンジ（IC）周辺の、約3万4,000m²の草刈り美化活動を行っており、平成18（2006）年秋からの、その美化活動が認められて、平成25（2013）年に金沢市より「かなざわ景観協力賞」の表彰を受けました。

交通アクセスが良好なことから、エレクトロニクスなどの高度技術産業や都市型産業の拠点として、北陽台の「金沢テクノパーク」で企業誘致が進められ、現在、「日機装」「渋谷工業」「横河電機」をはじめ、6社が操業しております。

平成24（2012）年には、金沢・森本ICや金沢外環状道路山側幹線（山側環状）まで車で1分の河原市町地内に「金沢森本インター工業団地」の用地取得と造成工事が行われ、製造業や物流施設を設置する運輸業、卸売業に進出を働きかけ、平成27（2015）年は「こまつ」「ぶどうの木」の2社が操業を開始しました。その後も誘致は順調に進み、昨年12月に最大の「シブヤパッケージングシステム」をはじめ、現在6社が操業を開始、その後2社と契約、約9割の分譲が終わった事になります。

平成25（2013）年8月10日、猛暑の中、金沢市町会連合会加盟50周年の記念式典並びに夏まつりを開催致しました。不動寺小学校グラウンドを会場に保育園児、小学生、地域の芸達者な有志の皆さんによるアトラクションを楽しみました。

中でも大正分団長自らの「加賀鳶木遣り唄」にあわせての「はしご登り」の妙技や威勢のいい堅田団地町会の「神輿の練り歩き」、堅田町会の「みどり獅子」、河原市町会の「瑞穂獅子」のおそらく初めての共演など、地域の皆様には、ご堪能いただけたと思います。

地域の皆様が一同に一諸になって盛大に滞りなく出来たことがこの上ない喜びであります。先達が守り築いてくれたこの住みよい薬師谷が、若者達が今後「是非帰ってきたい」、「一生住んでいきたい」と思える地域である為には、皆様の知恵とご協力が不可欠であり

薬師谷地区町会連合会

【創 立】 昭和38（1963）年6月

【町会数】 17町会

【世帯数】 743世帯

【組 織】 会長、副会長2名、理事17名、防災士6名

【行 事】 社会体育大会（5月）、盆踊り大会（8月）、文化祭（11月）

ます。

これからも安全・安心な住みよい地域づくりにお力添えをお願いしたいと思います。

平成28（2016）年7月8日、「災害は何時起きるかわからない」と他の地区では実施していない「夜間の防災訓練」として、「夜間避難訓練」「災害弱者救済訓練」「避難所照明テスト」の3点を実施しました。

森本～富樫断層で大規模な地震、莫大な被害発生と言う想定で、午後7時30分、災害対策本部から各町会代表者に避難指示を要請。10分程度で地区拠点避難場所の公民館に随時集合し、本部に避難、被害状況を報告。本部は一覧表に順次書き入れ状況を把握。ある町会は「災害弱者救済訓練」の一環として、簡易担架を作り実際に人を乗せて500mの距離を4人で搬送してきました。非常に重く感じ疲れて大変だったそうです。

次に避難所（体育館）の照明テスト。各町会

から持参の懐中電灯20個程で照らすも人間の生活できる明るさには程遠いものでした。灯光器300W4器使用の照明テストは「OK」でした。

最後はリヤカー及び簡易担架での搬送訓練。まず、作り方の訓練で、5人1組で担架を作り1人が乗り4人で体育館を往復。感想は「きつい」。以上で訓練終了です。

災害は何時起きるか誰にも分かりません。今後も色々な訓練を反復実施し、各々が防災意識を常に持ち「自分たちの地域は自分たちで守る」という共通認識を持ち、災害時に対応出来る様にレベルアップを図って行きたいと思います。

今後は、町会連合会として更に公民館、学校、地域等と連絡を密にし、明るい、活力ある町づくりを目指して交流を深めて行きたいと思います。



金沢市町会連合会加盟50周年記念式典&夏まつり



初めての夜間避難訓練



「金沢・北の玄関口をきれいにする会」の草刈りボランティア風景（金沢森本インターチェンジ）



金沢森本インター工業団地好評分譲



自然と共に変わらぬ三谷の絆

三谷地区町会連合会

会長 山本 建夫

金沢市の北東に位置する三谷地区は、23町会436戸から成り立つ中山間の地域です。山は青く水清き自然と他人への思いやりにあふれた人情豊かな郷です。

この地区は、富山県小矢部市から砺波市への国道359号線、また南砺市から城端・井波へと国道304号線で接続しています。昔から加賀と越中の街道往来の要の地であり、現在も交通量の多い国道です。このため幹線道路の整備・改修は、地域発展や活性化を願う住民総意となっています。

近年、狭くて危険な住宅地内を避けて梨木町と宮野町間の梨木・鳴瀬バイパスの完成、竹又町と清水谷町間の山間の高低差解消の改良工事の完成により、地域の幹線道路が安全快適な道路となりました。今後は、清水谷町と古屋谷町間のバイパス道路の早期着工を目指し、地元民一丸となり協力体制作りに邁進したいと考えております。

この地区内では、住宅が広範囲に点在しているため町会をつなぐ県道や市道・生活道の



国道304号・清水谷～竹又町

整備も必要です。災害時等における緊急避難や救助連絡路確保のためにも早急に取り組まなくてはならない喫緊の課題です。

さらに、少子高齢化も一段と厳しい現状にあり、町会単位の諸活動や地域コミュニティに多くの支障が生じており、各町会や集落毎に現状打破に向けて、各種の取り組みを検討模索してます。

東原町では、NPOや学生と共に秋の「東原フェスター」、直江谷地区では牧山ガラス工房とコラボして「どんぐりとガラスの里祭り」を開催しております。小池町では、社会福祉法人「希望が丘」入居者と協力しての農業体験や野菜生産販売など地域イベントで「地域



どんぐりとガラスの里まつり

三谷地区町会連合会

- 【創 立】 昭和37（1962）年10月
- 【町会数】 23町会
- 【世帯数】 436世帯
- 【組 織】 会長1名、副会長3名、会計1名、理事2名、監事2名、事務局1名、防災士5名
- 【行 事】 各種団体新年顔合せ会、防災訓練、防犯巡回、不法投棄巡回

おこし」が芽生えてきてると感じています。

松根町は元気な高齢者での「青空朝市」、東原町の「三〇四水芭蕉会」、直江谷地区の「ごんでん朝市」と、地元で生産された野菜の即売活動も冬期間を除いて毎週続けられており、近郷近在の人々はもちろん、富山の方々にも来ていただいて喜ばれており、関係者の元気の源となっています。

三谷地区は、地域の歴史遺産や生活様式の変遷、伝承や民俗・風習・民話等も数多く残る地域です。これら地区の伝統文化を後世に守り伝えなくてはならないと痛感しております。

昨年、松根城址跡と切山城址を結ぶ小原道が「加越國境城跡群」として国の文化財指定を受けました。これを地域の宝として守り、戦国時代の夢とロマンに思いを馳せ、歴史文化の発掘をして地域の財産にしたいと考えています。

江戸時代からこの地区は「三谷法華」と言われ信仰の盛んなところで、今でも日蓮宗では、車宝乗寺、高坂顕遠寺、清水谷直乗寺、直江野妙照寺の四ヶ寺があり、今日の住民相互の助け合いや思いやりの根源となっていると思います。

一方、真宗の信仰も厚く蓮如上人や教如上人の教えが「六字名号」や御文として地域の家々に数多く残っています。先人や祖先の功績や思いに感謝し先祖崇敬の精神を大切に守ってきたことが、親子や親戚縁者の絆の強

い土地柄の背景であると思います。

これまで大きな災害もなかった当地区は、さらに自然豊かな町づくりの大きな輪を広げながら、共に住んで良かったと住民皆が感じられ、明るい笑顔と大きな笑い声の絶えない中山間の町づくりを目指したいと思います。

ここ数年来、地区では獣害による大きな農作物被害を受けています。電気柵等の各種対策も効果は十分ではありません。イノシシの駆除する事により、地元猟友会のメンバーが中心となり、解体技術を習得して猪肉加工設備「ジビエ三谷」を昨年開設しました。これからは解体処理した肉の販売にも力を注ぎ、ジビエ料理を研究して地元の珍品食品として地域おこしの一つにしたいと考えています。

平成29(2017)年度末、悲願であった旧三谷小学校跡地の整備事業が完成します。「木の駅」や「市民農園」「木工工房」(仮称)など自然の恵みを基本に考えた施設となり、地区の皆さんをはじめ地区外からも多数集まる広場となるように関係者共々協力して発足する予定です。

「少子高齢化」の大きな課題に向かい、小さい歩みではありますが、地域の自然の恵みを活かしつつ、温かな人の心の和を大切に持ち続け「住みよい三谷の郷」を目指して邁進する三谷町会連合会です。



国道304号・宮野町～鳴瀬元町～梨木町



東原ふれあいフェア



国史跡「加越國境城跡群」看板

第2章

三役・各校下(地区)町会連合会会長名簿 (平成20～29年度)

- 金沢市町会連合会三役
- 各校下(地区)町会連合会会長

平成20年度

金沢市町会連合会三役

役 職	校下・地区	氏 名
会 長	米 丸	平田 博
副会長	小 坂	駒崎 稔
副会長	新竪町	中本 次雄
副会長	粟 崎	東 茂
副会長	薬師谷	奥田 秀治
会 計	西	篠田 時治

各校下・地区連合会会長

第1ブロック	11	野 町	宮本 治雄
	12	弥 生	中井 伸二
	13	中村町	大川 兼紀
	14	十一屋	五十嵐 浩
	15	泉 野	織田 秀寅
	16	長坂台	宮本 光章
	17	新竪町	中本 次雄
	18	菊 川	小中 忠男
第2ブロック	21	材木町	気谷 博次
	22	味噌蔵町	隅谷 六良
	23	長 町	東川 庄吉
	24	松ヶ枝	河合 達男
	25	長土堀	西村 信彦
	26	芳 斎	大西 隆
	27	此 花	酒井 博
	28	瓢 箪	今井 義明
第3ブロック	31	馬 場	西川 利信
	32	浅野町	東 良勝
	33	森 山	上田 忠信
	34	小 坂	駒崎 稔
	35	千 坂	西田 稔
	36	夕日寺	永井 久夫
第4ブロック	41	諸 江	安上 賢二
	42	浅野川	護摩堂 一夫
	43	鞍 月	西野 茂
	44	粟 崎	東 茂
	45	川 北	山口 公雄
	46	大 浦	元木 光明
第5ブロック	51	米 丸	平田 博
	52	新神田	西村 義雄
	53	押 野	柏木 信二
	54	西南部	川畑 義昭
	55	三 和	桶谷 隆雄

第6ブロック	61	三 馬	吉村 實
	62	米 泉	長田 喜義
	63	富 樫	奥村 薫
	64	伏見台	坂本 和紀
	65	額	小林 一次
	66	四十万	水上 實
	67	扇 台	和田 早苗
第7ブロック	71	長田町	松村 理治
	72	戸 板	宮川 博
	73	西	篠田 時治
	74	二 塚	吉藤 哲夫
	75	安 原	中川 伊佐夫
	76	大 徳	高畠 菊丸
	77	金石町	嶋谷 潤一郎
	78	大野町	栗森 長八
第8ブロック	81	小立野	西明 修一
	82	崎 浦	野脇 格
	83	内 川	山本 壽嗣
	84	犀 川	作田 省一
	85	湯 涌	山本 正直
	86	田 上	板谷 睦卓
	87	東浅川	細野 忠男
	88	俵	山本 鎮夫
	89	医王山	折池 晃
第9ブロック	91	森 本	塚本 外志男
	92	花 園	森川 昌平
	93	湖 南	中村 明
	94	薬師谷	奥田 秀治
	95	三 谷	山本 建夫

平成21年度

金沢市町会連合会三役

役 職	校下・地区	氏 名
会 長	米 丸	平田 博
副会長	小 坂	駒崎 稔
副会長	新竪町	中本 次雄
副会長	粟 崎	東 茂
副会長	薬師谷	奥田 秀治
会 計	西	篠田 時治

各校下・地区連合会会長

第1ブロック	11	野 町	宮本 治雄
	12	弥 生	中井 伸二
	13	中村町	大川 兼紀
	14	十一屋	五十嵐 浩
	15	泉 野	織田 秀寅
	16	長坂台	宮本 光章
	17	新竪町	中本 次雄
	18	菊 川	山二 光三
第2ブロック	21	材木町	油谷 徳次
	22	味噌蔵町	清水 泰朗
	23	長 町	東川 庄吉
	24	松ヶ枝	河合 達男
	25	長土堀	西村 信彦
	26	芳 斎	安居 知世
	27	此 花	酒井 博
	28	瓢 箪	今井 義明
第3ブロック	31	馬 場	西川 利信
	32	浅野町	東 良勝
	33	森 山	上田 忠信
	34	小 坂	駒崎 稔
	35	千 坂	西田 稔
	36	夕日寺	永井 久夫
第4ブロック	41	諸 江	安上 賢二
	42	浅野川	護摩堂 一夫
	43	鞍 月	西野 茂
	44	粟 崎	東 茂
	45	川 北	松本 剛
	46	大 浦	元木 光明
第5ブロック	51	米 丸	平田 博
	52	新神田	西村 義雄
	53	押 野	柏木 信二
	54	西南部	川畑 義昭
	55	三 和	桶谷 隆雄

第6ブロック	61	三 馬	吉村 實
	62	米 泉	長田 喜義
	63	富 樫	奥村 薫
	64	伏見台	坂本 和紀
	65	額	小林 一次
	66	四十万	小谷内 政雄
	67	扇 台	和田 早苗
第7ブロック	71	長田町	松村 理治
	72	戸 板	宮川 博
	73	西	篠田 時治
	74	二 塚	堀内 政徳
	75	安 原	中川 伊佐夫
	76	大 徳	高畠 菊丸
	77	金石町	嶋谷 潤一郎
	78	大野町	栗森 長八
第8ブロック	81	小立野	西明 修一
	82	崎 浦	野脇 格
	83	内 川	山本 壽嗣
	84	犀 川	作田 省一
	85	湯 涌	山本 正直
	86	田 上	板谷 睦卓
	87	東浅川	細野 忠男
	88	俵	山本 鎮夫
	89	医王山	折池 晃
第9ブロック	91	森 本	塚本 外志男
	92	花 園	森川 昌平
	93	湖 南	小谷 達郎
	94	薬師谷	奥田 秀治
	95	三 谷	山本 建夫

平成22年度

金沢市町会連合会三役

役 職	校下・地区	氏 名
会 長	米 丸	平田 博
副会長	栗 崎	東 茂
副会長	大野町	栗森 長八
副会長	小立野	西明 修一
副会長	浅野町	東 良勝
会 計	此 花	酒井 博

各校下・地区連合会会長

第1ブロック	11	野 町	宮本 治雄
	12	弥 生	中井 伸二
	13	中村町	大川 兼紀
	14	十一屋	五十嵐 浩
	15	泉 野	織田 秀寅
	16	長坂台	宮本 光章
	17	新竪町	中本 次雄
	18	菊 川	山二 光三
第2ブロック	21	材 木	油谷 徳次
	22	味噌蔵町	清水 泰朗
	23	長 町	東川 庄吉
	24	松ヶ枝	河合 達男
	25	長土堀	西村 信彦
	26	芳 斎	安居 知世
	27	此 花	酒井 博
	28	瓢 箪	今井 義明
第3ブロック	31	馬 場	西川 利信
	32	浅野町	東 良勝
	33	森 山	上田 忠信
	34	小 坂	駒崎 稔
	35	千 坂	西田 稔
	36	夕日寺	永井 久夫
第4ブロック	41	諸 江	安上 賢二
	42	浅野川	護摩堂 一夫
	43	鞍 月	西野 茂
	44	栗 崎	東 茂
	45	川 北	松本 剛
	46	大 浦	元木 光明
第5ブロック	51	米 丸	平田 博
	52	新神田	西村 義雄
	53	押 野	柏木 信二
	54	西南部	川畑 義昭
	55	三 和	桶谷 隆雄

第6ブロック	61	三 馬	平野 博
	62	米 泉	長田 喜義
	63	富 樫	奥村 薫
	64	伏見台	坂本 和紀
	65	額	小林 一次
	66	四十万	小谷内 政雄
	67	扇 台	和田 早苗
第7ブロック	71	長田町	松村 理治
	72	戸 板	宮川 博
	73	西	篠田 時治
	74	二 塚	堀内 政徳
	75	安 原	西川 昇
	76	大 徳	高畠 菊丸
	77	金石町	嶋谷 潤一郎
	78	大野町	栗森 長八
第8ブロック	81	小立野	西明 修一
	82	崎 浦	野脇 格
	83	内 川	山本 壽嗣
	84	犀 川	井村 秀雄
	85	湯 涌	山本 正直
	86	田 上	板谷 睦卓
	87	東浅川	細野 忠男
	88	俵	山本 鎮夫
	89	医王山	折池 晃
第9ブロック	91	森 本	塚本 外志男
	92	花 園	森川 昌平
	93	湖 南	小谷 達郎
	94	薬師谷	奥田 秀治
	95	三 谷	山本 建夫

平成23年度

金沢市町会連合会三役

役 職	校下・地区	氏 名
会 長	米 丸	平田 博
副会長	栗 崎	東 茂
副会長	大野町	栗森 長八
副会長	小立野	西明 修一
副会長	浅野町	東 良勝
会 計	此 花	酒井 博

各校下・地区連合会会長

第1ブロック	11	野 町	杉岡 利正
	12	弥 生	中井 伸二 →相川 久嗣
	13	中村町	大川 兼紀
	14	十一屋	古瀬 紀一
	15	泉 野	笠置 研一
	16	長坂台	宮本 光章
	17	新竪町	中本 次雄
	18	菊 川	山二 光三
第2ブロック	21	材 木	油谷 徳次
	22	味噌蔵町	清水 泰朗
	23	長 町	牧 進
	24	松ヶ枝	河合 達男
	25	長土塀	西村 信彦
	26	芳 斎	安居 知世
	27	此 花	酒井 博
	28	瓢 箪	中崎 龍雄
第3ブロック	31	馬 場	西川 利信
	32	浅野町	東 良勝
	33	森 山	上田 忠信
	34	小 坂	駒崎 稔
	35	千 坂	西田 稔
	36	夕日寺	永井 久夫
第4ブロック	41	諸 江	安上 賢二
	42	浅野川	護摩堂 一夫
	43	鞍 月	西野 茂
	44	栗 崎	東 茂
	45	川 北	松本 剛
	46	大 浦	元木 光明
第5ブロック	51	米 丸	平田 博
	52	新神田	西村 義雄
	53	押 野	柏木 信二
	54	西南部	川畑 義昭
	55	三 和	桶谷 隆雄

第6ブロック	61	三 馬	平野 博
	62	米 泉	長田 喜義
	63	富 樫	奥村 薫
	64	伏見台	坂本 和紀
	65	額	小林 一次
	66	四十万	小谷内 政雄
	67	扇 台	和田 早苗
第7ブロック	71	長田町	松村 理治
	72	戸 板	宮川 博
	73	西	
	74	二 塚	堀内 政徳
	75	安 原	西川 昇
	76	大 徳	高畠 菊丸
	77	金石町	嶋谷 潤一郎
	78	大野町	栗森 長八
第8ブロック	81	小立野	西明 修一
	82	崎 浦	野脇 格
	83	内 川	山本 壽嗣
	84	犀 川	井村 秀雄
	85	湯 涌	山本 正直
	86	田 上	板谷 睦卓
	87	東浅川	細野 忠男
第9ブロック	88	俵	岡嶋 平吉
	89	医王山	折池 晃
	91	森 本	塚本 外志男
	92	花 園	森川 昌平
	93	湖 南	小谷 達郎
	94	薬師谷	奥田 秀治
	95	三 谷	山本 建夫

平成24年度

金沢市町会連合会三役

役 職	校下・地区	氏 名
会 長	浅野町	東 良勝
副会長	鞍 月	西野 茂
副会長	富 樫	奥村 薫
副会長	三 谷	山本 建夫
副会長	田 上	板谷 睦卓
会 計	新神田	西村 義雄

←
改選
(異動)

役 職	校下・地区	氏 名
会 長	米 丸	平田 博 (H24.12.1 逝去)
副会長	浅野町	東 良勝
副会長	鞍 月	西野 茂
副会長	富 樫	奥村 薫
副会長	三 谷	山本 建夫
会 計	田 上	板谷 睦卓

各校下・地区連合会会長

第1ブロック	11	野 町	杉岡 利正
	12	弥 生	相川 久嗣
	13	中村町	大川 兼紀
	14	十一屋	古瀬 紀一
	15	泉 野	笠置 研一
	16	長坂台	宮本 光章
	17	新竪町	宮口 優
	18	菊 川	山二 光三
第2ブロック	21	材 木	油谷 徳次
	22	味噌蔵町	清水 泰朗
	23	長 町	牧 進
	24	松ヶ枝	笹井 錬造
	25	長土堀	西村 信彦
	26	芳 斎	安居 知世
	27	此 花	山本 信一
	28	瓢 箪	中崎 龍雄
第3ブロック	31	馬 場	西川 利信
	32	浅野町	東 良勝
	33	森 山	谷村 憲治
	34	小 坂	松本 明
	35	千 坂	西田 稔
	36	夕日寺	藤田 幸男
第4ブロック	41	諸 江	澤飯 英樹
	42	浅野川	護摩堂 一夫
	43	鞍 月	西野 茂
	44	栗 崎	東 茂
	45	川 北	松本 剛
	46	大 浦	元木 光明
第5ブロック	51	米 丸	平田 博
	52	新神田	西村 義雄
	53	押 野	柏木 信二
	54	西南部	川畑 義昭
	55	三 和	桶谷 隆雄

第6ブロック	61	三 馬	平野 博
	62	米 泉	長田 喜義
	63	富 樫	奥村 薫
	64	伏見台	坂本 和紀
	65	額	小林 一次
	66	四十万	小谷内 政雄
	67	扇 台	和田 早苗
第7ブロック	71	長田町	松村 理治
	72	戸 板	宮川 博
	73	西	永田 俊昭
	74	二 塚	堀内 政徳
	75	安 原	西川 昇
	76	大 徳	高畠 菊丸
	77	金石町	嶋谷 潤一郎
	78	大野町	栗森 長八
第8ブロック	81	小立野	長山 忠敬
	82	崎 浦	野脇 格
	83	内 川	山本 壽嗣
	84	犀 川	井村 秀雄
	85	湯 涌	山本 正直
	86	田 上	板谷 睦卓
	87	東浅川	石野 良雄
	88	俵	岡嶋 平吉
	89	医王山	寺井 孝好
第9ブロック	91	森 本	森川 文博
	92	花 園	森川 昌平
	93	湖 南	小谷 達郎
	94	薬師谷	奥田 秀治
	95	三 谷	山本 建夫

平成25年度

金沢市町会連合会三役

役 職	校下・地区	氏 名
会 長	浅野町	東 良勝
副会長	鞍 月	西野 茂
副会長	富 樫	奥村 薫
副会長	三 谷	山本 建夫
副会長	田 上	板谷 睦卓
会 計	新神田	西村 義雄

各校下・地区連合会会長

第1ブロック	11	野 町	杉岡 利正
	12	弥 生	相川 久嗣
	13	中村町	大川 兼紀
	14	十一屋	古瀬 紀一
	15	泉 野	笠置 研一
	16	長坂台	宮本 光章
	17	新竪町	宮口 優
	18	菊 川	山二 光三
第2ブロック	21	材 木	井奈 孝史
	22	味噌蔵町	清水 泰朗
	23	長 町	牧 進
	24	松ヶ枝	笹井 錬造
	25	長土堀	西村 信彦
	26	芳 斎	安居 知世
	27	此 花	山本 信一
	28	瓢 箪	中崎 龍雄
第3ブロック	31	馬 場	清水 満
	32	浅野町	東 良勝
	33	森 山	谷村 憲治
	34	小 坂	松本 明
	35	千 坂	西田 稔
	36	夕日寺	藤田 幸男
第4ブロック	41	諸 江	澤飯 英樹
	42	浅野川	護摩堂 一夫
	43	鞍 月	西野 茂
	44	栗 崎	東 茂
	45	川 北	松本 剛
	46	大 浦	元木 光明
第5ブロック	51	米 丸	中本 保
	52	新神田	西村 義雄
	53	押 野	柏木 信二
	54	西南部	川畑 義昭
	55	三 和	桶谷 隆雄

第6ブロック	61	三 馬	平野 博
	62	米 泉	長田 喜義
	63	富 樫	奥村 薫
	64	伏見台	坂本 和紀
	65	額	小林 一次
	66	四十万	小谷内 政雄
	67	扇 台	和田 早苗
第7ブロック	71	長田町	松村 理治
	72	戸 板	宮川 博
	73	西	永田 俊昭
	74	二 塚	堀内 政徳
	75	安 原	西川 昇
	76	大 徳	高畠 菊丸
	77	金石町	嶋谷 潤一郎
	78	大野町	栗森 長八
第8ブロック	81	小立野	長山 忠敬
	82	崎 浦	野脇 格
	83	内 川	山本 壽嗣
	84	犀 川	井村 秀雄
	85	湯 涌	山本 正直
	86	田 上	板谷 睦卓
	87	東浅川	石野 良雄
	88	俵	岡嶋 平吉
	89	医王山	寺井 孝好
第9ブロック	91	森 本	森川 文博
	92	花 園	森川 昌平
	93	湖 南	小谷 達郎
	94	薬師谷	奥田 秀治
	95	三 谷	山本 建夫

平成26年度

金沢市町会連合会三役

役 職	校下・地区	氏 名
会 長	浅野町	東 良勝
副会長	鞍 月	西野 茂
副会長	富 樫	奥村 薫
副会長	三 谷	山本 建夫
副会長	田 上	板谷 睦卓
会 計	長土堀	西村 信彦

各校下・地区連合会会長

第1ブロック	11	野 町	杉岡 利正
	12	弥 生	相川 久嗣
	13	中村町	大川 兼紀
	14	十一屋	古瀬 紀一
	15	泉 野	笠置 研一
	16	長坂台	宮本 光章
	17	新竪町	宮口 優
	18	菊 川	高畠 格
第2ブロック	21	材 木	井奈 孝史
	22	味噌蔵町	清水 泰朗
	23	長 町	牧 進
	24	松ヶ枝	笹井 錬造
	25	長土堀	西村 信彦
	26	芳 斎	安居 知世
	27	此 花	山本 信一
	28	瓢 箪	中崎 龍雄
第3ブロック	31	馬 場	清水 満
	32	浅野町	東 良勝
	33	森 山	谷村 憲治
	34	小 坂	松本 明
	35	千 坂	西田 稔
	36	夕日寺	中川 一成
第4ブロック	41	諸 江	澤飯 英樹
	42	浅野川	山田 博秋
	43	鞍 月	西野 茂
	44	栗 崎	西澤 寛一
	45	川 北	山岸 善久
	46	大 浦	元木 光明
第5ブロック	51	米 丸	中本 保
	52	新神田	西村 義雄
	53	押 野	柏木 信二
	54	西南部	中川 俊一
	55	三 和	桶谷 隆雄

第6ブロック	61	三 馬	平野 博
	62	米 泉	山田 八郎
	63	富 樫	奥村 薫
	64	伏見台	坂本 和紀
	65	額	小林 一次
	66	四十万	小谷内 政雄
	67	扇 台	和田 早苗
第7ブロック	71	長田町	松村 理治
	72	戸 板	宮川 博
	73	西	林 守
	74	二 塚	堀内 政徳
	75	安 原	西川 昇
	76	大 徳	高畠 菊丸
	77	金石町	嶋谷 潤一郎
	78	大野町	栗森 長八
第8ブロック	81	小立野	堀 政良 →高野 健三
	82	崎 浦	野脇 格
	83	内 川	小山 秀昭
	84	犀 川	山森 建一
	85	湯 涌	山本 正直
	86	田 上	板谷 睦卓
	87	東浅川	石野 良雄
	88	俵	岡嶋 平吉
第9ブロック	89	医王山	寺井 孝好
	91	森 本	森川 文博
	92	花 園	中村 登
	93	湖 南	小谷 達郎
	94	薬師谷	奥田 秀治
	95	三 谷	山本 建夫

平成27年度

金沢市町会連合会三役

役 職	校下・地区	氏 名
会 長	浅野町	東 良勝
副会長	鞍 月	西野 茂
副会長	富 樫	奥村 薫
副会長	三 谷	山本 建夫
副会長	田 上	板谷 睦卓
会 計	長土堀	西村 信彦

各校下・地区連合会会長

第1ブロック	11	野 町	杉岡 利正
	12	弥 生	相川 久嗣
	13	中村町	大川 兼紀
	14	十一屋	古瀬 紀一
	15	泉 野	笠置 研一
	16	長坂台	宮本 光章
	17	新竪町	宮口 優
	18	菊 川	高畠 格
第2ブロック	21	材 木	井奈 孝史
	22	味噌蔵町	清水 泰朗
	23	長 町	久保田 保
	24	松ヶ枝	笹井 錬造
	25	長土堀	西村 信彦
	26	芳 斎	安居 知世
	27	此 花	山本 信一
	28	瓢 箪	中崎 龍雄
第3ブロック	31	馬 場	清水 満
	32	浅野町	東 良勝
	33	森 山	谷村 憲治
	34	小 坂	松本 明
	35	千 坂	西田 稔
	36	夕日寺	中川 一成
第4ブロック	41	諸 江	澤飯 英樹
	42	浅野川	山田 博秋
	43	鞍 月	西野 茂
	44	栗 崎	西澤 寛一
	45	川 北	山岸 善久
	46	大 浦	元木 光明
第5ブロック	51	米 丸	中本 保
	52	新神田	西村 義雄
	53	押 野	柏木 信二
	54	西南部	中川 俊一
	55	三 和	桶谷 隆雄

第6ブロック	61	三 馬	喜多 利明 →若松 恵美子
	62	米 泉	山田 八郎
	63	富 樫	奥村 薫
	64	伏見台	坂本 和紀
	65	額	小林 一次
	66	四十万	小谷内 政雄
	67	扇 台	和田 早苗
第7ブロック	71	長田町	松村 理治
	72	戸 板	宮川 博
	73	西	林 守
	74	二 塚	堀内 政徳
	75	安 原	西川 昇
	76	大 徳	高畠 菊丸
	77	金石町	嶋谷 潤一郎
	78	大野町	栗森 長八
第8ブロック	81	小立野	高野 健三
	82	崎 浦	野脇 格
	83	内 川	小山 秀昭
	84	犀 川	山森 建一
	85	湯 涌	山本 正直
	86	田 上	板谷 睦卓
	87	東浅川	石野 良雄
	88	俵	岡嶋 平吉
第9ブロック	89	医王山	寺井 孝好
	91	森 本	森川 文博
	92	花 園	中村 登
	93	湖 南	小谷 達郎
	94	薬師谷	奥田 秀治
	95	三 谷	山本 建夫

平成28年度

金沢市町会連合会三役

役 職	校下・地区	氏 名
会 長	鞍 月	西野 茂
副会長	長土堀	西村 信彦
副会長	米 丸	中本 保
副会長	崎 浦	野脇 格
副会長	伏見台	坂本 和紀
会 計	森 本	森川 文博

←
改選
(異動)

役 職	校下・地区	氏 名
会 長	鞍 月	西野 茂
副会長	富 樫	奥村 薫 (H28. 7.10逝去)
副会長	長土堀	西村 信彦
副会長	米 丸	中本 保
副会長	崎 浦	野脇 格
会 計	森 本	森川 文博

各校下・地区連合会会長

第1ブロック	11	野 町	杉岡 利正
	12	弥 生	相川 久嗣
	13	中村町	大川 兼紀
	14	十一屋	古瀬 紀一
	15	泉 野	笠置 研一
	16	長坂台	宮本 光章
	17	新竪町	宮口 優
	18	菊 川	高畠 格
第2ブロック	21	材 木	井奈 孝史
	22	味噌蔵	外山 郁生
	23	長 町	久保田 保
	24	松ヶ枝	笹井 錬造
	25	長土堀	西村 信彦
	26	芳 斎	安居 知世
	27	此 花	山本 信一
	28	瓢 箪	中崎 龍雄
第3ブロック	31	馬 場	清水 満
	32	浅野町	東 良勝
	33	森 山	谷村 憲治
	34	小 坂	松本 明
	35	千 坂	西田 稔
	36	夕日寺	中川 一成
第4ブロック	41	諸 江	楠 景二
	42	浅野川	山田 博秋
	43	鞍 月	西野 茂
	44	栗 崎	西澤 寛一
	45	川 北	山岸 善久
	46	大 浦	寺山 禎
第5ブロック	51	米 丸	中本 保
	52	新神田	西村 義雄
	53	押 野	柏木 信二
	54	西南部	中川 俊一
	55	三 和	桶谷 隆雄

第6ブロック	61	三 馬	若松 恵美子
	62	米 泉	山田 八郎
	63	富 樫	奥村 薫 →渡辺 茂樹
	64	伏見台	坂本 和紀
	65	額	小林 一次
	66	四十万	北野 俊一
	67	扇 台	和田 早苗
第7ブロック	71	長田町	松村 理治
	72	戸 板	吉田 和夫
	73	西	茅野 勇平
	74	二 塚	赤丸 義和
	75	安 原	西川 昇
	76	大 徳	高畠 菊丸
	77	金石町	鶴山 庄市
	78	大野町	栗森 長八
第8ブロック	81	小立野	高野 健三
	82	崎 浦	野脇 格
	83	内 川	小山 秀昭
	84	犀 川	井口 栄市
	85	湯 涌	山本 正直
	86	田 上	板谷 睦卓
	87	東浅川	石野 良雄
	88	俵	岡嶋 平吉
第9ブロック	89	医王山	寺井 孝好
	91	森 本	森川 文博
	92	花 園	中村 登
	93	湖 南	小谷 達郎
	94	薬師谷	奥田 秀治 →荒木 和男
	95	三 谷	山本 建夫

平成29年度

金沢市町会連合会三役

役 職	校下・地区	氏 名
会 長	鞍 月	西野 茂
副会長	長土堀	西村 信彦
副会長	米 丸	中本 保
副会長	崎 浦	野脇 格
副会長	伏見台	坂本 和紀
会 計	森 本	森川 文博

各校下・地区連合会会長

第1ブロック	11	野 町	杉岡 利正
	12	弥 生	大橋 信喜美
	13	中村町	大川 兼紀
	14	十一屋	古瀬 紀一
	15	泉 野	笠置 研一
	16	長坂台	宮本 光章
	17	新竪町	宮口 優
	18	菊 川	高畠 格
第2ブロック	21	材 木	井奈 孝史
	22	味噌蔵	外山 郁生
	23	長 町	久保田 保
	24	松ヶ枝	笹井 錬造
	25	長土堀	西村 信彦
	26	芳 斎	安居 知世
	27	此 花	山本 信一
	28	瓢 箪	中崎 龍雄
第3ブロック	31	馬 場	清水 満
	32	浅野町	畠 善昭
	33	森 山	谷村 憲治
	34	小 坂	松本 明
	35	千 坂	西田 稔
	36	夕日寺	中川 一成
第4ブロック	41	諸 江	楠 景二
	42	浅野川	山田 博秋
	43	鞍 月	西野 茂
	44	栗 崎	西澤 寛一
	45	川 北	山岸 善久
	46	大 浦	寺山 禎
第5ブロック	51	米 丸	中本 保
	52	新神田	西村 義雄
	53	押 野	柏木 信二
	54	西南部	中川 俊一
	55	三 和	桶谷 隆雄

第6ブロック	61	三 馬	若松 恵美子
	62	米 泉	山田 八郎
	63	富 樫	渡辺 茂樹
	64	伏見台	坂本 和紀
	65	額	小林 一次
	66	四十万	北野 俊一
	67	扇 台	和田 早苗
第7ブロック	71	長田町	松村 理治
	72	戸 板	吉田 和夫
	73	西	茅野 勇平
	74	二 塚	赤丸 義和
	75	安 原	西川 昇
	76	大 徳	高畠 菊丸
	77	金石町	鶴山 庄市
	78	大野町	栗森 長八
第8ブロック	81	小立野	高野 健三
	82	崎 浦	野脇 格
	83	内 川	小山 秀昭
	84	犀 川	井口 栄市
	85	湯 涌	山本 正直
	86	田 上	上田 幸男
	87	東浅川	石野 良雄
	88	俵	岡嶋 平吉
	89	医王山	寺井 孝好
第9ブロック	91	森 本	森川 文博
	92	花 園	中村 登
	93	湖 南	小谷 達郎
	94	薬師谷	荒木 和男
	95	三 谷	山本 建夫

第3章

表彰・感謝状受賞者名簿 (平成20～29年度)

平成20年度

市長功労表彰

氏 名	校下名
西 田 太喜雄	材木町
中 村 利 夫	味噌蔵町
藤 田 泰 男	芳 斎
入 山 博	馬 場
東 良 勝	浅野町
吉 村 實	三 馬
黒 田 勉	三 馬
新 谷 鎮 夫	米 泉
江 川 純 雄	小立野
西 都喜夫	犀 川
山 口 信 行	医王山

市 長 表 彰

氏 名	校下名
平 村 修	十一屋
若 村 莊 一	味噌蔵町
西 海 規久夫	味噌蔵町
石 野 隆 義	長 町
高 桑 健 治	松ヶ枝
藤 森 宏	此 花
高 崎 寛	此 花
坂 本 義 則	森 山
横 倉 章	森 山
街 道 利 之	森 山
小 高 徳 正	犀 川
酒 井 寛 人	田 上
大 倉 松 治	花 園

市 長 感 謝 状

氏 名	校下名
外 村 隆	浅野川
齊 藤 博	医王山
宮 崎 昭 洋	十一屋
疋 田 晴 康	新豎町
福 本 信 二	新豎町
酒 井 傳 平	材木町
二 見 恵 裕	松ヶ枝
中 川 博 弘	此 花
多 河 俊 成	馬 場
上 川 清 光	馬 場
松 林 正 樹	森 山
高 山 哲 夫	米 丸
中 村 茂	新神田
中 村 進	押 野
越 野 政 雄	三 馬
中 川 武	伏見台
小谷内 政 雄	四十万
宮 川 博	戸 板
沖 田 照 男	大 徳
新 田 利 明	金石町
奥 村 尚 史	大野町
大野木 徳 喜	犀 川
新 谷 健 二	犀 川
北 川 敬 信	花 園
丸 山 貞 信	花 園
奥 田 秀 治	薬師谷
丸 山 喜久雄	薬師谷
中 山 昭 清	薬師谷
野 村 修 三	薬師谷

会 長 表 彰

氏 名	校下名
白 尾 秀 人	松ヶ枝
中 崎 龍 雄	瓢 箪
前 坂 雅 男	浅野川
副 田 繁 夫	味噌蔵町
松 田 幸 枝	長 町
小 篠 勉	長土堀
大 江 等	長土堀
伊 崎 八 郎	瓢 箪
井 波 淳 市	瓢 箪
馬 医 恭 彦	瓢 箪
伊 藤 茂	森 山
村 上 清 造	小 坂
柏 木 信 二	押 野
東 出 信 行	富 樫
板 谷 睦 卓	田 上
古 川 邦 雄	薬師谷
高 瀬 守	薬師谷
笠 井 達 也	野 町
中 谷 正	野 町
野 村 進	野 町
種 田 小夜子	味噌蔵町
笠 松 義 一	味噌蔵町
北 山 外 史	長土堀
下 村 繁 夫	芳 斎
西 村 保	芳 斎
熊 橋 三左子	瓢 箪
北 谷 昇	瓢 箪
金 尾 忠 敏	瓢 箪
木 下 昭 信	浅野町
石 田 鉄 雄	浅野町
藤 田 誠 一	浅野町
福 島 豊	浅野町

中濱 征太郎	浅野町
小杉 征一	浅野町
遠藤 健司	浅野町
不破 直行	浅野町
林 春雄	諸江
高田 豊	諸江
植村 一郎	伏見台
北 惠子	戸板
藤井 武敏	小立野
松井 泰雄	田上
古村 吉照	花園
北川 正治	花園
黒川 浄	花園
村上 俊郎	花園
奥森 晃	薬師谷
新木 繁雄	薬師谷

会長感謝状

氏名	校下名
折橋 正一	新堅町
袋 伸一	芳齋
越坂 清秋	馬場
栗田 政治	馬場
河内 捨吉	森山
山下 忠男	新神田
寺西 志郎	西南部
青山 実	犀川
山根 栄進	田上
井上 哲夫	田上
前田 有慶	花園
高嶋 久男	花園
浅野 定男	花園
西川 久男	薬師谷
宮田 仁志	野町
山室 邦俊	材木町

任田 恵三	材木町
桑本 靖子	味噌蔵町
茶谷 實	長土堀
竹谷 昭夫	馬場
浅田 悦夫	浅野町
二塚 謙次	戸板
山下 健三	大徳
横山 敏彦	小立野
中川 善信	田上
伊徳 多四郎	森本
北村 繁雄	薬師谷
西高 喜美栄	長町
本 貢	諸江
東川 外志子	米泉
細川 外茂子	富樫
河合 節子	金石町
瀬川 愛子	薬師谷

平成21年度

市長功労表彰

氏名	校下名
川端 誠一	芳齋
北野 勇作	此花
桶谷 隆雄	三和
吉田 篤	戸板
小林 進	崎浦
高田 久治	花園

市長表彰

氏名	校下名
氣谷 博次	材木町
石村 都喜雄	伏見台
本保 堯	新堅町

徳市 敏弘	味噌蔵町
稲村 八紘	味噌蔵町
山本 健太郎	味噌蔵町
清水 一郎	味噌蔵町
澤田 武尚	松ヶ枝
西川 正一	芳齋
越川 正明	芳齋
徳田 大成	馬場
黒川 晋悟	馬場
前田 宏雄	米泉
出店 良幸	金石町
向 外雄	犀川
坂尻 一雄	犀川
木本 敏夫	湯涌
板谷 睦卓	田上

市長感謝状

氏名	校下名
大西 隆	芳齋
嶋田 尚藏	弥生
辻 卓	弥生
音 弘志	新堅町
岡田 秀樹	新堅町
釜田 茂喜	長町
北 亜雄	長町
寺崎 勇	長町
由雄 正博	長町
山本 義春	松ヶ枝
釣谷 幸政	長土堀
松井 一晴	長土堀
管野 不二子	芳齋
正田 京子	此花
卯西 孝之	馬場
宮本 年一	馬場
野中 勝則	浅野町

吉村正夫	千坂
東勇吉	夕日寺
前坂雅男	浅野川
林誠一	西南部
東出信行	富樫
南輝夫	富樫
水野希一	長田町
村木彌壽夫	戸板
藤井啓	小立野
刀利清直	小立野
水内健作	小立野
田中侃	犀川
林徳造	湯涌
馬医健一	花園
古川邦雄	薬師谷

会長表彰

氏名	校下名
織田秀寅	泉野
奥村薫	富樫
伊藤四郎	泉野
上野孝	浅野川
大森茂兵衛	鞍月
能島和弘	泉野
村中泰雄	味噌蔵町
瀬川市蔵	松ヶ枝
中島祥博	松ヶ枝
車谷芳宏	芳斎
蓮村隆夫	此花
木谷明紀	浅野町
山崎輝雄	三馬
毎田俊一	犀川
上田勲	湯涌
有澤定義	湯涌
石田さちえ	十一屋

吉新直	長坂台
梅野清美	長坂台
宮元登美子	長坂台
奥春枝	長坂台
浅田初秀	菊川
福井俊光	菊川
多山詳次	菊川
野村正典	味噌蔵町
吉崎成子	味噌蔵町
申東奎	芳斎
林一茂	瓢箪
朝倉政美	瓢箪
田中豊稗	瓢箪
橋外美子	大浦
笹木守英	米丸
北井榮一	米丸
埴生範彦	米丸
山田修三	三和
中田尚	三和
高畠永之	三馬
喜多利男	三馬
石崎忠男	三馬
南外喜男	三馬
澤野光夫	三馬
大川和雄	扇台
東卓	戸板
金子仁一	小立野
林正己	田上

会長感謝状

氏名	校下名
竹内勲	野町
中川嘉久	弥生
松田隆	泉野
笠島伸剛	長坂台

堀口京志	新豎町
西尾政邦	菊川
下沢好範	材木町
末広和利	味噌蔵町
堀内武	味噌蔵町
中山稔	味噌蔵町
片田外美三	味噌蔵町
柴田隆平	長土堀
田町靖夫	長土堀
宮崎康夫	長土堀
松本昌丈	馬場
杉本輝雄	森山
青木五十二	千坂
坂本節朗	新神田
土田久榮	新神田
西上章	西南部
大多良孝	西
流正雄	金石町
北潟伸吉	金石町
中島康	小立野
牧山輝幸	犀川
荒井稔	湯涌
佃金昌	花園
西川孝志	菊川
澤口巳保	菊川
横山日出國	菊川
嶋倉健一	長土堀
竹内良司	長土堀
小川進	芳斎
能口齋一郎	芳斎
田中清	小坂
石野勝盛	夕日寺
新田俊雄	西南部
高嶋亮	扇台
林弘司	扇台

大赤見 秀 美	中村町
井野山 好 子	浅野町
前 田 律 子	安 原

平成22年度

市長功労表彰

氏 名	校下名
駒 崎 稔	小 坂
宮 本 光 章	長坂台
大 江 外志明	松ヶ枝
南 出 良 三	扇 台
谷 口 哲 夫	湯 涌

市 長 表 彰

氏 名	校下名
瀬 川 市 藏	松ヶ枝
西 村 信 彦	長土堀
窪 田 英 俊	芳 斎
橋 本 秀 司	夕日寺
涌 村 茂	夕日寺
鈴ヶ嶺 勇	三 和
木 野 與司夫	湖 南

市長感謝状

氏 名	校下名
中 川 伊佐夫	安 原
作 田 省 一	犀 川
東 俊 丸	中村町
干 田 武 雄	材 木
小 篠 勉	長土堀
勝 崎 喜代志	長土堀
沖 紀 和	長土堀
乙 村 利 則	此 花

魚 谷 浩 平	此 花
松 木 久 哉	此 花
荒 木 順 一	馬 場
林 精	馬 場
田 中 国 男	浅野町
吉 本 輝 夫	小 坂
林 劭	小 坂
高 崎 和 夫	千 坂
早 川 一 郎	栗 崎
堀 田 寛	大 浦
村 本 光 子	新神田
小谷内 啓 次	三 馬
笹 木 幸 夫	三 馬
澤 井 弘	三 馬
不破野 和 可	米 泉
村 島 嘉 孝	富 樫
木 村 松 久	富 樫
石 川 得一郎	小立野
宮 保 孝	小立野
松 宮 孝 正	小立野
上 田 和 夫	小立野
大 田 起佐夫	湯 涌
高 瀬 守	薬師谷

会 長 表 彰

氏 名	校下名
五 藤 俊 郎	松ヶ枝
原 一 義	浅野川
荒 井 進	俵
佃 一 成	味噌蔵町
林 瑛	味噌蔵町
北 川 明	松ヶ枝
藤 村 嘉 昭	松ヶ枝
吉 本 紘 三	松ヶ枝
柳 瀬 邦 夫	小 坂

高 橋 恭 平	夕日寺
出 村 外茂治	三 馬
北 村 喜代志	富 樫
坂 尻 昭 治	薬師谷
荒 木 真 生	野 町
本 屋 定 夫	十一屋
紐 野 聡	長坂台
伊 藤 榮	新堅町
羽 野 文 枝	松ヶ枝
松 井 久 義	小 坂
尾 川 廣 司	諸 江
立 田 博	米 丸
清 造 英 樹	米 丸
山 本 稔	三 馬
中 村 茂 男	三 馬
池 田 修	戸 板
宮 島 一 豊	西
土清水 哲 明	小立野
西 田 直 行	森 本
横 井 禮 一	湖 南
出 村 昇	薬師谷

会長感謝状

氏 名	校下名
新 屋 守	野 町
三 坂 岳 應	野 町
林 誠 一	弥 生
村 上 啓 一	十一屋
北 健	泉 野
柏 村 誠	新堅町
松 原 宇 杏	新堅町
村 山 卓 治	新堅町
野 竹 豊 彦	新堅町
小 坂 吉 徳	味噌蔵町
本 田 孝 三	長土堀

桶田成一	長土堀
牧俊弘	馬場
村田信一	小坂
若林英世	新神田
寺田秀幸	戸板
滝田実	小立野
坂登志夫	犀川
今村信夫	犀川
石毛義博	新堅町
高橋哲郎	菊川
犢野信治	味噌蔵町
森紳一郎	浅野町
木戸浦紀三郎	千坂
浜谷晃	栗崎
尾崎洋	押野
勝田恵子	押野
米林与方	扇台
西嶋誠	西
中西修司	小立野
西村富美夫	薬師谷

平成23年度

市長功勞表彰

氏名	校下名
井奈孝史	材木
橋場宗信	材木
松村光雄	材木
松本騏一	長町
街道利之	森山
高俊雄	湯涌
田辺時男	花園

市長表彰

氏名	校下名
織田秀寅	泉野
永井久夫	夕日寺
奥村薫	富樫
奥田秀治	薬師谷
瀬野靖二	菊川
岸川清	長町
松田幸枝	長町
白尾秀人	松ヶ枝
伊藤茂	森山
毎田俊一	犀川
上田勲	湯涌
松浦勇	湯涌
佃信彦	花園

市長感謝状

氏名	校下名
五十嵐浩	十一屋
川村泰之	新堅町
常盤勇伸	材木
藤村嘉昭	松ヶ枝
高松己久雄	馬場
木本吉昭	馬場
田中靖男	馬場
英信一	千坂
原一義	浅野川
上野孝	浅野川
寺田俊博	富樫
河南修二	金石町
小坂好己	小立野
中島勇	小立野
細川三千夫	犀川
有澤定義	湯涌

塚本外志男	森本
高橋昭賢	花園
森川昌平	花園
小西修	花園
中村明	湖南
小谷達郎	湖南
大村澄夫	薬師谷
平木吉一	薬師谷

会長表彰

氏名	校下名
西野茂	鞍月
松村理治	長田町
中井伸二	弥生
藤岡政康	新堅町
若林茂樹	新堅町
栗原紘治	新堅町
岡田健一	新堅町
上山忠夫	材木
坂口徹	長町
寿美田俊彦	長町
本間市郎	長町
北村武夫	長町
高口敬生	長土堀
山崎暢征	芳斎
長田良造	森山
神保由直	森山
静岡俊郎	米丸
清水健治	長田町
中島隆一	田上
山崎亮二	田上
出村一栄	花園
北川聖	野町
塩本利次	長坂台
片岡保二	味噌蔵町

吉田政之	味噌蔵町
藤田一郎	芳斎
田中幸雄	諸江
近藤和興	諸江
道本長保	戸板
多崎時安	金石町
後藤文夫	小立野
山田省三	小立野
今藤輝雄	花園

会長感謝状

氏名	校下名
山本鎮夫	俵
三国守	弥生
宮下与一	弥生
村田保夫	十一屋
谷内輝雄	新堅町
荒江秀夫	新堅町
舛田外志雄	新堅町
山下盛義	材木
砂走勇俊	味噌蔵町
釈迦院泰雄	味噌蔵町
藤野富志子	味噌蔵町
安嶋稔	長土塀
中村秀一	長土塀
苗加鐵衛	長土塀
佐野碩	瓢箪
廣瀬喜秋	川北
福原昭義	新神田
下川秋男	金石町
小間井茂夫	金石町
長原俊之	小立野
上田重雄	田上
川端柳一	田上
寺俊昭	湖南

中川和男	薬師谷
水橋幸江	長坂台
栗尚二	菊川
大田功	長土塀
葛城健一郎	長土塀
吉田誠定	森山
阿岸英一	長田町
嶋田勇	長田町
福本晃	金石町
山崎茂雄	花園

平成24年度

市長功労表彰

氏名	校下名
宮本治雄	野町
平村修	十一屋
谷一則	瓢箪
坂本義則	森山
酒井寛人	田上
山崎政雄	花園

市長表彰

氏名	校下名
西野茂	鞍月
中島祥博	松ヶ枝
山崎浩一	瓢箪
馬醫恭彦	瓢箪
井波淳市	瓢箪
木谷明紀	浅野町
上野秀雄	浅野町
村上清造	小坂
山崎輝雄	三馬
長山忠敬	小立野

越野他計志 森本

市長感謝状

氏名	校下名
中井伸二	弥生
細野忠男	東浅川
津田和雄	中村町
北崎義夫	長坂台
平松喬	新堅町
大桑繁	新堅町
北野喜文	新堅町
上山忠夫	材木
相川正壽	松ヶ枝
中屋保雄	千坂
本林勝輝	川北
山下正美	米丸
笹倉忠勝	米丸
池田良教	扇台
吉田正俊	長田町
竹多勇	金石町
齊田喜衛	金石町
向田道夫	犀川
山崎亮二	田上
窪隆	花園
高木武夫	薬師谷

会長表彰

氏名	校下名
石谷捷二郎	浅野町
渡邊茂樹	富樫
若宮昇	田上
吉田善光	東浅川
得能章	東浅川
宮村昭夫	東浅川
宮島信輝	東浅川

井川史郎	泉野
木村清二	味噌蔵町
安居知世	芳斎
松林伸武	芳斎
竹内貞幸	瓢箪
若林弘	浅野町
番下晃	森山
澤本昭弘	小坂
井川好長	三馬
押野幸雄	小立野
中西明至	犀川
西村昇	湯涌
長田初美	野町
見崎則次	十一屋
栗田友吉	長坂台
柳下宗弘	長坂台
山岸利雄	長坂台
石村李恵	長坂台
南郁夫	長坂台
大野武司	材木
白井正巳	味噌蔵町
森谷隆	長土堀
石川哲雄	長土堀
岸弘次郎	瓢箪
宮坂清	瓢箪
近藤三朗	瓢箪
奈良俊彦	瓢箪
澤田喜美子	瓢箪
辰橋栄子	瓢箪
能村仁一	浅野町
平田昭一	浅野町
久保透	浅野町
山田耕一	小坂
柄本良治	小坂
谷村秀明	小坂

小坂弘子	三馬
瀬戸末松	小立野
古林満	小立野
花岡鉄男	花園
日河岸勝治	薬師谷
山下浩司	薬師谷

会長感謝状

氏名	校下名
笠松秀敏	十一屋
大田秀二	長土堀
今村昌豊	長土堀
前田良松	千坂
坂井義春	千坂
坂井喜一	夕日寺
菅野正	夕日寺
北野正広	栗崎
高田光雄	米丸
山岸正光	新神田
中野吉隆	三馬
出崎君江	富樫
南喜與志	戸板
勝見文雅	金石町
室田和人	大野町
村本外喜男	小立野
浦和明	犀川
宮川利幸	薬師谷
山科靖代	野町
窪彬	材木
林枉	長土堀
間明弘光	米丸
北村泰行	米丸
中谷忠義	三馬
玉津裕	三馬
道えり子	扇台

梶昭彦	金石町
近藤重樹	金石町
三浦恭平	金石町

平成25年度

市長特別功労表彰

氏名	校下名
平田博	米丸

市長功労表彰

氏名	校下名
石村都喜雄	長坂台
稲村八紘	味噌蔵町
山本健太郎	味噌蔵町
松本修成	長町
中野成昭	長町
澤田武尚	松ヶ枝
高崎寛	此花
徳田大成	馬場
橋本秀司	夕日寺
板谷睦卓	田上

市長表彰

氏名	校下名
能島和弘	泉野
林瑛	味噌蔵町
谷内口克男	長町
西村道治	長町
坂口徹	長町
北村武夫	長町
北川明	松ヶ枝
蓮村隆夫	此花
高橋恭平	夕日寺

津田進次	大徳
戸田彦市	小立野
堀政良	小立野
出口武男	犀川
坂尻昭治	薬師谷

市長感謝状

氏名	校下名
金谷啓次郎	弥生
額谷仁	弥生
本光民夫	長坂台
道端勉	新堅町
本郷幸一	味噌蔵町
塗師岡建男	松ヶ枝
桶田成一	長土堀
竹内邦弘	馬場
清水満	馬場
中田恵一	小坂
蔵四郎	諸江
井倉義一	米丸
北川友律	西南部
中野忠史	米泉
早川正次	額
山崎茂	大徳
南保司	小立野
東一男	犀川
中川孝蔵	薬師谷

会長表彰

氏名	校下名
護摩堂一夫	浅野川
元木光明	大浦
宮川博	戸板
寺分重喜	弥生
尾有武嗣	泉野

堀治雄	扇台
下橋博	東浅川
島幸英	泉野
中谷吉春	泉野
中本当支男	味噌蔵町
西田一成	長町
笹井鍊造	松ヶ枝
照田國裕	松ヶ枝
不室昭	松ヶ枝
本間勝美	長土堀
荒永秀俊	此花
竹村紀義	森山
小阪栄進	森山
畠中繁	森山
篠塚重和	夕日寺
西川久行	夕日寺
毎田勇	犀川
青山実	犀川
宇野博	湯涌
野村与嗣	湯涌
西野謙三	薬師谷
滝田修一	弥生
甚田和幸	新堅町
松任紀夫	新堅町
関野正二	新堅町
岡本久一	新堅町
長瀬章	新堅町
津田徹	材木
大島正久	材木
乾勲	味噌蔵町
田辺二郎	味噌蔵町
林駿介	味噌蔵町
大家一洋	此花
菅野修三	浅野町
桶谷省三	千坂

二宮勝	諸江
土肥隆之	米丸
浦澄子	三馬
中房涉	三馬
百川誠一郎	戸板
伊田博明	戸板
能登太一	小立野

会長感謝状

氏名	校下名
竹田浩	弥生
清水修	弥生
西村玉造	新堅町
野村善之	馬場
與野木昭二	小坂
元木千明	千坂
平山正治	米丸
済田和博	米丸
直山敬二	米泉
中山學	富樫
相川義美	金石町
法桑憲昭	金石町
板谷謹二	金石町
吉田勝博	犀川
滝下劼	犀川
藤村均	薬師谷
岡山浩之	十一屋
中村喜久夫	十一屋
谷川市蔵	十一屋
山科義治	新堅町
村山茂治	新堅町
吉江信厚	材木
松尾美和子	味噌蔵町
北田聡子	味噌蔵町
出村忠彦	諸江

松野忠男	諸江
柱山郁夫	諸江
江上由紀子	川北
神戸英明	米丸
奥田勝平	米丸
松田政宏	米丸
武田和子	西南部
林 広治	三馬
松原誠一	金石町
市村ゆかり	浅野川
竹内 明	大徳

平成26年度

市長特別功労表彰

氏名	校下名
長田喜義	米泉

市長功労表彰

氏名	校下名
東 茂	栗崎
白尾秀人	松ヶ枝
西村信彦	長土堀
蓮村隆夫	此花
長山一男	湯涌

市長表彰

氏名	校下名
大川兼紀	中村町
西田 稔	千坂
柏木信二	押野
宮川 博	戸板
森川昌平	花園
大島廣靖	新堅町

西田 弘	味噌蔵町
寿美田俊彦	長町
高口敬生	長土堀
加藤良治	馬場
丸田吉昭	森山
静岡俊郎	米丸
奥村章彦	四十万
中島隆一	田上
菱田外志博	三谷
徳野 隆	三谷

市長感謝状

氏名	校下名
護摩堂 一夫	浅野川
松本 剛	川北
井村秀雄	犀川
本間市郎	長町
本間勝美	長土堀
浅倉 功	長土堀
藤田利弘	長土堀
宮川健一	小坂
篠塚重和	夕日寺
坂井多喜知	夕日寺
山口修次郎	三馬
安藤秀章	金石町
倉 穂	金石町
池尾 清	金石町
上梨 稔	湯涌
西野謙三	薬師谷
北村繁雄	薬師谷
高居一朗	三谷

会長表彰

氏名	校下名
福野富治	中村町
大原孝則	中村町
北川雅一	鞍月
武藤清秀	泉野
浅野 修	味噌蔵町
外山郁生	味噌蔵町
道 和幸	長町
英 良三	長町
山本信一	此花
浅森久雄	森山
中村利明	森山
田中好秋	米泉
高野健三	小立野
南 健	犀川
新井穰二	湯涌
東 進	花園
高畠一男	花園
前川志郎	花園
西村 優	弥生
計良 寿	十一屋
浦嶋外喜夫	十一屋
平原勝文	十一屋
梅谷和子	泉野
岩崎昌之	味噌蔵町
北川定義	長町
北野慎一	芳斎
久志本美津子	此花
英 外茂次	浅野町
澤田秋子	西南部
西 芳範	小立野
柴田光男	小立野
宮本 篤	小立野

伊 藤 猛 田 上
戸 井 啓 一 薬師谷

会長感謝状

氏 名	校下名
能 本 弥	野 町
山 田 勝	野 町
礪 波 義 光	馬 場
酒 井 太一郎	浅野町
上 田 俊 行	米 丸
福 田 義 弘	西南部
石 田 隆 雄	富 樫
岡 昭 弘	長田町
宮 本 勝 榮	小立野
島 進 一	小立野
森 勝 之	崎 浦
馬 醫 聡	花 園
中 山 健 二	薬師谷
村 井 哲 雄	弥 生
綾 村 健 一	材 木
清 水 隆	長土堀
福 田 浩 康	長土堀
前 平 秋 弘	長土堀
明 石 静 子	長土堀
道 信 重	森 山
草 野 茂 樹	諸 江
坂 下 孝 司	西南部
石 川 晃	小立野
水 野 幸 廣	田 上
上 田 哲	森 本
和久田 美知子	森 本
佐 野 秀 一	花 園
佐々木 紀 子	馬 場
安 田 繁 子	西南部

平成27年度

市長功勞表彰

氏 名	校下名
西 野 茂	鞍 月
村 上 清 造	小 坂

市 長 表 彰

氏 名	校下名
元 木 光 明	大 浦
高 畠 菊 丸	大 徳
岡 田 健 一	新豎町
木 村 清 二	味噌蔵町
山 田 茂 二	長 町
西 田 一 成	長 町
岩 井 幸 吉	長 町
笹 井 鍊 造	松ヶ枝
不 室 昭	松ヶ枝
沢 本 昭 弘	小 坂
柳 瀬 邦 夫	小 坂
中 西 明 至	犀 川
西 村 昇	湯 涌

市長感謝状

氏 名	校下名
本 多 康 人	野 町
成 出 武 二	弥 生
島 田 和 夫	弥 生
中 山 修	新豎町
松 原 猛 夫	新豎町
東 武 夫	新豎町
末 広 和 利	味噌蔵町
浅 野 修	味噌蔵町
大 桑 宇一郎	長 町

洲 崎 秀 勝	馬 場
本 田 研 二	馬 場
中 村 邦 雄	小 坂
山 下 民 夫	栗 崎
藤 井 國 知	大 浦
興 津 俊 幸	米 丸
米 澤 利 昭	押 野
中 村 久 夫	戸 板
吉 本 重 幸	戸 板
毎 田 勇	犀 川
東 一 郎	犀 川
瀬 戸 政 幸	犀 川
浦 利 一	薬師谷

会 長 表 彰

氏 名	校下名
西 岡 芳 子	夕日寺
中 川 孝 夫	大 徳
山 森 太 兵	東浅川
河 井 純 一	東浅川
神 田 祐佳里	湖 南
黒 田 悟	弥 生
坂 弥 勢都夫	新豎町
福 江 健	長 町
越 田 邦 夫	長 町
岡 田 庸 嗣	松ヶ枝
坂 北 輯	此 花
木 村 功	馬 場
本 田 茂 明	馬 場
谷 村 憲 治	森 山
長 沖 武	森 山
村 上 康 彦	千 坂
國 分 政 夫	西南部
寺 岡 健 一	大 徳
中 野 紘 成	小立野

武内 恵美子	東浅川
紫藤 清子	野町
阿部 信夫	新堅町
牧野 和弥	新堅町
徳野 守	新堅町
金田 真紀子	松ヶ枝
高宮 紀温	松ヶ枝
幸松 貢	芳斎
長山 明	森山
吉田 浩子	西南部
上田 敏晴	富樫
黄木 明夫	大野町
中村 光男	大野町
垣本 哲夫	小立野

会長感謝状

氏名	校下名
山二 光三	菊川
中泉 匡博	弥生
三谷 實	弥生
木村 文昭	弥生
盛本 祐次	弥生
谷村 洋一	新堅町
清水 剋順	新堅町
山根 弘	新堅町
木下 孝治	新堅町
綿 征一	味噌蔵町
山崎 利夫	長町
旗 正男	長土堀
島田 幸男	長土堀
茶富 満雄	長土堀
宮腰 正男	長土堀
中川 和英	馬場
小杉 龍雄	馬場
中田 峯夫	川北

山岸 善久	川北
田中 邦雄	米丸
山下 武夫	米丸
川島 義孝	金石町
野里 憲市	金石町
木村 利信	金石町
島崎 信隆	金石町
多田 貞知	犀川
西尾 浩	湖南
高 明人	湖南
加納 瑤子	新堅町
太田 定博	新堅町
山本 八重子	味噌蔵町
北川 寛美	長土堀
河江 浩幸	金石町
津田 光一	金石町
多崎 能成	金石町
高山 靖章	金石町
園田 惣一	薬師谷

平成28年度

市長功労表彰

氏名	校下名
奥村 薫	富樫
奥田 秀治	薬師谷
中島 祥博	松ヶ枝
上野 秀雄	浅野町
伊藤 茂	森山
戸田 彦市	小立野

市長表彰

氏名	校下名
小谷内 政雄	四十万
嶋谷 潤一郎	金石町
小谷 達郎	湖南
中本 当支男	味噌蔵
照田 國裕	松ヶ枝
番下 晃	森山
西川 久行	夕日寺
久田 茂	富樫
宇野 博	湯涌
野村 与嗣	湯涌
新井 穰二	湯涌

市長感謝状

氏名	校下名
寺分 博	野町
姉崎 幸雄	野町
古瀬 紀一	十一屋
永井 外夫	新堅町
山本 康夫	味噌蔵
福江 健	長町
村田 進	長町
木村 功	馬場
福村 健一	馬場
北 巖	馬場
村上 康彦	千坂
菅野 正	夕日寺
山崎 一政	富樫
曾谷 建夫	伏見台
岡山 邦雄	額
秋濱 耕起	金石町
西尾 清	金石町
相川 一雄	金石町

小 高 良 夫 崎 浦
吉 本 豊 一 森 本

会 長 表 彰

氏 名	校下名
岡 嶋 平 吉	俵
前 田 良 松	千 坂
福 原 昭 義	新神田
越 村 徳 二	三 和
村 田 保 夫	十一屋
山 上 清 司	十一屋
岡 田 光 策	菊 川
上 坂 達 朗	材 木
金 子 福 夫	材 木
木 村 香 月	材 木
片 田 外美三	味噌蔵
高 垣 豊 樹	味噌蔵
久保田 保	長 町
金 田 友 一	松ヶ枝
福 岡 俊 明	松ヶ枝
浅 井 宏 志	芳 斎
小 山 芳 彦	浅野町
吉 野 正 博	浅野町
本 正 寛	小 坂
古 沢 外志雄	小立野
北 幹 夫	湯 涌
廣 地 叡	薬師谷
米 村 正 直	野 町
山 崎 一 春	野 町
田 川 浩	野 町
石 田 孝 昭	弥 生
四 谷 誠	十一屋
西 好 美	新堅町
宮 野 千枝子	新堅町
竹 田 敏 夫	味噌蔵

伊 藤 惠 馬 場
中 西 外代子 浅野町
高 木 幹 雄 浅野町
寺 島 憲 一 諸 江
北 川 憲 夫 西南部
北 村 克 夫 小立野
山 岸 靖 彦 薬師谷

会 長 感 謝 状

氏 名	校下名
山 本 健 二	弥 生
森 田 憲	弥 生
橋 谷 毅	新堅町
金 野 民	新堅町
川 嶋 巖	新堅町
笠 島 信 夫	菊 川
平 村 英 信	菊 川
松 本 賤 夫	味噌蔵
能 登 彰	長 町
福 富 啓 祐	松ヶ枝
山 崎 健 次	馬 場
土 田 満	小 坂
新 谷 真 弘	川 北
入 口 吉 男	三 和
国 見 徹	米 泉
八 子 和 明	四十万
橋 爪 次 郎	扇 台
潟 邊 武 好	戸 板
中 野 明	金石町
濱 田 一 雄	金石町
斉 藤 正 行	金石町
松 田 茂	金石町
金 谷 雅 雄	小立野
上 田 誠 介	小立野
木 薮 俊 政	小立野

奥 村 良 犀 川
河 村 良 介 薬師谷
山 際 俊 治 十一屋
松 井 弘 浅野町
西 川 義 博 小 坂
福 島 幸 洋 川 北
銭 谷 芳 信 金石町
森 野 雄 嗣 金石町
向 井 友 臣 小立野
堀 田 功 薬師谷
辰 巳 靖 夫 崎 浦

平成29年度

市 長 功 勞 表 彰

氏 名	校下名
西 村 義 雄	新神田
坂 本 和 紀	伏見台
松 村 理 治	長田町
高 畠 菊 丸	大 徳
谷内口 克 男	長 町
西 村 道 治	長 町
北 川 明	松ヶ枝
井 波 淳 市	瓢 箪
木 谷 明 紀	浅野町
木 本 敏 夫	湯 涌

市 長 表 彰

氏 名	校下名
堀 内 政 徳	二 塚
西 川 昇	安 原
外 山 郁 生	味噌蔵
宇 野 孝 一	味噌蔵
浅 香 正 彦	長 町

宮野方延	長町
道和幸	長町
越田邦夫	長町
瀧本克廣	瓢箪
小阪栄進	森山
浅森久雄	森山
中村利明	森山
國分政夫	西南部
田中好秋	米泉
南健	犀川
中谷正治	湯涌

市長感謝状

氏名	校下名
相川久嗣	弥生
黒田悟	弥生
関淳一	新堅町
砂山陽吾	新堅町
堅田宗光	新堅町
宮下昌三	菊川
市村重雄	菊川
片田外美三	味噌蔵
加藤正人	味噌蔵
松本守	味噌蔵
安嶋稔	長土堀
田町靖夫	長土堀
越田富滋雄	此花
平田昌之	馬場
畠善昭	浅野町
大島嘉子	森山
中川泰一	森山
前大陸	千坂
東豊彰	千坂
作井善継	浅野川
荒田義弘	川北

米世源八	長田町
流正雄	金石町
中谷健治	犀川
岡本宏	森本
荒木和男	薬師谷
山本武	三谷
下村明博	三谷

会長表彰

氏名	校下名
寺井孝好	医王山
岡本進	瓢箪
砂原一誠	三谷
宮崎秀明	十一屋
谷内輝雄	新堅町
高野豊彦	材木
永井隆	松ヶ枝
久保晴喜	松ヶ枝
赤丸義郎	長土堀
堀部泰生	瓢箪
檜物鋭一	瓢箪
河崎博	馬場
前波英久	小坂
出戸秀治	大浦
坂本厚志	湯涌
川本一義	湖南
村田弘	湖南
柴野昭	新堅町
大野武司	材木
中山義雄	味噌蔵
寺沢進一	味噌蔵
梶本吉衛	味噌蔵
桜田豊治	瓢箪
篠田直隆	瓢箪
澤田憲功	瓢箪

福島清一	西
吉田敏捷	大徳
大辺孝紀	小立野
澤田秀夫	薬師谷
原田宗昭	薬師谷

会長感謝状

氏名	校下名
竹口彰夫	新堅町
若狭源司郎	新堅町
神原幸平	味噌蔵
辻本隆光	味噌蔵
増野幸治	長土堀
浜尾和幸	長土堀
中尾謙二	長土堀
庄司一洋	長土堀
山崎義朗	馬場
寺井昭一	川北
伊藤賢一	米丸
小川之久	米丸
山田利明	押野
村上茂	戸板
中野修一	戸板
相川一郎	金石町
能澤直幸	金石町
山本春美	十一屋
紺藤伸夫	長土堀
押田久志	長土堀
寺西清一郎	長土堀
中泉俊一	西南部
田島博樹	西南部
松本善博	長田町
前田トシ子	長田町
塩谷英也	長田町
上田倫巳	戸板

夏	岸	隆	雄	金石町
越			弘	金石町
稲	垣	知	正	小立野

第4章

年表で見る歩み
(平成20～29年度)

年度	金沢市町連合会の歩み	金沢市の動き
平成20年度	4月6日 春の一斉美化清掃（6月1日までの日曜日） 5月19日 定期総会 5月30日 市政連絡会 6月7日 金沢百万石まつり百万石行列に参加 8月13日 浅野川豪雨災害被災地見舞い金沢豪雨災害見舞金募集開始（～9月30日まで） 10月7日 理事視察研修（松山市雄郡地区自治・広報連合会） 10月10日 見舞金を金沢市に寄託（日本赤十字社へ） 10月12日 秋の全市一斉美化清掃 10月19日 第51回市連大会・ファミリーフェスタ 10月29日 視察受入（高崎市区長会） 11月12日 視察受入（静岡市自治会連合会）	4月1日 金沢工芸子ども塾開設 4月1日 集合住宅におけるコミュニティ組織の形成の促進に関する条例施行 6月9日 主計町地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定 6月27日 金沢市耐震改修促進計画策定 11月1日 南町が旧町名復活 11月8日 金沢ふらっとバス「長町ルート」運行開始 11月8日 玉川こども図書館開館 1月19日 金沢市歴史的風致維持向上計画（歴史都市）が国第1号認定
平成21年度	4月5日 春の一斉美化清掃（5月31日までの日曜日） 5月27日 定期総会 6月1日 市政連絡会 6月6日 金沢百万石まつり百万石行列に参加 7月14日 視察受入（岡崎市総代会連絡協議会） 10月6日 理事視察研修（郡山市自治会連合会） 10月18日 秋の全市一斉美化清掃 10月18日 第52回市連大会・ファミリーフェスタ 11月13日 視察受入（小牧市区長会）	4月1日 金沢市ものづくり基本条例施行 4月1日 児童相談所一時保護所開設 4月4日 金沢市近江町交流プラザ開館 4月18日 金沢林業大学校を開設 5月15日 金沢市住生活基本計画策定 6月10日 ユネスコ創造都市ネットワーク・クラフト分野に認定 10月1日 金沢市における美しい景観のまちづくりに関する条例施行 10月1日 金沢市総合治水対策の推進に関する条例施行 11月1日 下新町・上堤町が旧町名復活 2月22日 「金沢の文化的景観 城下町の伝統と文化」が国の重要文化的景観に選定
平成22年度	4月4日 春の一斉美化清掃（5月30日までの日曜日） 5月25日 定期総会 6月2日 市政連絡会 6月5日 金沢百万石まつり百万石行列に参加 7月8日 視察受入（鹿沼市自治会連合会） 10月3日 秋の全市一斉美化清掃 10月3日 第53回市連大会・ファミリーフェスタ 10月26日 理事視察研修（市川市自治会連合協議会） 12月9日 視察受入（岡山市連合町内会）	4月1日 金沢市における学生のまちの推進に関する条例施行 4月24日 金沢市ものづくり開館開館 6月20日 金沢まちづくり学生会議が発足 8月22日 犀川公民館が移転し業務開始 8月23日 犀川市民センターが移転し業務開始 9月25日 金沢湯涌江戸村開園 10月12日 金沢市近江町消費生活センター開設 10月25日 金沢駅通り線の4車線全面供用開始 3月12日 東日本大震災からの復旧・復興支援を開始 3月26日 都市計画道路疋田上荒屋線（北安江高架橋）供用開始 3月28日 金沢市低炭素都市づくり行動計画策定

年度	金沢市町連合会の歩み	金沢市の動き
平成23年度	4月1日 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）義援金募集開始（4月30日まで） 4月3日 春の一斉美化清掃（5月29日までの日曜日） 5月24日 義援金を金沢市に寄託（日本赤十字社へ） 5月31日 定期総会 6月4日 金沢百万石まつり百万石行列に参加 6月9日 市政連絡会 7月12日 視察受入（大垣市中川連合自治会） 8月30日 視察受入（前橋市行政自治委員会） 10月16日 秋の全市一斉美化清掃 10月16日 第54回市連大会・ファミリーフェスタ 10月26日 理事視察研修（奈良市自治会連合会） 11月14日 視察受入（豊橋市自治連合会） 11月17日 視察受入（明石市連合自治協議会）	4月1日 協働のまちづくりチャレンジ事業を開始 5月21日 金沢海みらい図書館開館 7月1日 学校図書館司書を配置 7月27日 クラフトプラザ香林坊を開設 10月1日 子育て支援医療費の助成対象を拡大（入院を中学3年生、通院を小学3年生まで） 10月18日 鈴木大拙館開館 11月1日 大乘寺丘陵公園の開園 11月29日 卯辰山麓地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定 3月19日 駅西消防署小坂出張所供用開始 3月24日 公共レンタサイクル「まちなり」運用開始 3月30日 木倉町通り及び主計町の無電柱化が完成
平成24年度	4月1日 春の一斉美化清掃（5月27日までの日曜日） 5月29日 定期総会 6月2日 金沢百万石まつり百万石行列に参加 6月8日 市政連絡会 9月3日 東日本大震災被災地視察（名取市）  10月7日 第55回市連大会  10月17日 理事視察研修（函館市町会連合会） 10月21日 秋の全市一斉美化清掃	4月1日 金沢市におけるぼい捨て等のない快適で美しいまちづくりの推進に関する条例施行 4月1日 西部環境エネルギーセンター供用開始 9月29日 金沢学生のまち市民交流館開館 11月30日 ぼい捨て等防止重点区域に金沢駅東を指定 12月25日 東日本大震災からの復旧・復興支援として岩手県宮古地区の災害廃棄物（漁具・漁網）の受け入れを開始（平成25年10月31日まで） 12月28日 寺町台地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定 2月28日 金沢市危機管理計画策定 3月23日 金沢駅武蔵北地区第1種市街地再開発事業が完了 3月25日 新たな都市像『世界の「交流拠点都市金沢」をめざして』を策定 3月28日 金沢市再生可能エネルギー導入プラン策定

年度	金沢市町連合会の歩み	金沢市の動き
平成 25 年度	4月7日 春の一斉美化清掃（5月26日までの日曜日） 5月28日 定期総会 5月30日 市政連絡会  6月1日 金沢百万石まつり百万石行列に参加 10月2日 中部自治会連絡協議会総会（金沢）  10月14日 第56回市連大会 10月20日 秋の全市一斉美化清掃 10月29日 理事視察研修（松本市町会連合会）	4月1日 金澤町家の保全及び活用の推進に関する条例施行 10月1日 金沢の食文化の継承及び振興に関する条例施行 11月1日 ぼい捨て等防止重点区域に武蔵地区、香林坊地区を追加 12月1日 教育プラザ此花を開所 12月16日 「男女共同参画都市宣言」議決 2月21日 世界の交流拠点都市金沢「重点戦略計画」策定 3月14日 卯辰山公園開園100年魅力向上計画策定 3月22日 金沢駅西広場再整備事業が完了 3月24日 金沢らしい夜間景観整備計画策定 3月25日 金沢市地域包括ケアシステム推進基本構想策定 3月26日 森山地区と防災まちづくり協定を締結
	4月6日 春の一斉美化清掃（6月1日までの日曜日） 5月26日 定期総会 5月30日 市政連絡会 6月7日 金沢百万石まつり百万石行列に参加 10月11日 北陸新幹線駅舎見学  10月13日 第57回市連大会 10月19日 秋の全市一斉美化清掃 10月29日 理事視察研修（鹿児島市市民局地域振興課） 11月1日 広島市大雨災害義援金募集開始（11月30日まで）	4月1日 金沢市における自転車の安全な利用の促進に関する条例施行 4月1日 泉小学校の開校（野町小学校と弥生小学校を統合） 4月1日 俵小学校が田上小学校に統合 6月10日 西金沢駅東広場供用開始 9月1日 ぼい捨て等防止重点区域に金沢駅西広場等を追加 10月1日 子育て支援医療費の助成対象を拡大（通院を中学3年生まで） 10月30日 「dining gallery 銀座の金沢」開館 12月4日 中央消防署小立野出張所に救急隊を増隊 1月16日 金沢市学校教育振興基本計画策定 3月1日 ぼい捨て等防止重点区域に兼六園、金沢21世紀美術館周辺、ひがし茶屋街を追加 3月6日 国際交流戦略プラン策定 3月14日 北陸新幹線の金沢開業

年度	金沢市町連合会の歩み	金沢市の動き
平成26年度	12月26日 広島市大雨災害義援金を金沢市に寄託（日本赤十字社へ） 2月11日 北陸新幹線試乗会（金沢＝上越妙高）	
平成27年度	4月5日 春の一斉美化清掃（5月31日までの日曜日） 5月29日 定期総会 6月6日 金沢百万石まつり百万石行列に参加 6月11日 市政連絡会 9月29日 理事視察研修（上田市自治会連合会） 10月13日 秋の全市一斉美化清掃 10月27日 全国自治会連合会石川県金沢大会  11月23日 第58回市連大会	4月1日 朝日小学校が不動寺小学校に統合 4月11日 大桑防災拠点広場完成 9月30日 金沢市生涯学習振興基本計画の策定 10月1日 金沢市食の安全・安心の確保に関する条例施行 10月28日 金沢版総合戦略策定 10月30日 金沢市教育行政大綱策定 11月6日 都市計画道路北間・中橋線の4車線全面供用開始 11月15日 第1回金沢マラソン開催 12月1日 ぼい捨て等防止重点区域に長町武家屋敷跡地区を追加 3月23日 第2次金沢交通戦略策定 3月24日 文化創生新戦略2020を策定 3月28日 連携中枢都市圏形成に係る連携協約を締結 3月28日 石川中央都市圏ビジョン策定
平成28年度	4月2日 春の一斉美化清掃（5月29日までの日曜日） 5月20日 熊本地震災害義援金募集開始（6月19日まで） 5月24日 定期総会 6月4日 金沢百万石まつり百万石行列に参加 6月6日 市政連絡会 6月29日 熊本地震災害義援金を金沢市に寄託（日本赤十字社へ） 8月17日 市町連土砂災害研究会 9月27日 理事視察研修（沖縄県自治会連合会・西原町行政区自治会長会）  10月16日 秋の全市一斉美化清掃	4月1日 兼六小学校の開校（材木町小学校と味噌蔵町小学校を統合） 4月1日 東金沢駅西口パーク・アンド・ライド駐車場の完成 4月1日 金沢市空き家等の適切な管理及び活用の促進に関する条例施行 4月1日 金沢市における文化の人づくりの推進に関する条例施行 4月1日 金沢版ふるさと納税制度開始 4月23日 泉小学校・泉中学校竣工式 5月1日 コンビニエンスストアにおける証明書交付サービスの開始 6月1日 ベビースペースhugの開設 11月6日 金澤町家情報館開館 3月16日 金沢市公共施設等総合管理計画策定 3月21日 リニューアルした市役所庁舎前広場の供用開始 3月31日 金沢市集約都市形成計画策定

年度	金沢市町連合会の歩み	金沢市の動き
平成28年度	10月19日 視察受入（瑞浪市連合自治会） 11月7日 視察受入（福島市自治振興協議会連合会）  11月17日 視察受入（富山市自治振興連絡協議会） 11月20日 第59回市連大会 2月1日 家庭ごみ有料化制度に対する意見書提出 	
平成29年度	4月2日 春の一斉美化清掃（5月28日までの日曜日） 5月15日 事務所移転（玉川こども図書館へ） 5月31日 定期総会 6月3日 金沢百万石まつり百万石行列に参加  6月8日 市政連絡会 7月19日 市町連・市公連・市婦連三団体意見交換会	4月1日 犀川及び浅野川における美しい川筋景観の保全に関する条例施行 4月1日 金沢市における地域コミュニティの活性化の推進に関する条例施行 4月9日 金沢プールの開館 6月1日 フランス水泳連盟との間で事前合宿にかかる協定を締結 6月27日 金沢市手話言語条例施行 9月15日 ぼい捨て等防止重点区域に旧観音町地区を追加 10月15日 大浦公民館竣工式 11月8日 金沢市歯と口の健康づくり推進条例施行

年度	金沢市町連合会の歩み	金沢市の動き
平成 29 年度	9月26日 理事視察研修（宇都宮市自治会連合会）  10月15日 秋の全市一斉美化清掃 11月8日 視察受入（高崎市区長会）  11月12日 市連60周年記念大会・祝賀会 12月7日 視察受入（東京都目黒区町会連合会）	

周年記念誌発行の歩み



第5章

各校下(地区)別町会数・加入世帯数
(平成20～29年度)

年度 校下・地区	平成20年		平成21年		平成22年		平成23年		平成24年	
	町会数	世帯数	町会数	世帯数	町会数	世帯数	町会数	世帯数	町会数	世帯数
野 町	32	1,787	32	1,764	32	1,727	32	1,721	32	1,683
弥 生	28	2,354	28	2,364	28	2,371	28	2,374	28	2,351
中村町	31	2,028	31	1,980	31	1,963	31	1,958	30	1,920
十一屋	18	3,838	18	3,777	18	3,773	18	3,752	18	3,717
泉 野	45	3,368	45	3,349	44	3,281	44	3,284	44	3,252
長坂台	11	2,855	11	2,698	11	2,727	11	2,750	11	2,845
新堅町	36	2,415	36	2,038	36	2,303	36	2,303	36	2,303
菊 川	32	2,227	32	2,209	32	2,205	32	2,208	32	2,213
材 木	51	3,039	51	3,078	51	3,080	51	3,066	51	3,067
味噌蔵	42	2,443	42	2,440	42	2,456	42	2,436	42	2,436
長 町	32	1,217	32	1,136	32	1,155	32	1,154	32	1,154
松ヶ枝	34	1,393	34	1,392	33	1,358	34	1,380	35	1,411
長土堀	28	1,583	28	1,562	28	1,515	28	1,499	28	1,483
芳 斎	33	1,353	33	1,341	34	1,386	33	1,414	33	1,396
此 花	28	754	28	749	27	743	27	736	27	735
瓢 箪	32	1,330	32	1,309	32	1,283	32	1,272	32	1,263
馬 場	29	1,299	29	1,276	29	1,271	29	1,250	29	1,244
浅野町	18	2,144	18	2,137	18	2,110	19	2,107	19	2,109
森 山	46	2,793	47	2,815	47	2,810	47	2,790	47	2,779
小 坂	18	2,899	18	2,916	18	2,939	20	3,104	20	3,154
千 坂	23	2,767	23	2,782	23	2,781	23	2,832	23	2,864
夕日寺	12	1,572	12	1,584	12	1,599	12	1,597	12	1,608
諸 江	23	3,631	23	3,619	23	3,651	23	3,724	23	3,775
浅野川	8	1,440	8	1,445	8	1,448	8	1,456	8	1,462
鞍 月	8	2,548	8	2,592	8	2,609	8	2,630	8	2,649
粟 崎	10	2,643	10	2,636	10	2,647	10	2,647	10	2,647
川 北	8	786	8	786	8	783	8	787	8	788
大 浦	6	2,328	6	2,335	6	2,354	6	2,362	6	2,405
米 丸	27	3,546	27	3,449	27	3,467	27	3,500	27	3,574
新神田	15	2,047	15	2,012	15	2,006	15	2,006	15	2,026
押 野	15	2,942	15	2,832	15	2,809	15	2,839	15	2,851
西南部	14	3,046	14	3,044	14	3,055	14	3,035	14	3,019
三 和	22	2,853	22	2,814	21	2,846	21	2,885	21	2,887
三 馬	23	4,119	23	4,136	23	4,167	23	4,195	23	4,220
米 泉	6	1,798	6	1,876	6	1,948	6	1,963	6	1,986
富 樫	32	3,251	32	3,272	32	3,285	32	3,300	32	3,297
伏見台	16	3,680	16	3,707	17	3,713	17	3,787	17	3,829
額	16	3,082	16	2,963	16	2,971	16	2,965	16	2,972
四十万	16	2,251	16	2,233	16	2,214	16	2,233	17	2,322
扇 台	11	2,794	11	2,773	11	2,776	11	2,724	11	2,639
長田町	22	1,536	22	1,527	22	1,573	22	1,588	22	1,582
戸 板	16	4,337	16	4,352	16	4,358	16	4,355	16	4,365
西	7	2,442	7	2,442	7	2,442	7	2,442	7	2,030
二 塚	18	1,507	18	1,539	19	1,574	19	1,599	19	1,622
安 原	30	3,117	30	3,163	32	3,140	33	3,069	33	3,093
大 徳	16	6,628	16	6,690	16	6,725	16	6,800	16	6,858
金石町	44	2,579	44	2,595	44	2,566	44	2,559	44	2,532
大野町	12	656	12	669	12	679	12	676	12	680
小立野	35	2,747	35	2,745	35	2,691	35	2,685	35	2,661
崎 浦	29	4,479	29	4,370	29	4,372	29	4,455	29	4,453
内 川	9	235	9	229	9	234	9	234	9	233
犀 川	25	1,601	25	1,619	25	1,614	25	1,618	25	1,626
湯 涌	21	293	21	289	21	294	21	291	21	291
田 上	24	2,988	24	3,095	24	3,173	26	3,261	26	3,407
東浅川	14	218	14	219	14	217	14	219	14	219
俵	6	86	6	90	6	90	6	90	6	90
医王山	6	209	6	204	6	203	6	198	6	198
森 本	9	1,950	9	1,965	9	1,971	9	1,993	9	2,001
花 園	26	932	26	934	26	942	26	971	26	978
湖 南	7	1,401	7	1,397	7	1,394	7	1,396	7	1,399
薬師谷	17	745	17	747	17	744	17	749	17	752
三 谷	23	433	23	434	23	458	23	433	23	445
合計	1,351	137,362	1,352	136,534	1,353	137,039	1,359	137,706	1,360	137,850

年度 枚下・地区	平成25年		平成26年		平成27年		平成28年		平成29年	
	町会数	世帯数	町会数	世帯数	町会数	世帯数	町会数	世帯数	町会数	世帯数
野 町	32	1,673	32	1,639	32	1,616	32	1,587	32	1,579
弥 生	28	2,347	29	2,348	28	2,298	28	2,349	28	2,338
中村町	30	1,909	30	1,900	30	1,899	30	1,894	30	1,896
十一屋	18	3,667	18	3,596	17	3,606	17	3,535	17	3,486
泉 野	44	3,234	44	3,220	44	3,205	44	3,226	44	3,191
長坂台	11	2,895	11	2,912	11	2,938	11	2,941	11	2,984
新堅町	36	2,303	36	2,303	36	2,303	36	2,303	36	2,303
菊 川	32	2,193	32	2,176	32	2,150	32	2,148	32	2,137
材 木	51	3,041	51	3,055	51	3,063	51	3,058	51	3,045
味噌蔵	42	2,423	42	2,409	42	2,382	42	2,376	42	2,388
長 町	32	1,155	32	1,165	33	1,185	33	1,203	34	1,315
松ヶ枝	35	1,402	35	1,394	35	1,414	35	1,406	35	1,409
長土堀	28	1,463	28	1,455	28	1,453	28	1,444	28	1,441
芳 斎	33	1,377	33	1,349	33	1,352	34	1,420	34	1,424
此 花	27	730	27	773	28	835	27	829	27	826
瓢 箪	32	1,240	32	1,233	32	1,227	32	1,223	32	1,222
馬 場	29	1,237	29	1,247	29	1,228	29	1,196	29	1,181
浅野町	19	2,108	19	2,113	19	2,111	19	2,114	19	2,105
森 山	47	2,778	47	2,753	46	2,735	46	2,724	46	2,725
小 坂	20	3,178	20	3,200	20	3,229	20	3,261	20	3,280
千 坂	23	2,872	23	2,893	23	2,960	23	2,963	23	3,025
夕日寺	12	1,615	12	1,620	12	1,618	12	1,614	12	1,619
諸 江	23	3,770	23	3,744	23	3,813	23	3,889	23	3,899
浅野川	8	1,480	8	1,480	8	1,560	8	1,650	8	1,685
鞍 月	8	2,700	8	3,012	8	3,077	8	3,162	8	3,309
粟 崎	10	2,641	10	2,646	10	2,645	10	2,636	10	2,625
川 北	8	793	8	796	8	792	8	789	8	794
大 浦	6	2,398	6	2,398	6	2,414	6	2,418	6	2,435
米 丸	27	3,605	27	3,622	27	3,672	28	3,825	28	3,975
新神田	15	2,023	15	2,050	14	2,010	14	2,041	14	2,057
押 野	15	2,813	15	2,823	15	2,847	15	2,848	15	2,855
西南部	14	3,047	14	3,075	14	3,081	14	3,103	14	3,162
三 和	21	2,912	21	2,902	21	2,940	21	2,968	21	2,979
三 馬	23	4,250	23	4,263	23	4,258	23	4,253	23	4,322
米 泉	6	1,990	6	2,003	6	2,019	6	2,043	6	2,064
富 樫	32	3,300	32	3,268	32	3,246	31	3,245	31	3,229
伏見台	17	3,827	17	3,870	17	3,895	17	3,947	17	3,951
額	16	2,959	16	2,962	16	2,984	16	3,053	16	3,020
四十万	17	2,315	17	2,261	17	2,243	17	2,263	17	2,247
扇 台	11	2,661	11	2,656	11	2,673	11	2,673	11	2,706
長田町	22	1,548	21	1,549	21	1,602	21	1,590	21	1,635
戸 板	16	4,365	17	4,582	17	4,582	17	4,950	17	4,950
西	7	2,030	7	2,030	7	2,103	7	2,103	7	2,103
二 塚	19	1,655	19	1,694	19	1,717	19	1,745	19	1,787
安 原	33	3,113	33	3,067	33	3,026	33	2,978	33	2,966
大 徳	16	6,904	16	6,935	16	7,014	16	7,094	16	7,133
金石町	44	2,526	44	2,522	44	2,533	44	2,511	44	2,524
大野町	12	680	12	696	12	701	12	715	12	726
小立野	35	2,619	35	2,606	35	2,596	35	2,611	35	2,580
崎 浦	29	4,402	29	4,358	29	4,382	29	4,396	29	4,423
内 川	9	234	9	236	9	236	9	230	9	229
犀 川	25	1,615	25	1,617	25	1,619	25	1,622	25	1,623
湯 涌	21	286	21	285	21	281	21	281	21	283
田 上	28	3,515	28	3,614	28	3,663	28	3,739	28	3,821
東浅川	14	223	14	223	14	226	14	228	14	224
俵	6	91	6	91	6	91	6	91	6	91
医王山	5	190	5	190	4	187	5	189	5	193
森 本	9	1,981	9	2,025	9	2,021	9	2,027	9	2,005
花 園	26	987	25	977	25	973	25	971	25	971
湖 南	7	1,398	7	1,362	7	1,363	7	1,364	7	1,373
薬師谷	17	763	17	745	17	741	17	738	17	743
三 谷	23	432	23	435	23	434	23	432	23	437
合計	1,361	137,881	1,361	138,423	1,358	139,067	1,359	140,225	1,360	141,053

※各年度4月1日現在の届出数値

役員・事務局



会 長 西野 茂（鞍 月）前列左から3人目
副 会 長 西村 信彦（長土堀）前列左から2人目
副 会 長 中本 保（米 丸）前列左から4人目

副 会 長 野脇 格（崎 浦）前列左端
副 会 長 坂本 和紀（伏見台）後列左から3人目
会 計 森川 文博（森 本）後列左から2人目

事務局長 当田 一博
事務局員 福島 裕美

金沢市町会連合会 60周年記念事業 記念式典実行委員会



委 員 長 高島 菊丸（大 徳）前列左から2人目
副委員長 笹井 鍊造（松ヶ枝）前列左端
副委員長 桶谷 隆雄（三 和）前列左から3人目
委 員 大川 兼紀（中村町）背景の顔写真・左
委 員 中川 一成（夕日寺）後列左から3人目

委 員 西澤 寛一（粟 崎）背景の顔写真・右
委 員 山田 八郎（米 泉）後列左端
委 員 上田 幸男（田 上）前列左から4人目
委 員 中村 登（花 園）後列左から2人目

金沢市町会連合会 60周年記念事業

記念誌発行編集委員会



委員長 西川 昇（安 原）前列左から2人目
副委員長 宮口 優（新堅町）前列左から4人目
副委員長 西村 義雄（新神田）背景の顔写真
委 員 山本 信一（此 花）後列左から3人目
委 員 清水 満（馬 場）後列左から2人目

委 員 山田 博秋（浅野川）後列左から4人目
委 員 若松 恵美子（三 馬）前列左から3人目
委 員 山本 正直（湯 涌）後列左端
委 員 小谷 達郎（湖 南）前列左端

事務局長 当田 一博

あ と が き

金沢市町会連合会の創立60周年に当たり、記念誌『^{あした}未来に向かう10年の歩み』を刊行することになりました。

ここに、当町会連合会の各種事業等々に携わってこられた先達に敬意と感謝の意を表します。

この記念誌をどのように編集構成するか、私たち「金沢市町会連合会60周年記念誌発行編集委員会」の上記に掲載する素晴らしい委員9名と金沢市町会連合会事務局長、加えてアドバイザーの能登印刷(株)編集スタッフとで、沢山の知恵とアイディアを出し合う会議を昨年から月1回ペースで開催し、侃々諤々の中で構想を練りました。その結果、創立から50周年の記念誌が節目としてまとめられていることから、基本的に創立51周年から10年間の歷程をまとめることとしました。

編集作業につきましては、期間の短さはありましたが委員全員の熱い努力によって、どうにか年内の発刊に間に合い感謝の気持ちで一杯であり、本当にありがとうございました。

今、金沢市町会連合会は「新生期」を迎え、市民がともに考え・ともに実践する『市民参加型』とも言えるべき新しい事業の取組みを試みてきました。一方、当町会連合会を組織する市内62校下（地区）町会連合会では、他都市の地区・町会へ発信でき得る各種事業の取組みにおいて、地域住民の方々が主体となって連携し、その地域特性を生かした事業運営が展開されており、このことは他に類をみない実績を残していると言っても過言ではないと思料されます。

これからも、次の節目であります“^{あした}未来の創立70周年”を見据えた、金沢市町会連合会の各種事業運営に、より一層のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

おわりに、本誌の発刊に当たり、ご多用にもかかわらず、ご寄稿いただきました関係の皆様方に心から深く感謝し厚くお礼を申し上げます。

金沢市町会連合会60周年記念誌

平成29(2017)年12月21日発行

編 集 記念誌発行編集委員会

発 行 金沢市町会連合会

〒920-0863 金沢市玉川町2-2

玉川こども図書館内

TEL 076(220)2466

FAX 076(222)0119

制作・印刷 能登印刷株式会社